大和高田市都市計画マスタープラン
＜資料編＞

大和高田市都市計画マスタープラン ＜資料編＞
目　次

１．現況 1

１）位置・地勢 1

（1）大和高田市の位置 1
（2）大和高田市の面積・広さ・地形 1
（3）河川の状況 2
（4）大和高田市周辺の広域交通網 3
（5）大和高田市の歴史 4
（6）大和高田市の歴史文化資源 6
（7）大和高田市の市街地形成過程 7

２）人口 9

（1）人口の推移・将来推計人口（年齢３区分） 9
（2）人口の増減（県全体と比較） 9
（3）老年人口割合の推移（県全体と比較） 10
（4）世帯数・世帯人員の推移 10
（5）世帯数の推移（県全体と比較） 11
（6）通勤・通学流動の状況 11
（7）地域別人口・世帯数の推移 12

３）各種法規制の状況 13

（1）「奈良県土地利用基本計画」を踏まえた法規制の状況 13
（2）都市計画法規制の状況 14

４）土地利用 17

（1）土地利用現況 17
（2）土地利用変化の概況 19
（3）空き家の状況 20

５）産業構造 22

（1）産業別人口・事業所数 22
（2）一次産業の推移 23
（3）二次産業の推移 24
（4）三次産業の推移 25

６）市街化動向 27

（1）DID（人口集中地区）人口等の推移 27
（2）人口密度の状況 29
（3）開発の動向 31

７）交通体系 34

（1）公共交通の路線状況 34
（2）公共交通の徒歩圏 35
（3）公共交通の利用状況 36

８）都市基盤 38
（1）幹線道路の状況 38
（2）都市計画道路の状況 40
（3）都市計画公園の整備状況 41
（4）上水道の整備状況 42
（5）公共下水道の整備状況 42
９）公共公益施設 43
（1）公共施設の状況 43
（2）生活サービス施設の状況 44
10）都市づくりに関する主要なプロジェクト 45
（1）まちづくりに関する包括協定 45
（2）シビックコア周辺地区まちづくり基本構想・基本計画 45
11）災害・防災 46
（1）洪水 46
（2）地震 47
（3）土砂災害 47
12）財政 48
（1）市の財政状況 48
（2）地価公示価格と増減・推移 49

２．上位計画 50
（1）大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 50
（2）大和高田市まちづくりの指針 53
（3）大和高田市人口ビジョン及び第２期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 54
（4）大和高田市国土強靱化地域計画 55

３．市民アンケート 56
（1）調査概要 56
（2）定住意向 57
（3）まちの魅力・課題 58
（4）住環境の満足度・重要度 60
（5）まちの将来像 63
（6）今後の市の施策 64

４．市民ワークショップ 66
（1）開催目的 66
（2）実施概要 66
（3）開催方法 66

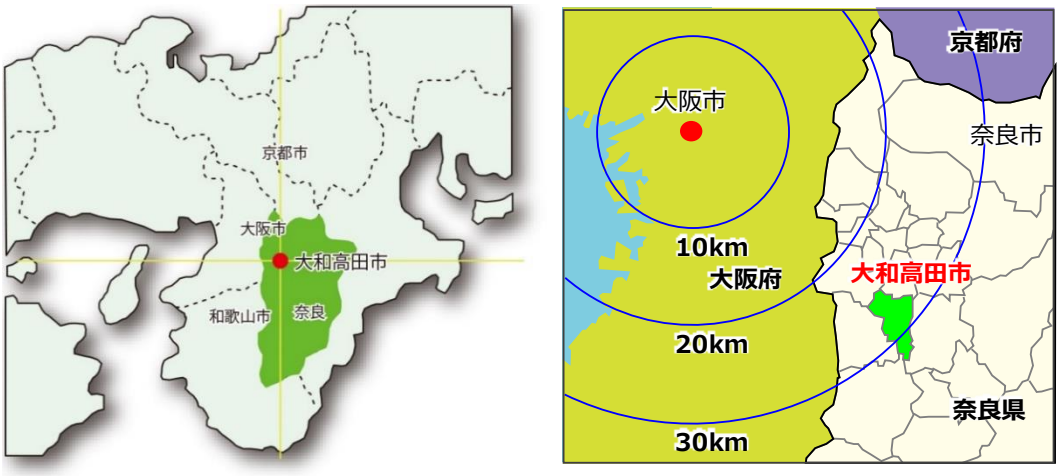
【付属図】 75

1．現況

1）位置・地勢

（1）大和高田市の位置

本市は、奈良県の北西部、大和盆地の西南部に位置し、東は橿原市、南は御所市、西は葛城市、北は香芝市及び広陵町と隣接し、市の西方に金剛葛城山系を望みます。



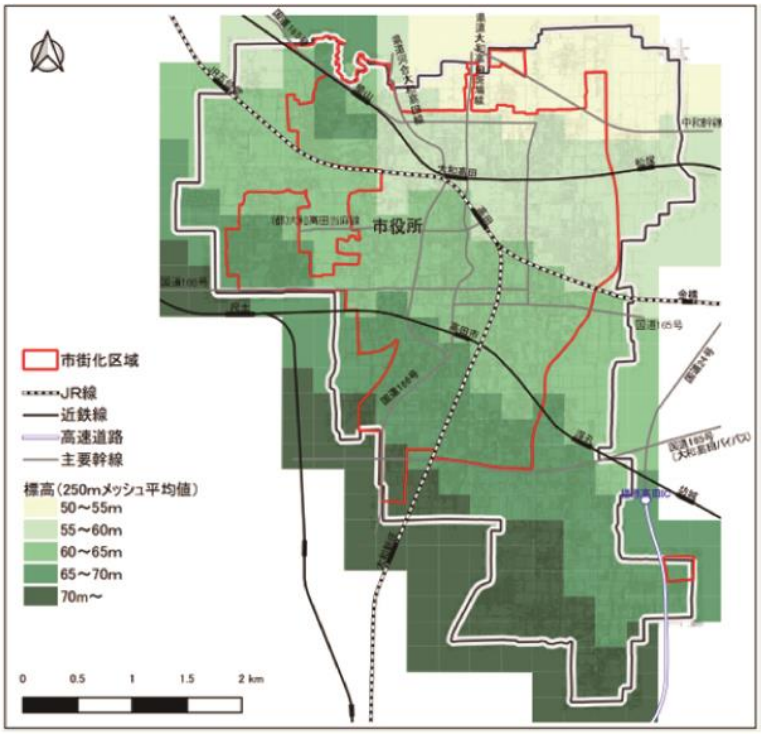
■大和高田市の位置

資料）大和高田市ホームページ 他

（2）大和高田市の面積・広さ・地形

本市の地形は、市北部に位置する標高 70～80m の馬見丘陵のほかはほぼ平坦で、市域の北から南に向けて段階的に標高が高くなります。南北方向に高田川や葛城川が流れており、市街地の周辺部には田園地帯があります。

市域は 16.49km^2（周囲 26.4km、東西 4.8km、南北 5.1km）と比較的小さな自治体です。

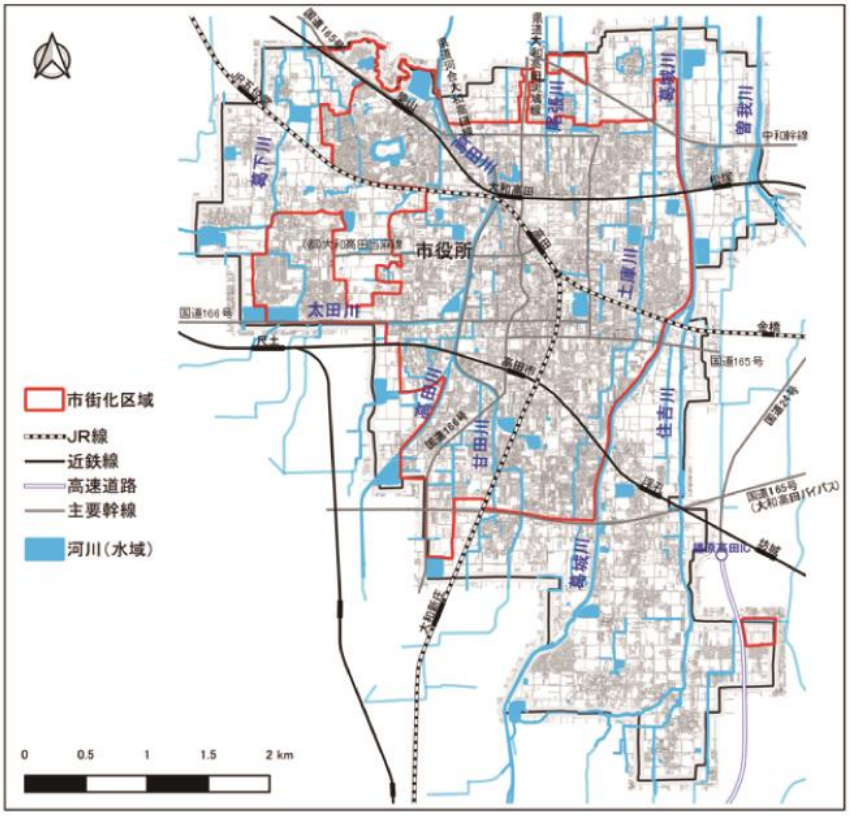


資料）国土交通省「国土数値情報」

（3）河川の状況

主な河川として、南北方向に葛城川や高田川、東西方向に太田川などが流れています。

本市は、河川が豊かである反面、台風や大雨等の際には水害が懸念されます。



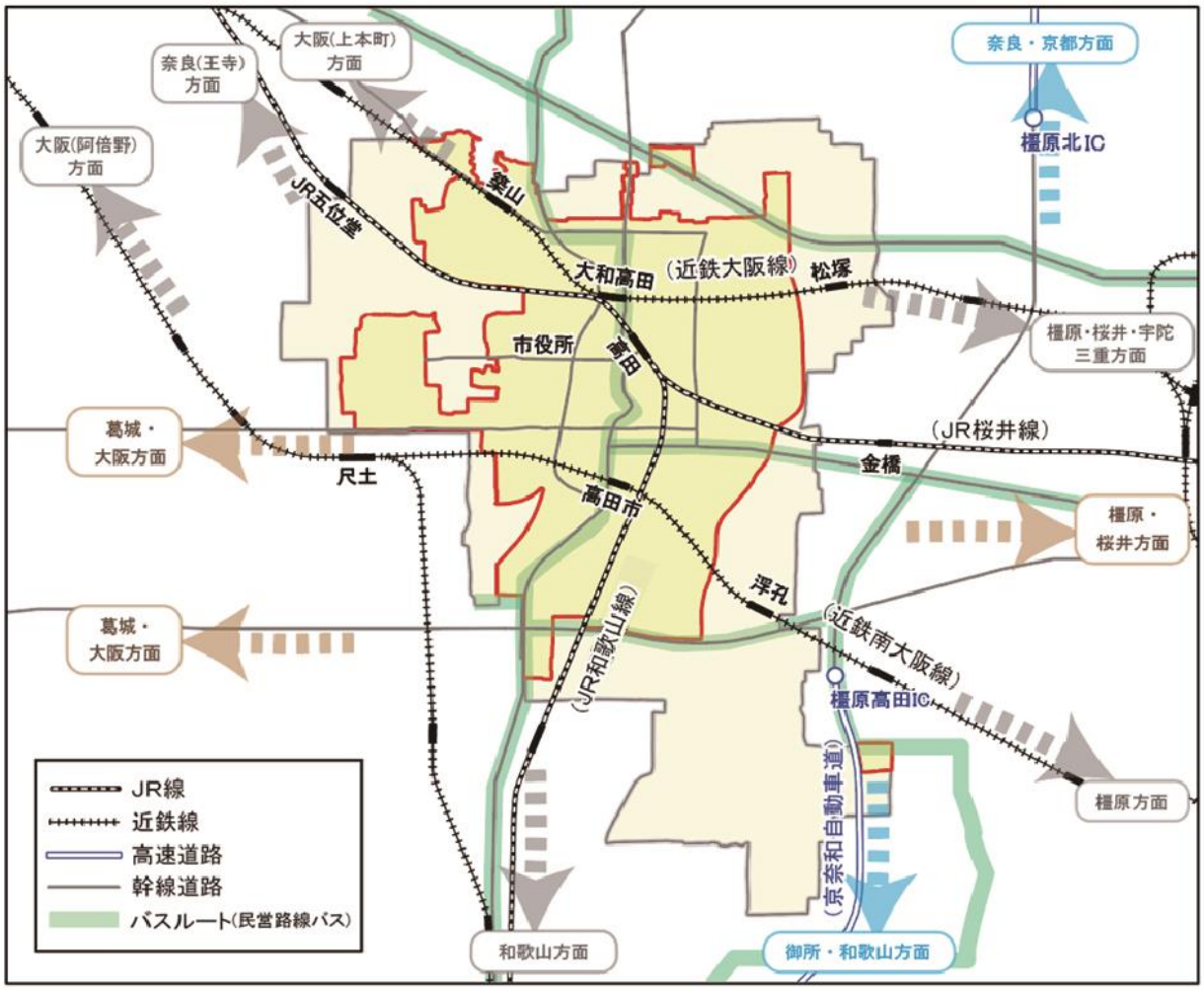
■主な河川

資料）国土交通省「国土数値情報」

（4）大和高田市周辺の広域交通網

本市は、古くから交通の要衝であり、現在も鉄道網などによって奈良市や和歌山市、大阪市、京都市などと結ばれ、奈良県の中南和地域の経済・文化・行政の中心として発展してきました。特に、大阪大都市圏へは約 30 分程度で連絡する好立地にあります。

鉄道は、ＪＲ線（和歌山線・桜井線）、近鉄線（大阪線・南大阪線）が走り、交通至便な都市です。また、本市の東側には京奈和自動車道が位置し、高速道路ネットワークの整備が進んでいます。



■広域交通網図

（5）大和高田市の歴史

①原始から古代

大和高田に人々が暮らしはじめた痕跡は発掘調査の成果によると後期旧石器時代まで遡ることができます。本市の西に位置する二上山は石器の原材料となるサヌカイトの原産地で、池田遺跡や岡崎遺跡からは国府型ナイフ形石器やその製作過程を復元できる石器が多数発見されています。

縄文時代は池田遺跡から草創期～晩期に至る土器や石器が出土しているものの、いまだ集落の発見には至っていません。その他、西坊城遺跡では後期～晩期の土器や土器棺が出土しています。

弥生時代は京奈和自動車建設に伴う川西根成柿遺跡の発掘調査において前期の環濠集落が確認され、当該期の遺物が多く出土しました。なかでも、木製農具である広鍬の未成品や石器の未成品が出土したことで、当地で農具や石器製作が行われていたことが確認されました。また、池尻遺跡では中期および後期末～古墳時代前期の方形周溝墓が確認され、多くの遺物が出土しました。

市北西部には馬見古墳群の南端で最大規模を誇る前方後円墳、築山古墳（全長 210m）が所在しており、築造時期は 4 世紀末と考えられています。築山古墳の周辺には、北にかん山古墳（径 50m）、東にコンピラ山古墳（径 95m）、南西に茶臼山古墳（径 50m）と、規模の大きな円墳が点在しており、築造時期はいずれも５世紀前半と考えられています。

総合福祉会館（ゆうゆうセンター）の建設に伴い発掘調査が実施された池田遺跡の調査では、11 基の埋没古墳が発見されました（池田古墳群）。古墳が築造された期間は 4 世紀後半～6 世紀前半にわたります。周濠からは多量の円筒埴輪や形象埴輪が出土しましたが、なかでも池田 9 号墳（方墳、一辺 17m）から出土した靫を背負った男性の埴輪（靫負埴輪）は特筆される存在です。

大和高田市文化会館（さざんかホール）のある馬冷池付近に所在する本郷遺跡では、沼池状の落ち込みから奈良時代～平安時代の土器や土馬が出土しています。また市場遺跡では、古墳時代前期～奈良時代の遺物を含む自然河道が検出され、銭貨（和同開珎および萬年通寶）や土馬が出土していることから、水辺の祭祀が行われていたと考えられています。

平安時代以降、本市域は平田荘という大荘園に含まれていました。文献から当初は摂関家の領地であったことが窺え、その後は興福寺一乗院の領地となったことが分かります。なお、「高田」という地名は鎌倉時代の文献から初めて確認することができます。

②中世

中世には、争乱の続くなかで集落の形態も大きく変わりました。荘園内に散在していた小集落が自衛のために一箇所に集まり、寺社を取り囲んだ自衛のための環濠集落へと変貌していきます。特に県内の中心部には濠（堀）に囲まれた集落が多く、市内でも有井地区をはじめとして松塚地区、土庫地区、藤森地区、池尻地区、礒野地区などに見ることができます。しかし現在は水利使用の変化や宅地開発などによって往時の景観を失いつつあります。

室町時代には、有井城主であった當麻為貞が室町幕府第 6 代将軍足利義教の命によって高田城を築城（永享 4 年（1432 年））しました。織田信長の破城令（天正 8 年（1580 年））によっ

て取り壊されるまでの約 150 年間、當麻氏（在地名をとって高田氏を称する）は大和武士として活躍しました。

慶長年間（1596 年～1615 年）には、花内川（通称「中央道路」、県道 5 号線）の西側に寺内町が作られました。寺内町とは一向宗（浄土真宗）の寺院を中心に作られた商工業者の町です。この地に慶長元年（1596 年）、正行寺が年貢の納入を請け負う請所として開かれたことに始まります。その後、慶長 5 年（1600 年）に本願寺第 12 世准如によって御坊（専立寺）が創建され、領主であった桑山氏が一向宗（浄土真宗）に帰依する商人たちを集めて商いの町として発展させ、江戸時代を通じて賑わいを増していきました。

③近世、明治以降

江戸時代に入ると、専立寺の周辺を中心に農産物や物資を供給するための小売商・卸問屋が置かれ、町屋や民家も建てられて寺内町が形成されました。その後、寺内町は周辺村落の経済的中心となり、商都高田の母体となっていきます。

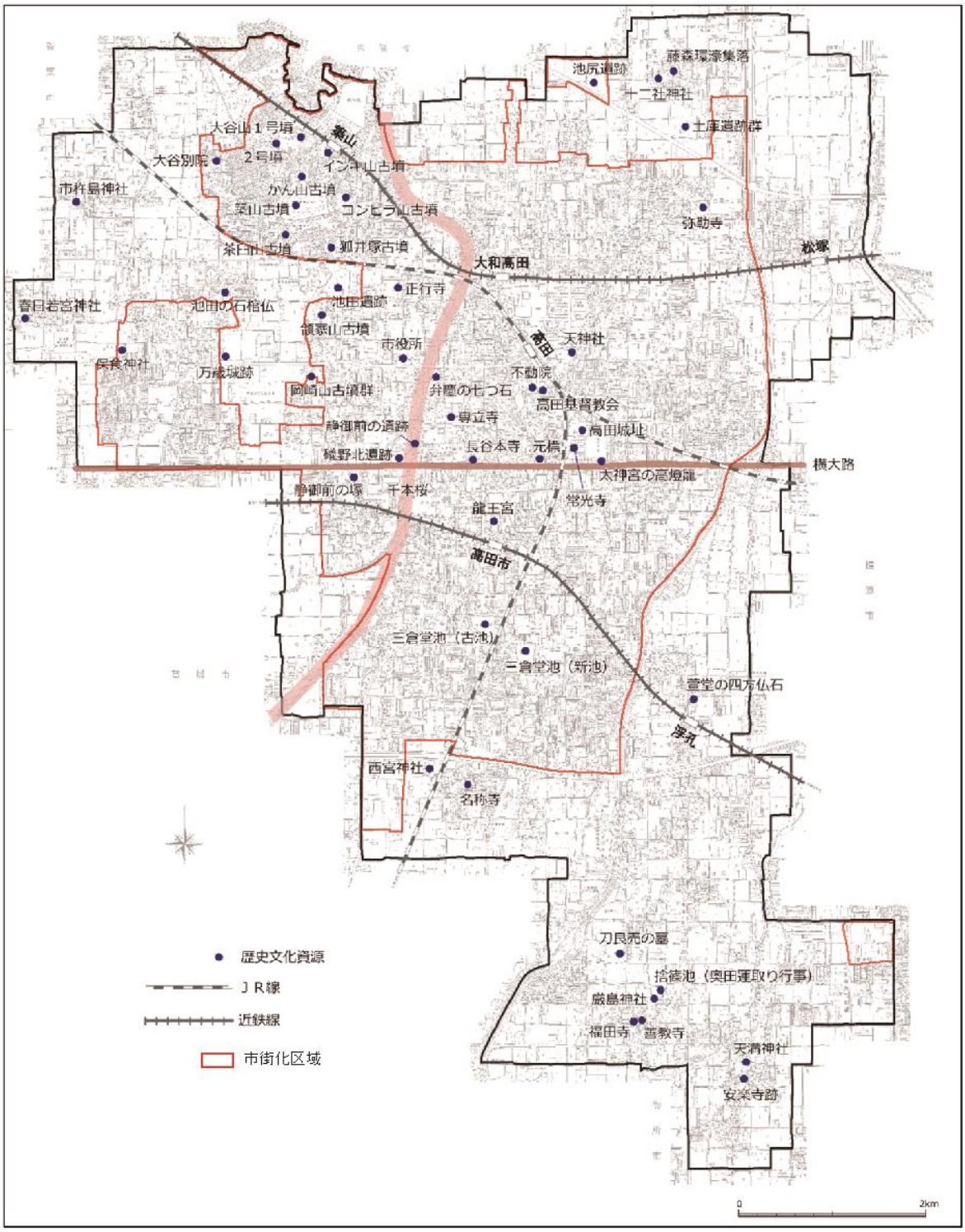
農業では、ため池や灌漑用の井戸など多くの農業用水施設が整備され、中期以降はそれまでの米麦を中心とする農業経営から用水不足を緩和する方策として綿花や菜種などの特産品栽培が盛んに行われるようになりました。特に、綿作は大和木綿の産地として知られ、後年、メリヤス・靴下製造や紡績等の繊維工業が発展する基礎となりました。

明治以降、本市は奈良盆地南部の商工業の中心地として発展し、明治 22 年（1889 年）4 月の市町村制の発布により高田町として町制を施行、昭和 2 年（1927 年）には土庫・松塚組合を編入、昭和 16 年（1941 年）に磐園・浮孔村を編入し、昭和 23 年（1948 年）の市制施行により大和高田市となりました。昭和 31 年（1956 年）に陵西村、昭和 32 年（1957 年）に天満村と池尻・藤森地区を編入して現在の市域となっています。

（6）大和高田市の歴史文化資源

本市には、国指定重要文化財である「弥勒寺木造弥勒仏坐像」や「不動院本堂」、日本遺産に認定された「横大路」など、数多くの歴史文化資源を有しています。

また、高田川の「高田千本桜」は美しい桜のトンネルが続き、ライトアップされた夜桜を見に訪れる観光客など、奈良県を代表する桜の名所になっています。



■歴史文化資源分布図

資料）大和高田市資料

（7）大和高田市の市街地形成過程

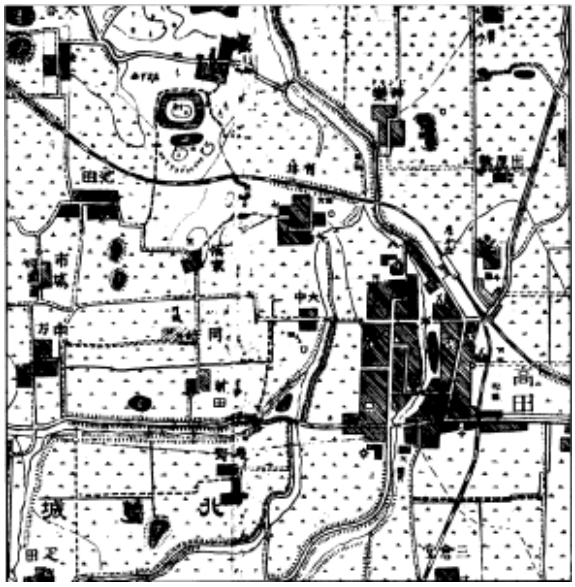
①～明治 30 年代（P75. 付属図参照）

・本市は、河内から竹内峠を通り、八木へ続く横大路（旧伊勢街道）と、奈良から大和郡山を経て御所・五條に続く下街道が交差する付近に陸上交通の要所として発達しました。

・明治 21 年に高田町として町制が施行されました。当時の市街地は、旧高田川の両岸を挟んで東側は本郷通り、西側は寺内町を発端とする本町の二筋を中心として形成され、商店街の原形がつくられました。

・鉄道は、大阪鉄道（現 JR 和歌山線）が明治 24（1891）年に王寺ー高田間に開通し、市内に高田駅が開設されました。

・明治 29（1896）年、高田駅東側に奈良県の工業近代化の先駆ともなった紡績工場（後の大日本紡績工場･ユニチカ）が設立されました。



明治 30（1897）年頃の大和高田市中心部

出典）山口恵一郎 編「日本図誌大系 近畿Ⅱ（普及版）」1973, 朝倉書店

・市街地中央部では、馬冷池南側の古川橋通りと北側の天神橋筋が本町・市町を東西に結んでおり、特に天神橋筋は高田駅の開設とともに、町並みも発達し、商店街として活況を呈しました。

②大正～昭和初期（P75. 付属図参照）

・市街地の中心部を流れていた高田川は西側に付け替えられ旧高田川は南北を貫通する中央道路となりました。

・大正 14（1925）年に市街地の北端を通過する近鉄大阪線の大和高田駅が開設され、昭和 2 年に大阪と結ばれました。また、昭和 4（1929）年には近鉄南大阪線が開通し、市街地の南端に高田市駅が開設され、両駅前に商店街が形成されました。市街地の範囲は、横大路より南側にも拡大し、高田市駅付近まで連なることとなりました。

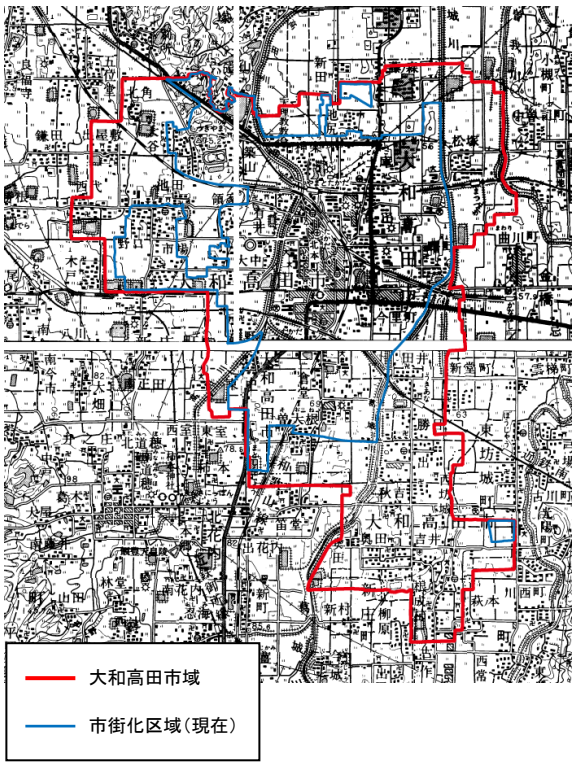
・交通機関の発達による大阪との関係の緊密化により、大正末期から昭和にかけて、ゴム、ボタン、メリヤス、靴下製造など、紡績業以外にも工業が発展し、県下第一の産業都市となりました。

昭和 22（1947）年頃の大和高田市中心部

出典）山口恵一郎 編「日本図誌大系 近畿Ⅱ（普及版）」1973, 朝倉書店

③戦後～昭和 40 年代

・本郷通りと本町、市町を核として、高田駅、大和高田駅、高田市駅の駅前商店街の発達により、中心部は商業市街地が形成されました。
・高田駅より東側は、工場が複数立地するなど工業市街地として発展しました。
・大都市である大阪の過密化による郊外のベッドタウン化に伴い、特に市北部、西部において宅地化が進み、周辺の広陵町などとともに、住宅地としての性格を強めています。
・中心市街地の周辺部では、現在の市街化区域内の中にも田畑がみられます。

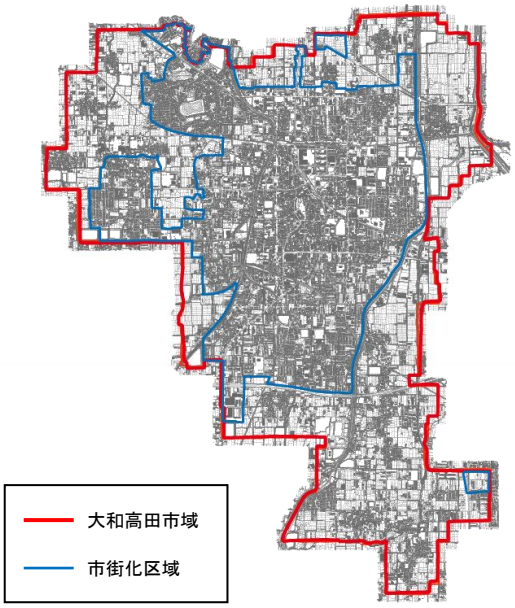


昭和 43（1968）年頃の大和高田市全域図

出典）山口恵一郎 編「日本図誌大系 近畿Ⅱ（普及版）」1973, 朝倉書店より一部加工

④昭和後期～現在（P76. 付属図参照）

・本市の産業、商業の発展に寄与したユニチカ高田工場は、昭和 52（1977）年に全面閉鎖され、跡地は大型商業施設や総合体育館、マンション群に姿を変えました。
・バブル期までは高い住宅需要を背景に、大阪都心部への通勤利便性から平成 7(1995) 年まで人口が増加し続け、概ね現在の市街地の区域が形成されました。
・現在、市街化区域内の概ね全域が宅地となっており、県下で最も人口密度の高い市となっています。



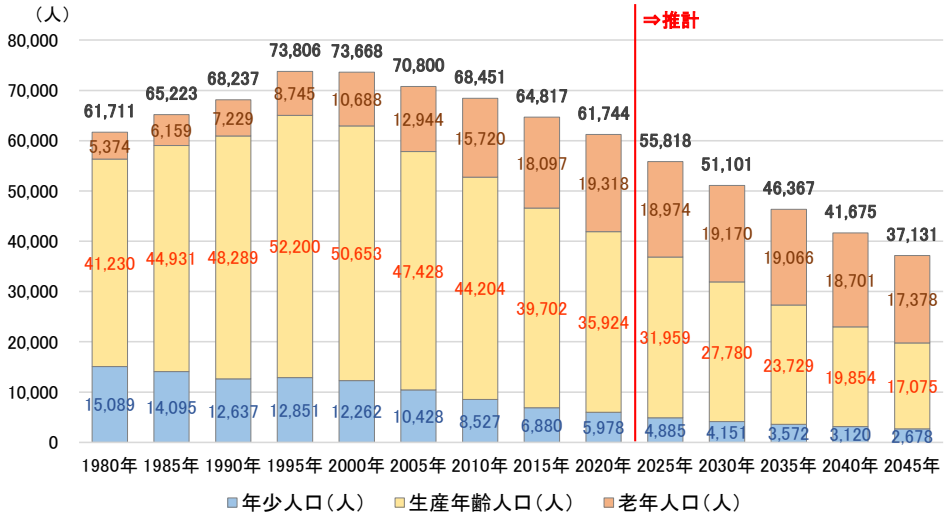
現在の大和高田市全域図

２）人口

（1）人口の推移・将来推計人口（年齢３区分）

・総人口は 1995 年をピークに減少が続いている。
・年少人口・生産年齢人口はすでに減少。老年人口は 2035 年に減少局面に入る。

大和高田市の総人口は、1995 年の 73,806 人をピークに減少傾向にあります。2020 年現在の総人口は 61,744 人であり、2045 年には 37,131 人に減少すると予測されています。年少人口は一貫して減少し、生産年齢人口は総人口と同様に 1995 年をピークに減少しています。老年人口は増加傾向にあるものの、2035 年には老年人口も減少することが予測されています。



■総人口・年齢３区分人口の推移

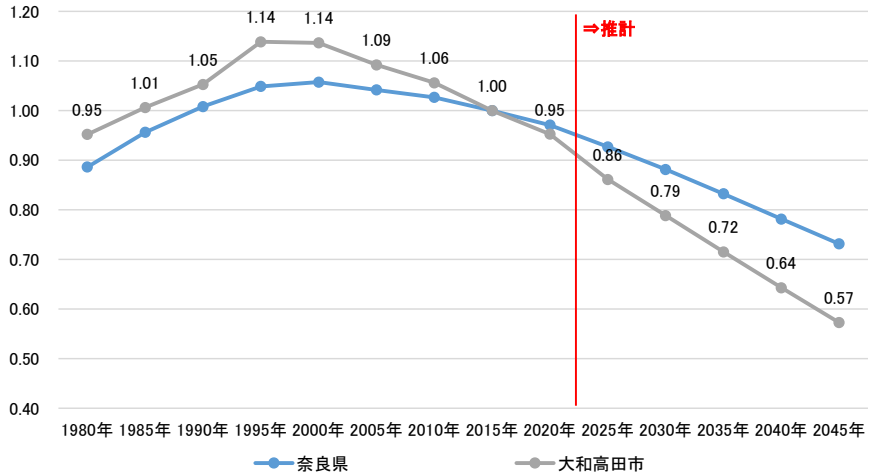
資料）総務省「国勢調査」,国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（2）人口の増減（県全体と比較）

・本市は奈良県全体と比較して人口減少傾向が顕著。

2015 年の総人口を「1.0」とし、2015 年比の推移をみると、本市の人口は、1995 年「1.14」から 2045 年には「0.57」まで減少することが予測されています。

奈良県全体と比較すると、減少傾向が特に顕著と言えます。



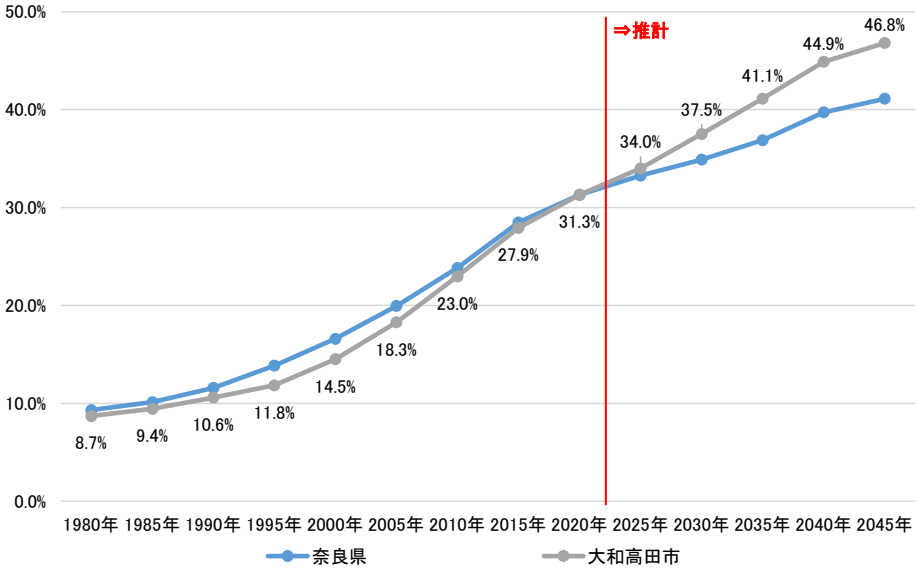
■総人口の推移（2015 年を 1.0）

資料）総務省「国勢調査」,国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（3）老年人口割合の推移（県全体と比較）

・本市の将来の老年人口割合は、奈良県全体と比較するとやや低い。

老年人口割合は、1980 年には 9.3%でしたが、2020 年には 31.3%、2045 年には 41.1%まで上昇することが予測されています。奈良県全体と比較すると、2045 年の本市の老年人口割合は奈良県全体よりやや低いと予測されています。

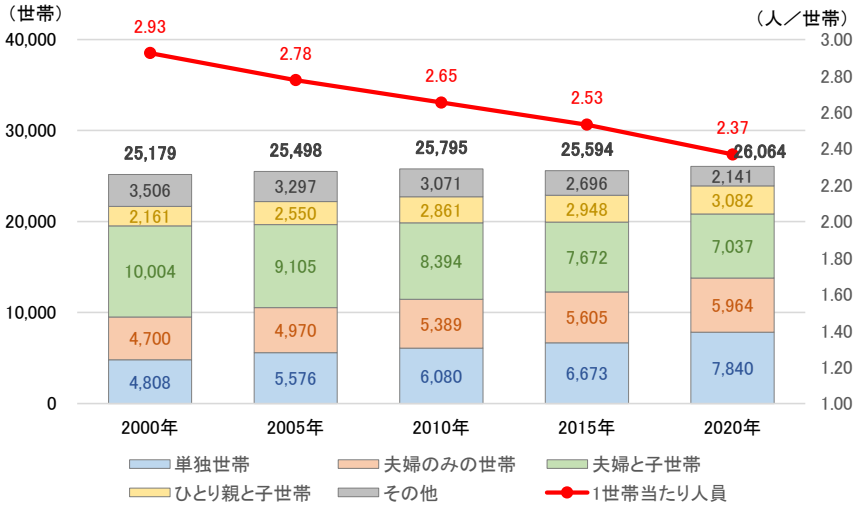


資料）総務省「国勢調査」,国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（4）世帯数・世帯人員の推移

・直近では世帯数が微増している。
・核家族化が進行し、世帯人員は一貫して減少している。

総世帯数は 2010 年から 2015 年にかけて微減しましたが、2020 年には微増し、26,064 世帯となっています。内訳は、単身世帯・夫婦のみの世帯は増加傾向ですが、夫婦と子世帯は減少傾向であり、核家族化が進行しています。世帯人員は、一貫して減少しています。



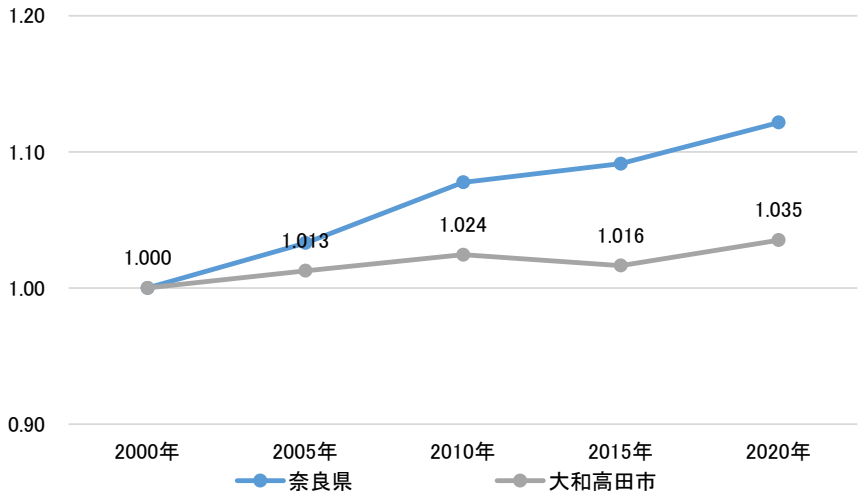
■世帯数・世帯人員の推移

資料）総務省「国勢調査」

（5）世帯数の推移（県全体と比較）

・2000 年時点より世帯数は増えているが、県全体と比較すると増加割合は低い。

2000 年の世帯数を「1.0」とし、2020 年までの推移をみると、本市の世帯数は、2020 年時点で 1.035 と微増していますが、奈良県と比較すると、県全体の世帯数は増加割合の伸びは低くなっています。



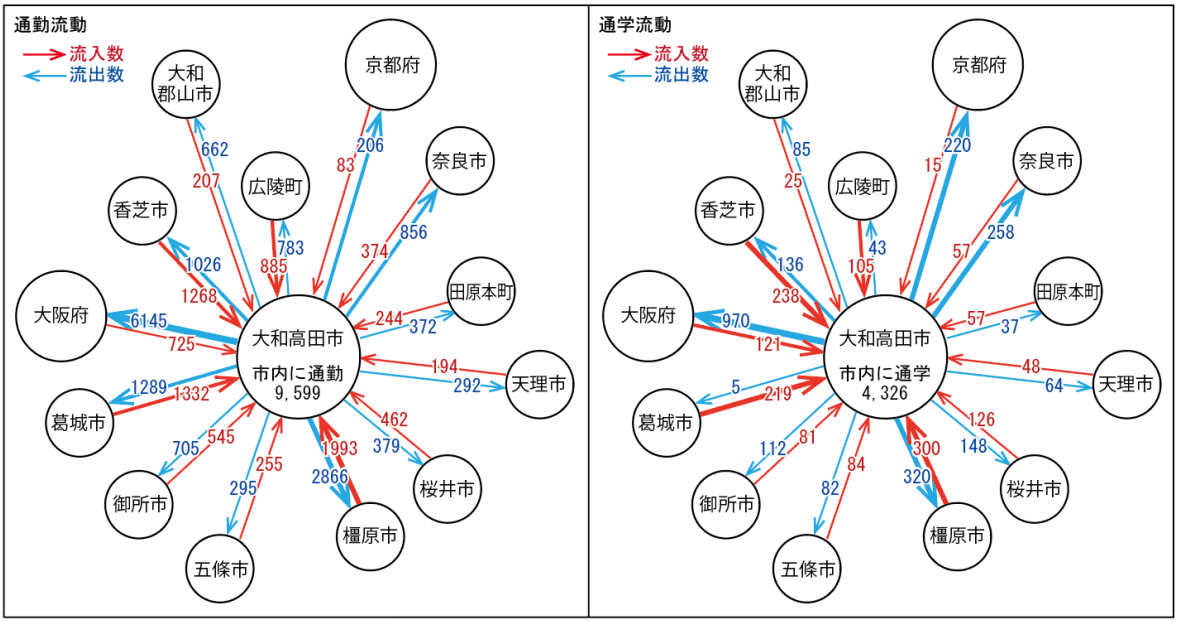
■世帯数の推移（2000 年を 1.0）

資料）総務省「国勢調査」

（6）通勤・通学流動の状況

・特に大阪府に対する通勤、通学の流出が多い。

通勤では橿原市、香芝市、葛城市、大阪府との結びつきが強く、通学では奈良市、橿原市、京都府、大阪府との結びつきが強い状況です。特に大阪府に対しては、通勤、通学とも流出が多く、本市の大阪方面へのベッドタウンとしての機能がうかがえます。



■通勤・通学流動（2015 年）

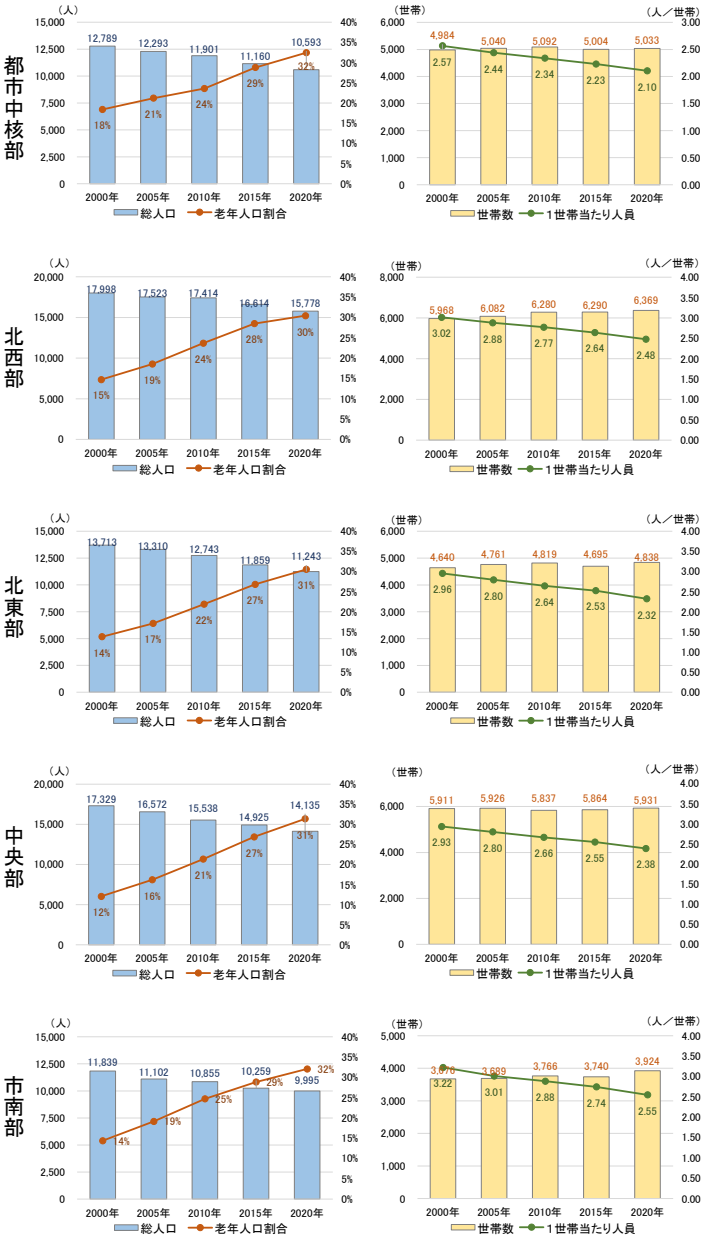
資料）総務省「国勢調査（2015 年）」

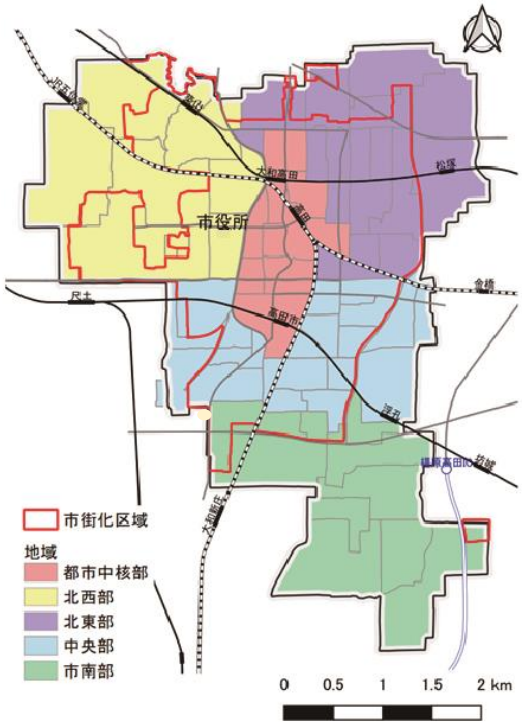
（7）地域別人口・世帯数の推移

・いずれの地域も人口は減少傾向、世帯数は増加している。

・都市中核部：人口は減少傾向です。世帯数は直近では微増しています。
・北西部：人口は減少傾向ですが、他地域と比較すると減少は緩やかです。世帯数は増加傾向が続いています。
・北東部：人口は減少傾向です。世帯数は直近では増加しています。
・中央部：人口は減少傾向です。世帯数は近年は微増傾向で推移しています。
・市南部：人口は減少傾向です。世帯数は直近では増加しています。

人口の推移　　世帯数の推移





■地域別人口・世帯数の推移　　資料）総務省「国勢調査」

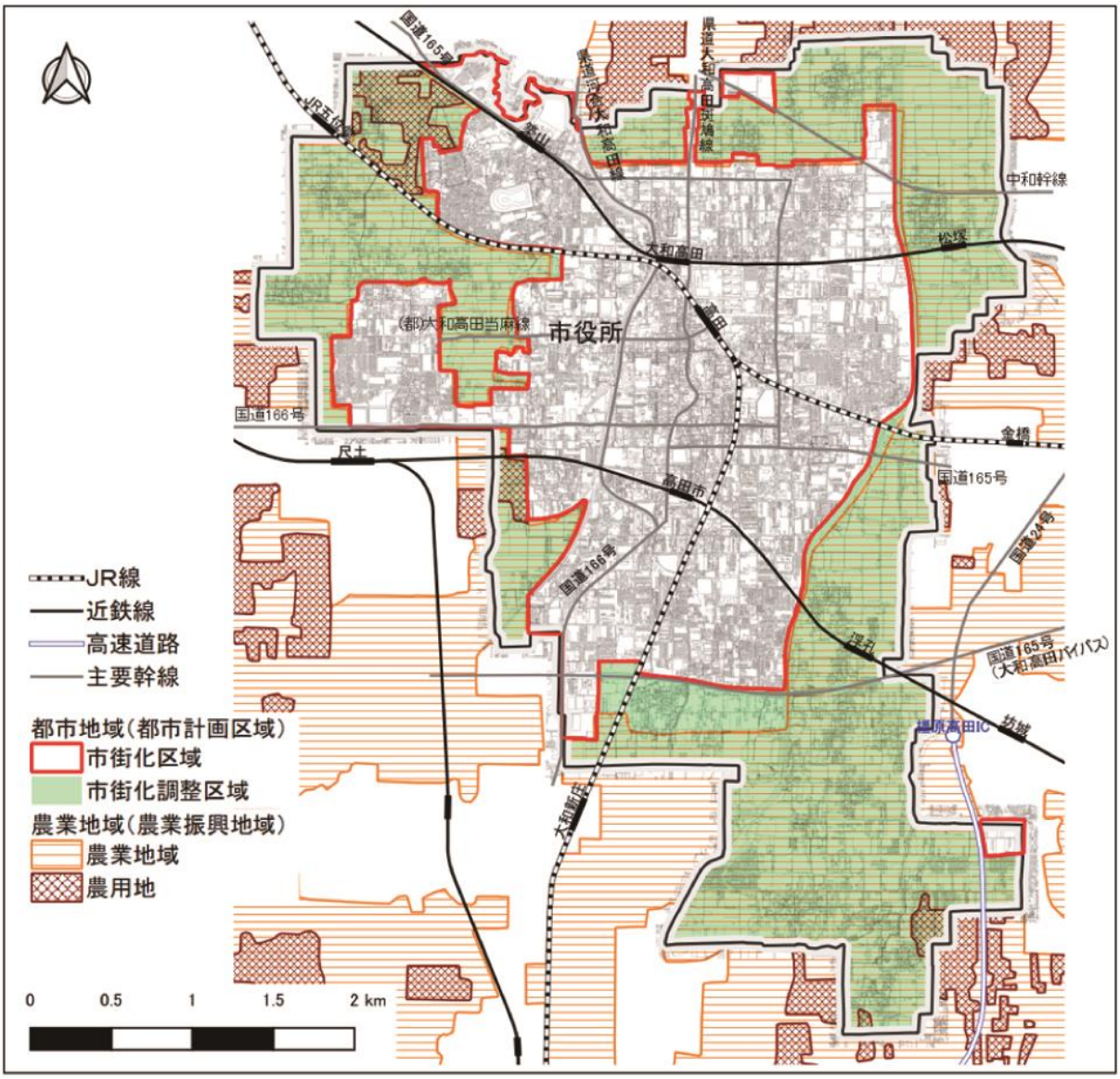
３）各種法規制の状況

（1）「奈良県土地利用基本計画」を踏まえた法規制の状況

・本市には都市地域、農業地域が指定されている。
・農業地域では、農業振興地域及び農用地区域が指定されている。

「奈良県土地基本利用計画」の５地域区分（都市地域、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域）をみると、本市では、都市地域、農業地域の指定があります。

本市は全域が都市地域であり、都市計画法に基づく線引き都市計画区域が指定されるとともに、市街化調整区域の大部分は農業地域が指定されています。農業地域は、農業振興地域の整備に関する法律に基づき農業振興地域が指定されるとともに、一部には農用地が指定されています。



■土地利用規制の状況

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」、国土交通省「国土数値情報」

（2）都市計画法規制の状況

・本市は市街化区域が約 5 割（48.3%）、住居系用途地域が占める割合が高い。
・市街化調整区域において、法 34 条 11 号の指定区域を指定している。

①区域区分の状況

本市には、12 市 12 町 1 村からなる大和都市計画区域が市全域（1,649.0ha）に指定されています。そのうち、市街化区域は 796.4ha（48.3%）、市街化調整区域は 852.6ha（51.7%）となっています。

■区域区分の状況

区　域	面　積(ha)	構成比(%)	最終決定年月日
市街化区域	796.4	48.3%	2011.06.30
市街化調整区域	852.6	51.7%	
合　計	1,649.0	100.0%	－

資料）大和高田市資料

②地域地区・用途地域の指定状況

本市には用途地域のほか、高度地区、準防火地域、生産緑地地区等が指定されています。

用途地域は、住居系が 638.3ha（80.1%）、商業系が 96.8ha（12.2%）、工業系が 61.3ha（7.7%）であり、住居系の用途地域が大部分となっています。このうち、住居系に含まれる第一種住居地域は 481.6ha あり、全体の 60.5%を占めています。

■地域地区等の指定状況

区　域	面　積(ha)	構成比(%)	最終決定年月日
用途地域	796.4	48.3%	2011.06.30
高度地区	796.4	48.3%	
準防火地域	95.5	5.8%	1992.12.25
生産緑地地区	53. 4	3. 2%	2022.11.29

■用途地域の指定状況

区　域		面　積(ha)	構成比(%)	最終決定年月日
住居系	第一種中高層住居専用地域	113.4	14.2%	2011.06.30
	第二種中高層住居専用地域	23.4	2.9%	
	第一種住居地域	481.6	60.5%	
	第二種住居地域	11.2	1.4%	
	準住居地域	8.7	1.1%	
	小計	638.3	80.1%	－
商業系	近隣商業地域	18.2	2.3%	2011.06.30
	商業地域	78.6	9.9%	
	小計	96.8	12.2%	－
工業系	準工業地域	44.9	5.6%	2011.06.30
	工業地域	16.4	2.1%	
	小計	61.3	7.7%	－
合　計		796.4	100.0%	－

資料）大和高田市資料

③地区計画の指定状況

本市には、２つの地区計画が指定されています。

■用途地域の指定状況

名称	位置	面　積(ha)	構成比(%)	決定年月日
神楽・池尻地区 地区計画	神楽・池尻の 一部	8.7	建築物の用途、敷地面積、形態、意匠等及び雨水流出抑制の浸透施設について、必要な制限を行う。	2011.05.10
菅原地区 地区計画	根成柿の 一部	5.5	建築物の用途、敷地面積、形態、意匠等及び雨水流出抑制の浸透施設について、必要な制限を行う。	2011.05.10

資料）大和高田市資料

④指定区域の状況（都市計画法第 34 条第 11 号）

市街化調整区域は原則、開発を抑制すべきとされていますが、都市計画法第 34 条第 11 号に基づく区域を指定（以下、「指定区域」）することにより、一戸建住宅及び一戸建兼用住宅の立地が可能となります。（いずれも地階を除く階数が 3 以下のもので、一戸建兼用住宅は第一種低層住居専用地域において建築できるものに限る。ただし、農地法の第 4 条第 2 項第 1 号ロに掲げる農地（甲種農地、第一種農地）は除く。）

本市においても、市街化調整区域において、指定区域を 13 か所指定しています。

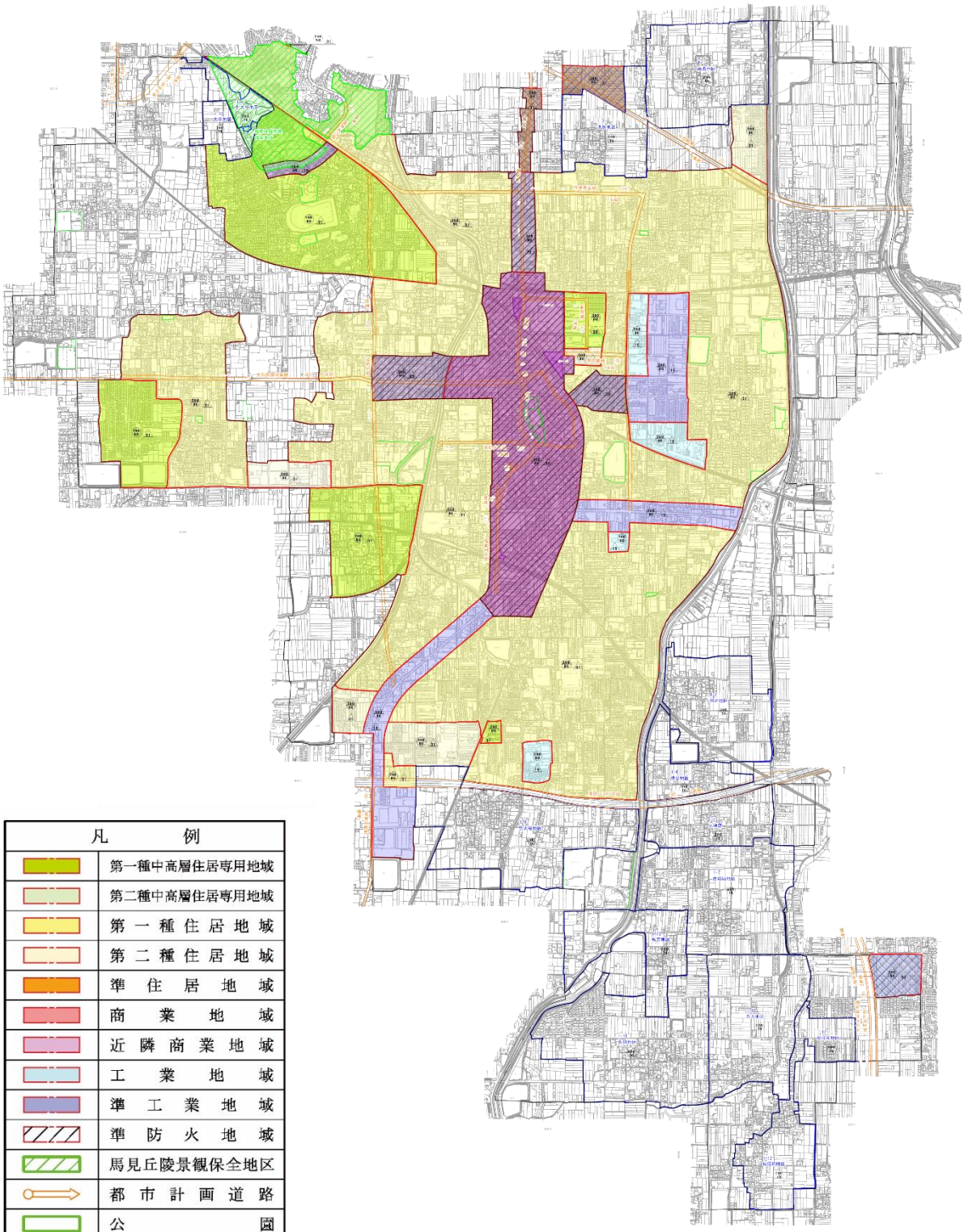
■指定区域の状況

番号	名称	指定区域 ※1	指定日
1-1	藤森地区	大字藤森の一部	平成 18 年 4 月 11 日
1-2	池尻地区	大字池尻の一部	平成 23 年 5 月 10 日
1-3	田井地区	大字田井の一部	平成 18 年 10 月 31 日
1-4	勝目地区	大字勝目の一部、大字出の一部	平成 18 年 10 月 31 日
1-5	出地区	大字出の一部、大字勝目の一部	平成 18 年 10 月 31 日
1-6	北大谷地区	大字大谷の一部	平成 22 年 10 月 12 日
1-7	西坊城地区	大字西坊城の一部、大字出の一部	平成 19 年 4 月 17 日
1-8	吉井地区	大字吉井の一部、大字根成柿の一部	平成 19 年 4 月 17 日
1-9	曽大根地区	大字曽大根の一部、曽大根1丁目の一部、大字出の一部	平成 19 年 4 月 17 日
1-10	秋吉地区	大字秋吉の一部、大字奥田の一部	平成 19 年 4 月 17 日
1-11	奥田地区	大字奥田の一部	平成 19 年 12 月 11 日
1-12	根成柿地区	大字根成柿の一部	平成 22 年 10 月 12 日
1-13	大谷地区	大字大谷の一部	平成 26 年 10 月 7 日

資料）大和高田市資料

【参考】都市計画法第34 条第11 号の規定に基づく指定区域
市街化区域に隣接し、又は近接し、かつ、自然的社会的諸条件から市街化区域と一体的な日常生活圏を構成していると認められる地域であっておおむね50 以上の建築物（市街化区域内に存するものを含む。）が連たんしている地域のうち、政令で定める基準に従い、奈良県の条例で指定する土地の区域内において行う開発行為で、予定建築物等の用途が、開発区域及びその周辺の地域における環境の保全上支障があると認められる用途として奈良県の条例で定めるものに該当しないものの開発が可能な区域をいう。

⑤都市計画総括図



凡例	
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	商業地域
	近隣商業地域
	工業地域
	準工業地域
	準防火地域
	馬見丘陵景観保全地区
	都市計画道路
	公園
	指定区域
	地区計画

この図面は、総括図面であり詳細については、1：2,500計画図を参照して下さい。

■都市計画総括図

資料）大和高田市資料

４）土地利用

（1）土地利用現況

・都市的土地利用が 63.4%を占める。
・市街化区域では宅地、市街化調整区域では農地が主であるが、市街化区域内にも農地が現存。一方、市街化調整区域内では一部宅地化がみられる。
・空地は市街化区域・市街化調整区域に関わらず無秩序に分布している。

土地利用状況は、都市計画区域全体で、都市的土地利用は 63.4%（1,046.0ha）、自然的土地利用は 36.6%（602.9ha）です。一方、可住地は 68.6%（1,131.7ha）、非可住地は 31.4%（517.2ha）です。

市街化区域では、宅地が 54.7%（住宅用地 42.4%、商業用地 7.6%、工業用地 4.7%）となっています。一方で農地も 11.0%（田 7.0%、畑 4.0%）あり、小規模な農地が点在している状況です。

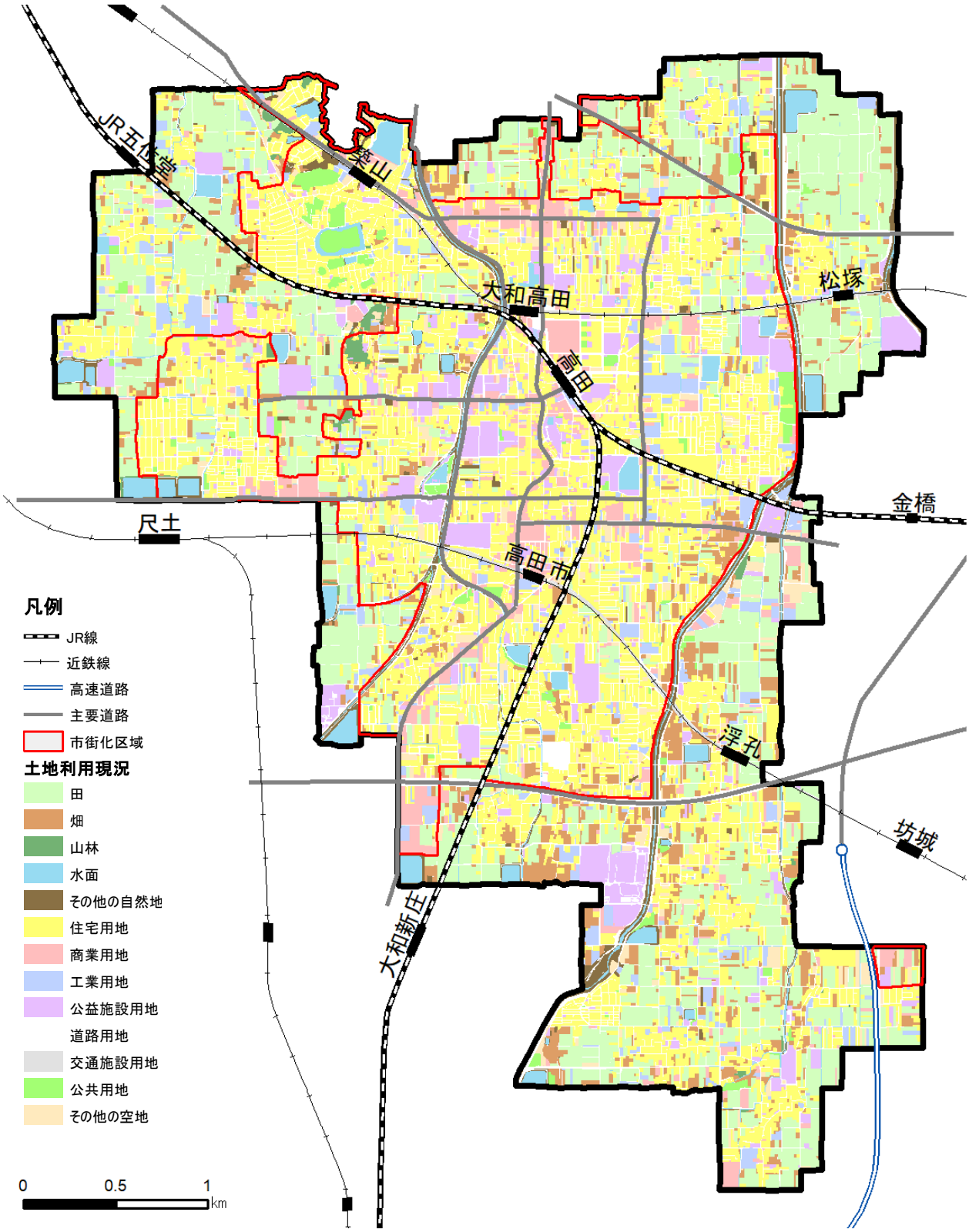
市街化調整区域では、農地が 47.4%（田 37.9%、畑 9.5%）となっており、市街地縁辺部にまとまった農地が現存している状況です。一方で宅地も 25.4%（住宅用地 19.0%、商業用地 1.9%、工業用地 4.4%）あり、主に住宅用地が市街化調整区域の一部で広がっている状況です。

近年、全国的な課題となっている空地に着目すると、「その他の空地」は 3.5%（57.9ha）であり、市街化区域・市街化調整区域に関わらず、無秩序に分布している状況です。

■土地利用別面積

土地利用区分			都市計画区域		市街化区域		市街化調整区域	
			(ha)	(%)	(ha)	(%)	(ha)	(%)
都市的土地利用	宅地	住宅用地	499.6	30.3%	337.5	42.4%	162.1	19.0%
		商業用地	77.0	4.7%	60.5	7.6%	16.6	1.9%
		工業用地	75.0	4.5%	37.3	4.7%	37.6	4.4%
		小計	651.6	39.5%	435.3	54.7%	216.3	25.4%
	公益施設用地		95.9	5.8%	53.8	6.8%	42.2	4.9%
	道路用地		199.6	12.1%	116.3	14.6%	83.3	9.8%
	交通施設用地		16.7	1.0%	12.0	1.5%	4.7	0.6%
	公共空地		24.3	1.5%	18.6	2.3%	5.6	0.7%
	その他の空地		57.9	3.5%	33.1	4.2%	24.8	2.9%
	小　計		**1,046.0**	**63.4%**	**669.1**	**84.0%**	**376.9**	**44.2%**
自然的土地利用	農地	田	379.0	23.0%	55.7	7.0%	323.3	37.9%
		畑	113.1	6.9%	32.1	4.0%	81.0	9.5%
		小　計	492.0	29.8%	87.8	11.0%	404.2	47.4%
	山林		6.5	0.4%	2.8	0.4%	3.7	0.4%
	水面		62.4	3.8%	23.4	2.9%	38.9	4.6%
	その他の自然地		42.1	2.6%	13.2	1.7%	28.8	3.4%
	小　計		**602.9**	**36.6%**	**127.2**	**16.0%**	**475.7**	**55.8%**
合　計			**1,648.9**	**100.0%**	**796.3**	**100.0%**	**852.6**	**100.0%**
可住地			1,131.7	68.6%	511.7	64.3%	620.0	72.7%
非可住地			517.2	31.4%	284.6	35.7%	232.6	27.3%

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」
注）数値は四捨五入により小数点以下第 1 位まで表示し、合計値が合わない場合がある。



■土地利用現況（2014 年）

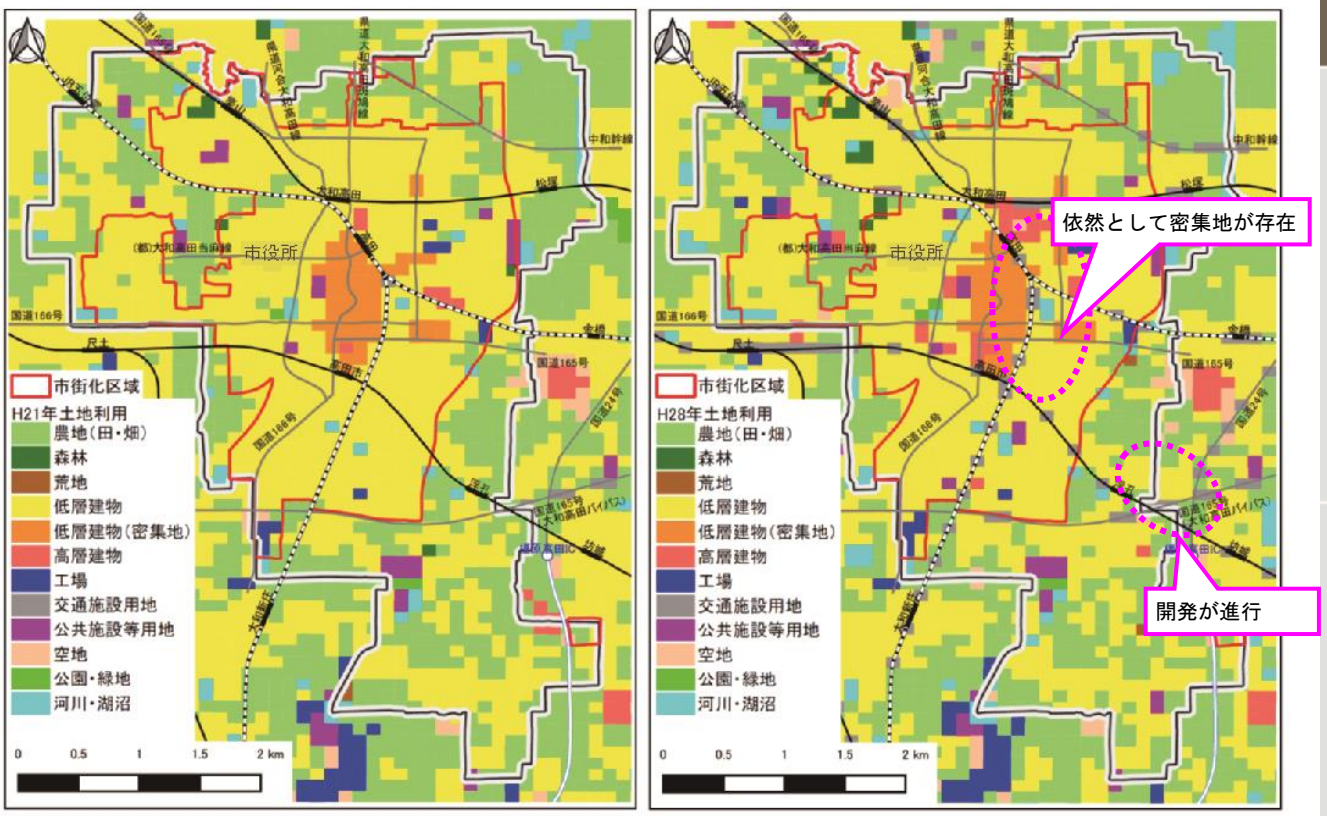
資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」

（2）土地利用変化の概況

・2009 年時点から市街化調整区域における開発は既に進行している。
・浮孔駅周辺の市街化調整区域内で開発が進行している。
・依然として、市街地中心部に低層建物の密集地が存在している。

近年の土地利用変化の概況として、2009 年及び 2017 年の 100mメッシュ土地利用を比較すると、2009 年時点から、すでに市街地縁辺部など市街化調整区域における開発が進行していることが分かります。

そのなかで、2009 年から 2017 年にかけては、浮孔駅周辺の市街化調整区域内で開発が進行しています。また、市街地中心部には、依然として低層建物による密集地が存在しています。



■土地利用細分メッシュの推移（左：2009 年 → 右：2017 年）

資料）国土交通省「国土数値情報：都市地域土地利用細分メッシュ」
※地形図（1:25,000）や衛星画像から作成されたもの

（3）空き家の状況

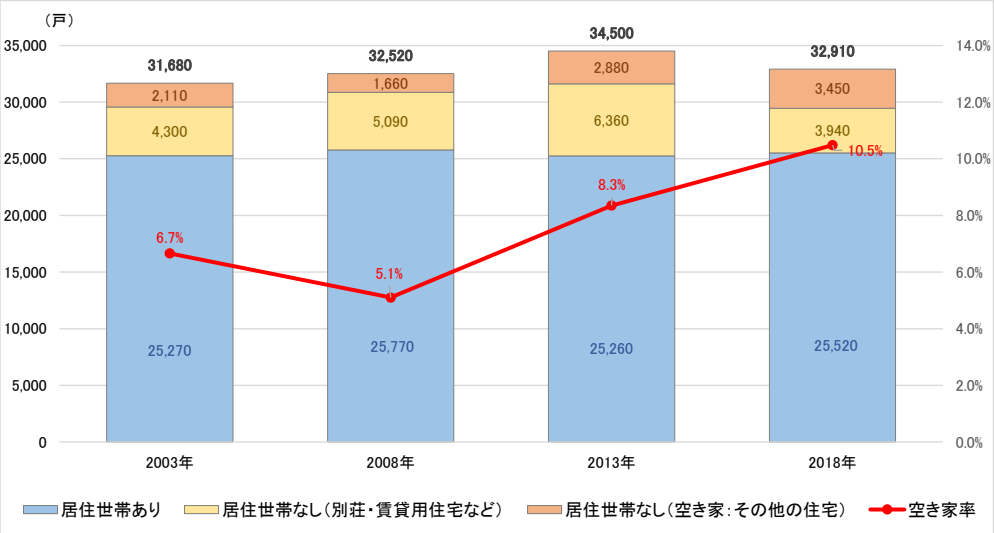
- 本市の空き家率は、全国や県と比較して特に高い。
- 三和町、内本町などの中心部や、大字市場、大字野口、大字築山などの市街地縁辺部の住宅地で空き家が多い地区がみられる。

①市全体の空き家率と全国・奈良県との比較

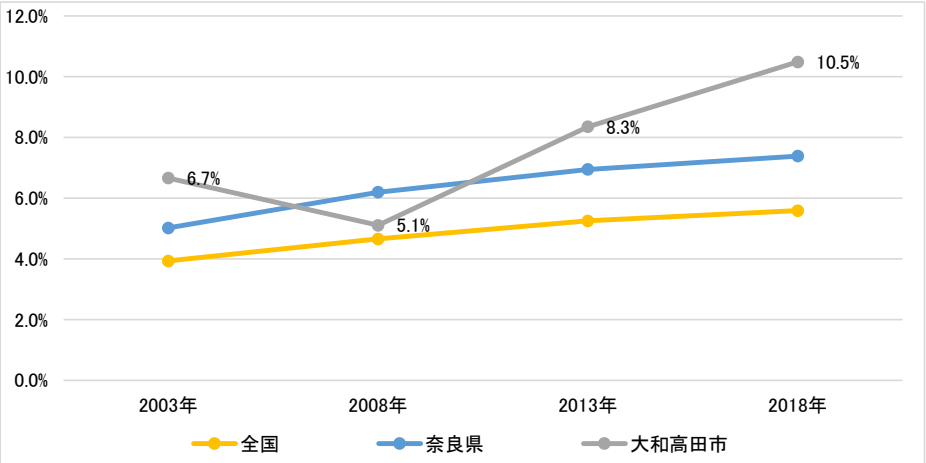
総務省の「住宅・土地統計調査」では、居住世帯の有無別に住宅数が調査されています。居住世帯なしの住宅は、別荘や賃貸用・売却用住宅として市場に出回っている住宅のほか、「その他の住宅」があり、いわゆる「空き家」と見なすことができます。

本市では、2013 年から 2018 年にかけて、総住宅数が減少していますが、空き家は増加傾向にあり、空き家率は 2008 年から年々上昇しています。

全国や奈良県と比較すると、本市の空き家率は、2008 年にいったん低下しますが、2013 年から上昇し、2018 年には特に高くなっています。空き家の発生抑制やストックの有効活用といった対策が今後の課題と考えられます。



■区分別住宅戸数と空き家率の推移

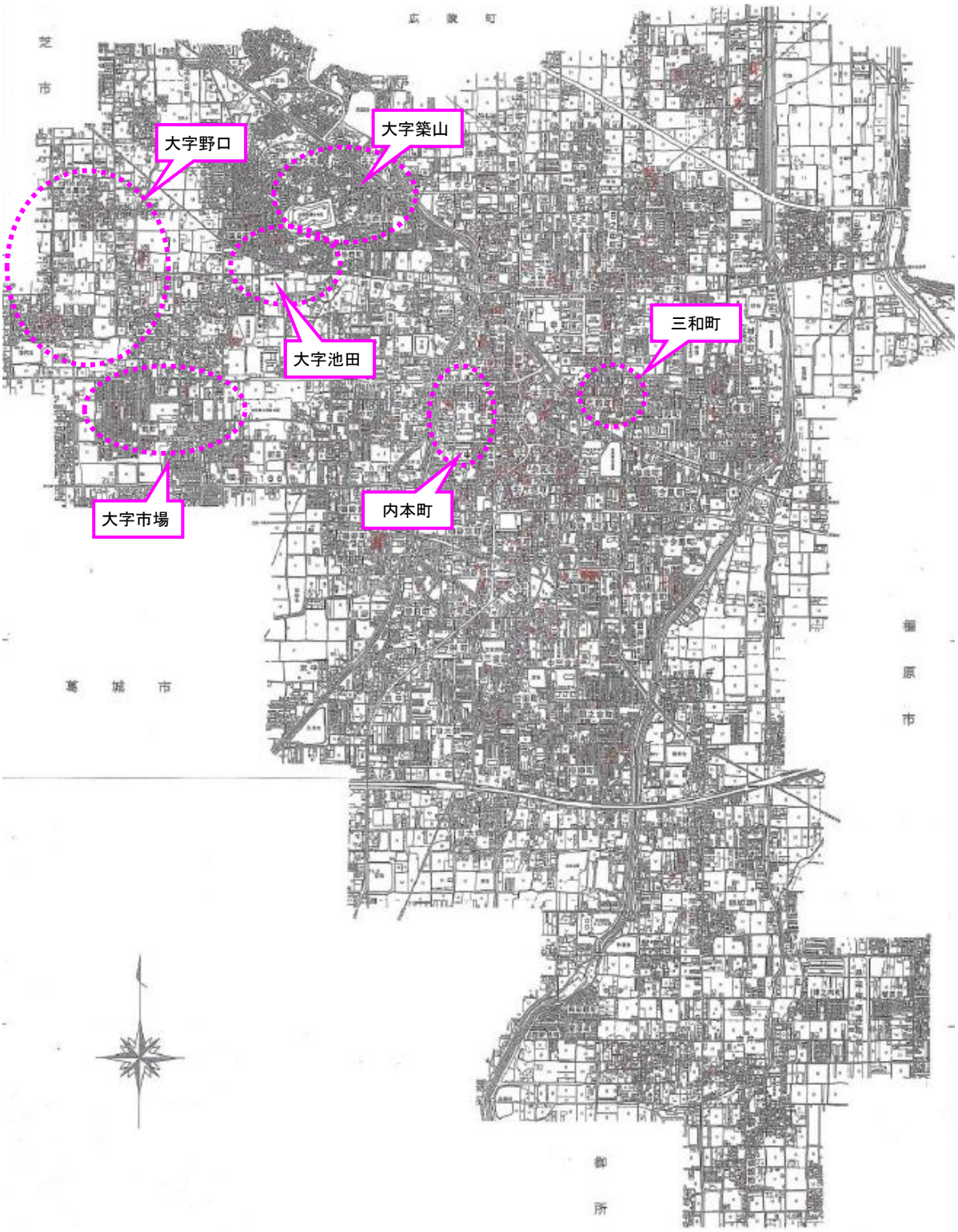


■空き家率の推移

資料）総務省「住宅・土地統計調査」

②地域別・空き家の分布状況

「大和高田市空家等対策計画」における空き家現地外観目視調査によると、本市内で空き家と判定されたものは 729 件となっています。空き家割合は大字市場、大字池田、大字野口、大字築山、内本町、三和町などで高くなっています。



■空き家分布図

資料）大和高田市「大和高田市空家等対策計画」

5）産業構造

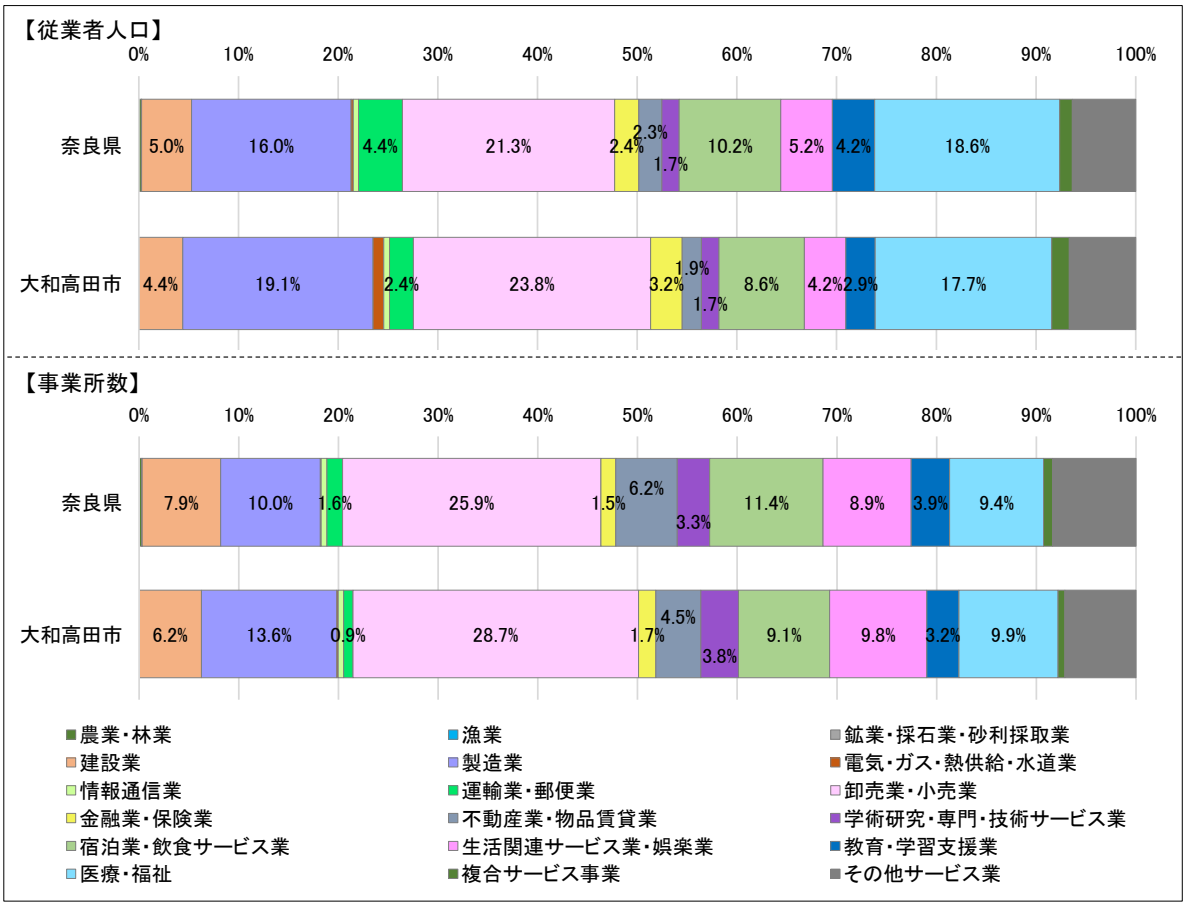
（1）産業別人口・事業所数

・卸売業・小売業、製造業が多い。
・宿泊業・飲食サービス業はやや多いが県全体よりは少ない。

本市の産業別従業者数は、卸売業・小売業が 23.8%、製造業が 19.1%、医療・福祉が 17.7%、宿泊業・飲食サービス業が 8.6%、建設業が 4.4%、生活関連サービス業・娯楽業が 4.2%となっています。

産業別事業所数は、卸売業・小売業が 28.7%、製造業が 13.6%、医療・福祉が 9.9%、宿泊業・飲食サービス業が 9.1%、建設業が 6.2%、生活関連サービス業・娯楽業が 9.8%となっており、産業別人口と概ね同様の傾向です。

県全体と比較すると、産業別人口・事業所数ともに、卸売業・小売業、製造業が多い一方、奈良県の主要産業の一つである観光業を支える宿泊業・飲食サービス業は、県全体よりも少ない傾向です。



■産業別人口・事業所数

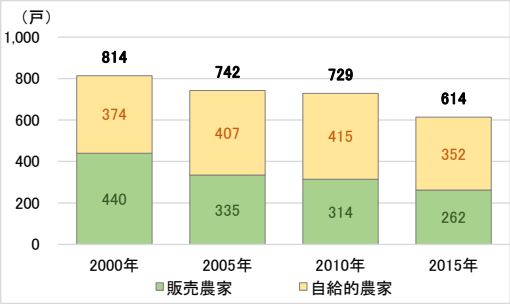
資料）総務省「経済センサス－基礎調査（2016 年）」

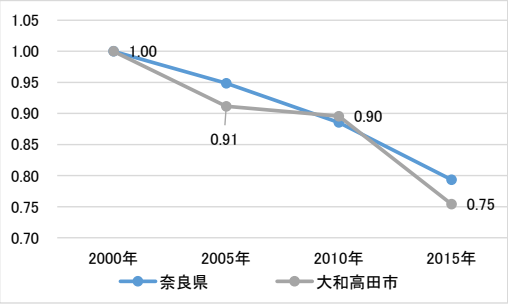
（2）一次産業の推移

・農家戸数・農地面積・耕作放棄地は減少傾向。農地の転用がうかがえる。
・農業産出額は維持傾向にある。

①農家戸数の推移

本市の農家戸数は減少傾向であり、奈良県全体と同様の傾向です。そのうち、自給的農家は2000 年の 374 戸から 2015 年には 352 戸と微減ですが、販売農家は 2000 年の 440 戸から 2015 年には 262 戸と大幅に減少しています。





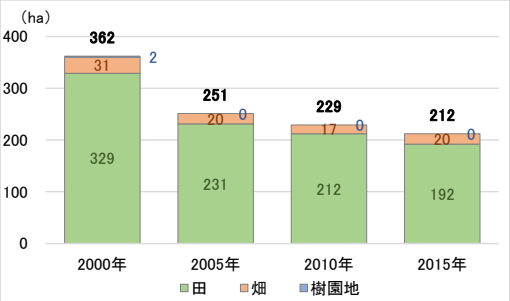
■農家戸数の推移（左：農家区分別の推移　右：奈良県との比較, 2000 年を 1.0 とする）

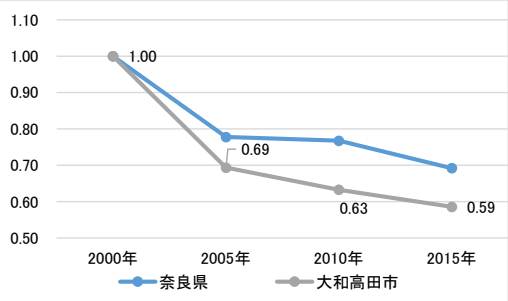
資料）農林水産省「世界農林業センサス」,「農林業センサス」

②農地面積・耕作放棄地面積の推移

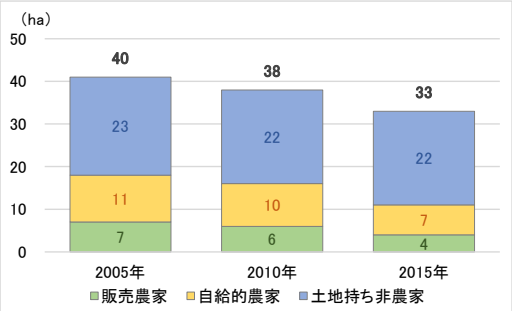
本市の農地面積は減少傾向であり、奈良県全体よりも減少傾向が顕著です。農地のうち、「田」が多く「畑」と「果樹園」はわずかですが、「田」の減少が顕著です。

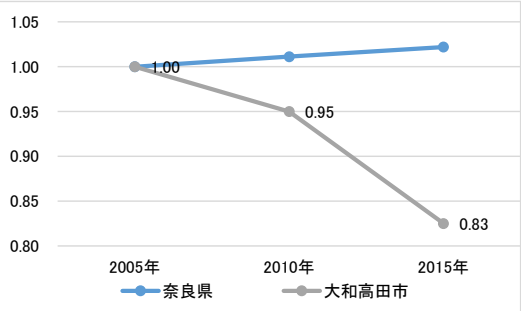
耕作放棄地面積の推移をみると、奈良県全体ではやや増加傾向ですが、本市では減少傾向です。販売農家・自給的農家・土地持ち非農家のいずれの所有区分においても減少しています。農地全体が減少していることを踏まえると、宅地等に転用されていると考えられます。





■農地面積の推移（左：農地区分別の推移　右：奈良県との比較, 2000 年を 1.0 とする）



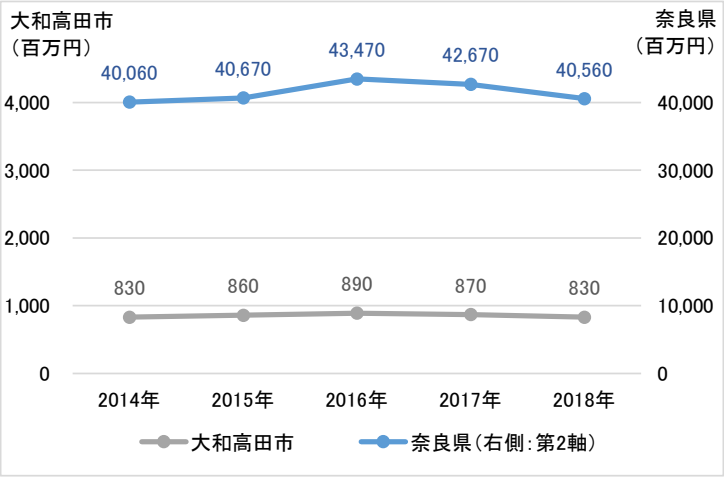


■耕作放棄地面積の推移（左：所有区分別の推移　右：奈良県との比較, 2000 年を 1.0 とする）

資料）農林水産省「世界農林業センサス」,「農林業センサス」

③農業産出額の推移

本市の近年の農業産出額は、830 百万円から 890 百万円の間で推移し、維持傾向です。



■農業産出額の推移

資料）RESAS「市町村別農業産出額（推計値）」

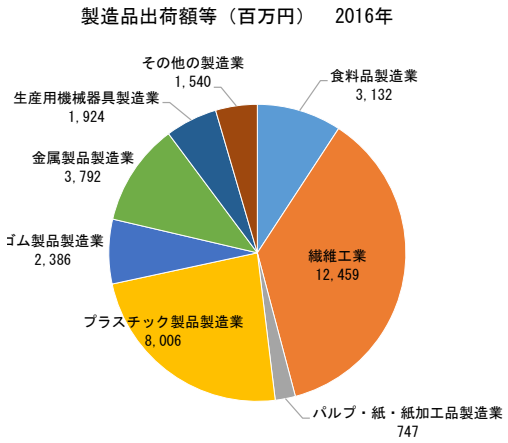
（3）二次産業の推移

・製造品出荷額は維持傾向にある。
・主要分野は繊維工業、プラスチック製品製造業、金属製品製造業などである。

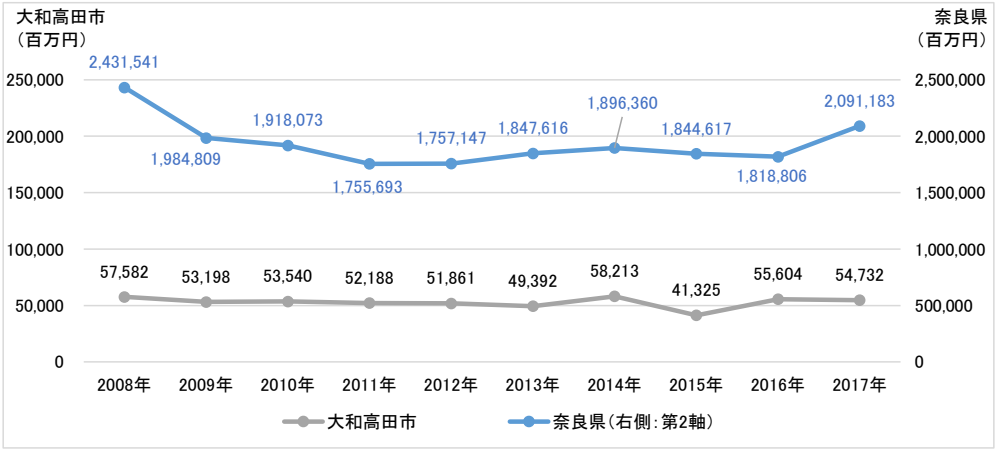
①製造品出荷額の推移

製造品出荷額の推移をみると、奈良県全体では 2010 年頃に落ち込みがみられましたが、本市は概ね維持傾向です。

その内訳は、繊維工業が 12,459 百万円/年、プラスチック製品製造業が 8,006 百万円/年、金属製品製造業が 3,792 百万円/年となっています。



■製造品出荷額の内訳



■製造品出荷額の推移

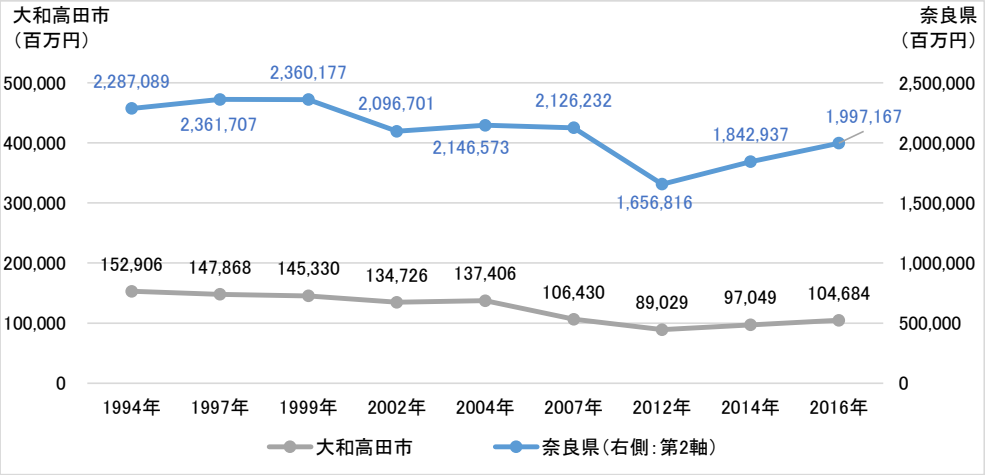
資料）経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

（4）三次産業の推移

・卸売業、小売業ともに縮小傾向であったが、2012 年を下限に回復傾向にある。

①卸売業及び小売り業の年間商品販売額の推移

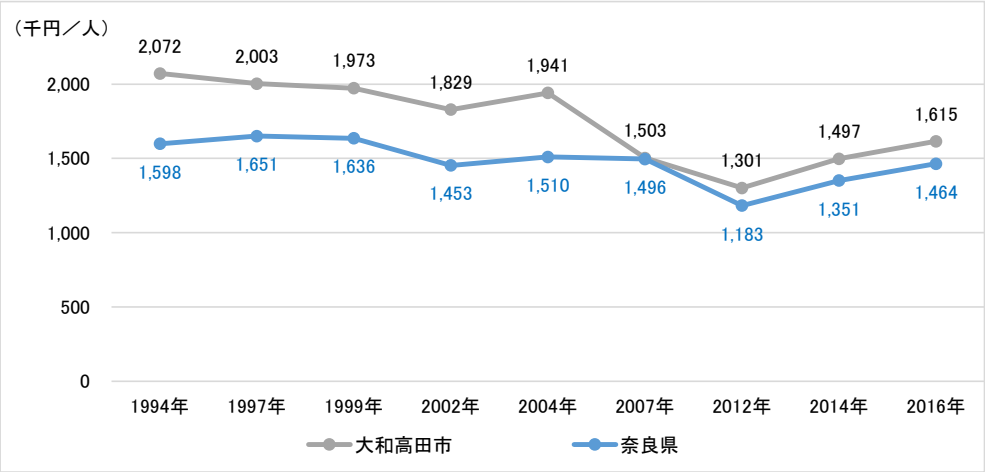
本市の年間商品販売額は、奈良県全体の傾向と同様に減少傾向であり、1994 年の 152,906 百万円/年から 2012 年には 89,029 百万円/年と 6 割以下にまで落ち込みましたが、2016 年には 104,684 百万円/年とやや回復傾向にあります。



■年間商品販売額の推移

経済産業省「商業統計調査」，総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

市民一人あたりの年間商品販売額の推移を奈良県と比較すると、1994 年は奈良県全体で 1,598 千円／人に対し、本市では 2,072 千円／人と高く、商都高田としての特徴がうかがえます。一方、2016 年では、県全体で 1,464 千円／人に対し、本市は 1,615 千円／人と、県全体の値に近づいており、商都としての強みが薄くなりつつあると言えます。



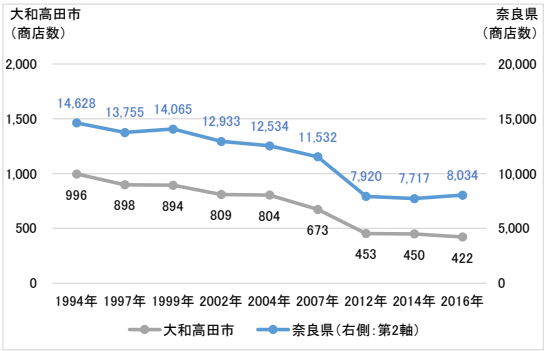
■市民一人あたり年間商品販売額の推移

経済産業省「商業統計調査」，総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」,総務省「国勢調査」

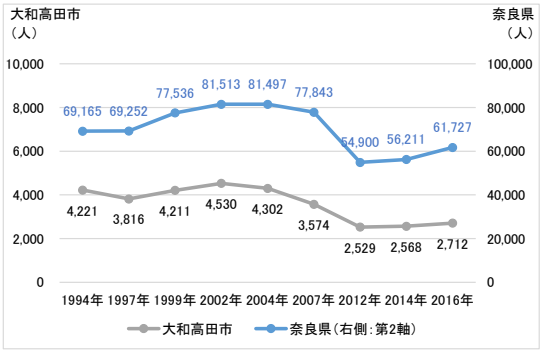
※国勢調査は 5 年ごとのため、1994 年・1997 年の値は 1995 年国勢調査、1999 年・2002 年の値は 2000 年国勢調査、2004 年・2007 年の値は 2005 年国勢調査、2012 年の値は 2010 年国勢調査、2014 年・2016 年の値は 2015 年国勢調査の人口を用いた。

②小売業の動向

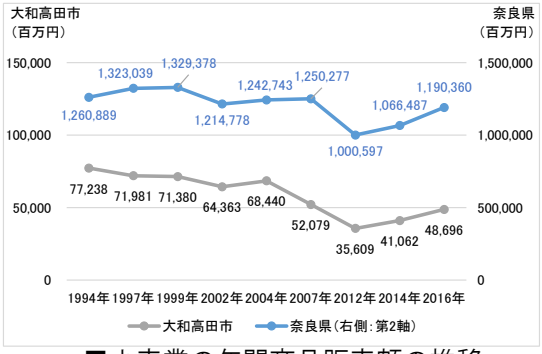
小売業の商店数、従業者数、年間販売額、売り場面積は 1994 年と比較し、2016 年はいずれも減少しています。従業者数、年間販売額、売り場面積は、2012 年を下限にやや回復傾向にあります。



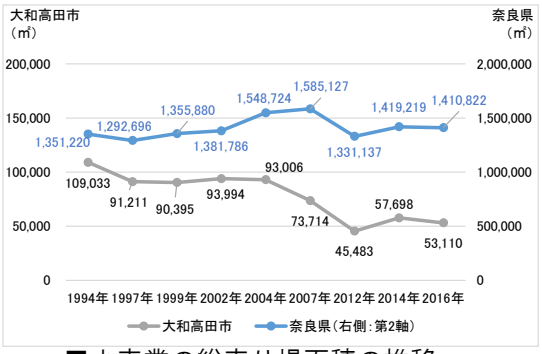
■小売業の商店数の推移



■小売業の従業者数の推移



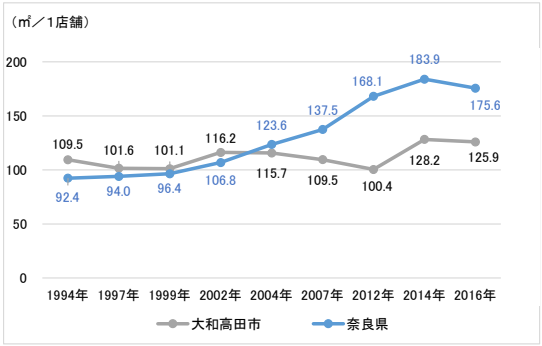
■小売業の年間商品販売額の推移



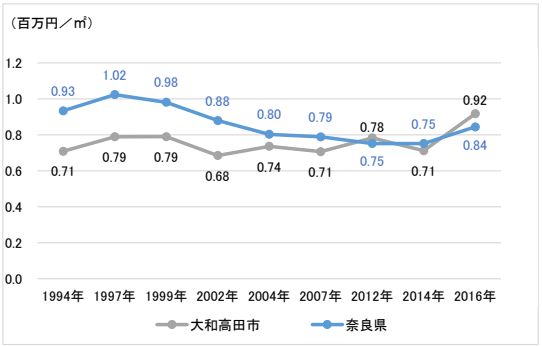
■小売業の総売り場面積の推移

1 店舗当たり売り場面積は、奈良県全体では上昇傾向です。本市においても 2002 年までは上昇傾向が続いていましたが、これ以降低下・維持傾向となっています。大型店舗の出店は、近年はやや抑えられている傾向と考えられます。

売り場面積当たり販売額は、微増減が続いていましたが、2014 年から増加傾向です。



■１店舗当たり売り場面積



■売り場面積当たり販売額

経済産業省「商業統計調査」，総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

６）市街化動向

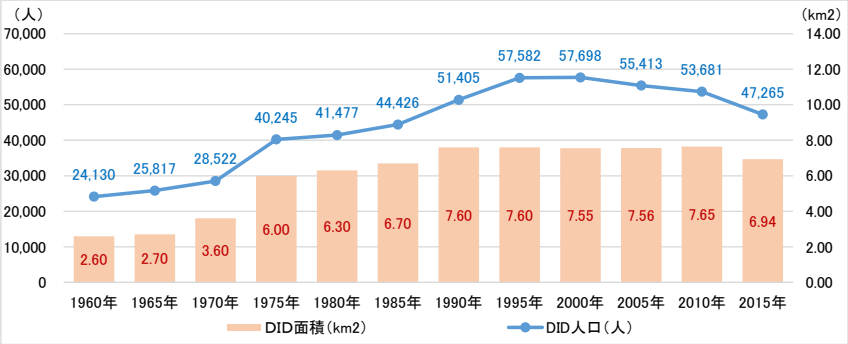
（1）DID（人口集中地区）人口等の推移

・DID 人口は 2000 年から減少、面積も縮小、人口密度は低下傾向にある。
・市北西部の大字市場で DID が縮小している。

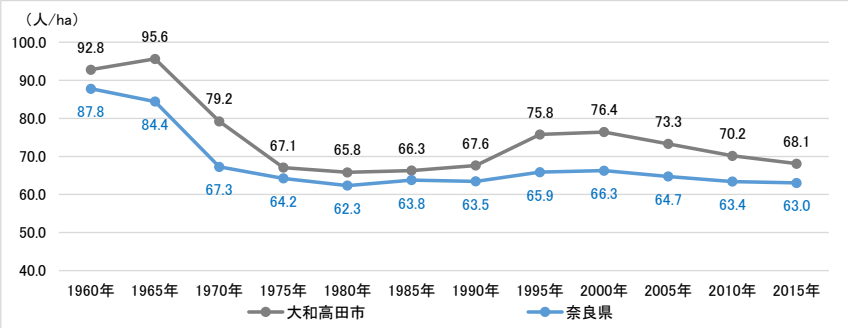
本市の DID（**人口集中地区**）人口は 2000 年の 57,698 人をピークに 2000 年から減少傾向にあり、2015 年には 47,265 人となっています。一方、DID 面積は 1990 年から 7.6km^2 前後で推移していましたが、2010 年から 2015 年にかけて縮小し、6.94km^2 となりました。

DID 人口密度は、1965 年から 1990 年にかけて DID 面積の拡大に伴い低下傾向であり、1995 年から 2000 年にやや上昇しましたが、再度低下し、2015 年には 68.1 人/ha となっています。奈良県全体と比較すると、高密度の傾向です。

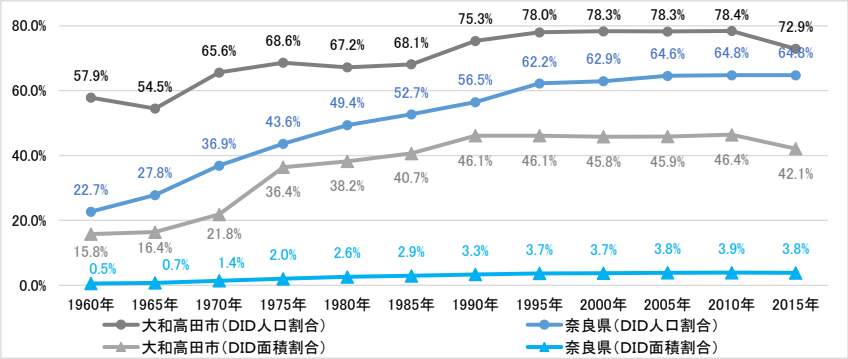
DID 人口割合（総人口に対する割合）、面積割合（市域面積に対する割合）は、いずれも概ね上昇傾向であり、DID が人口を内包しながら拡大してきましたが、2010 年をピークに縮小し、人口割合・面積割合ともやや低下しています。



■DID 面積・人口の推移



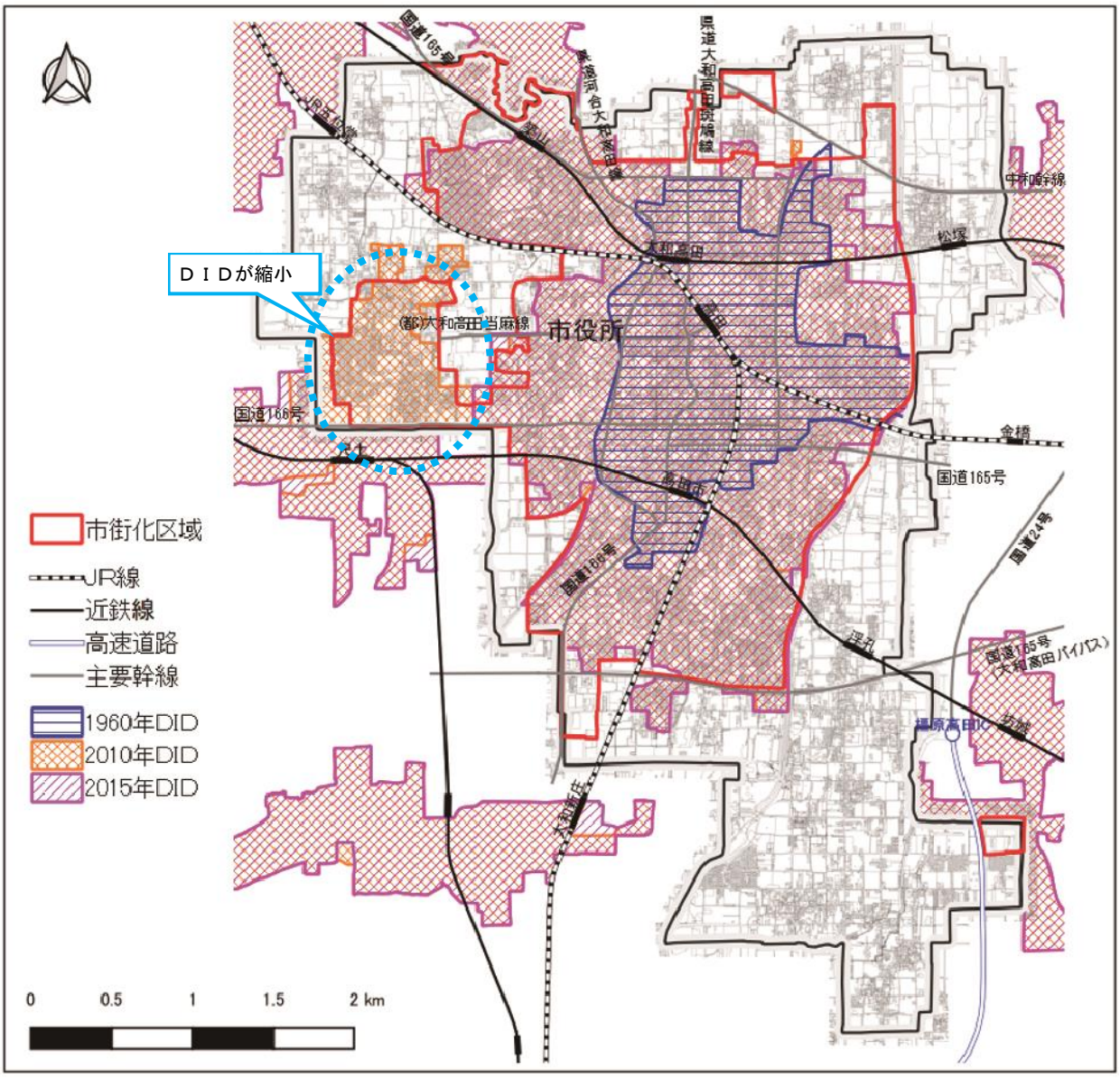
■DID 人口密度の推移



■DID 人口割合・面積割合の推移

1960 年の DID（**人口集中地区**）は市街地中心部に限られています。

2010 年には市街化区域の大部分に拡大していますが、2015 年には市北西部の大字市場付近で DID が縮小しています。



■DID の変化

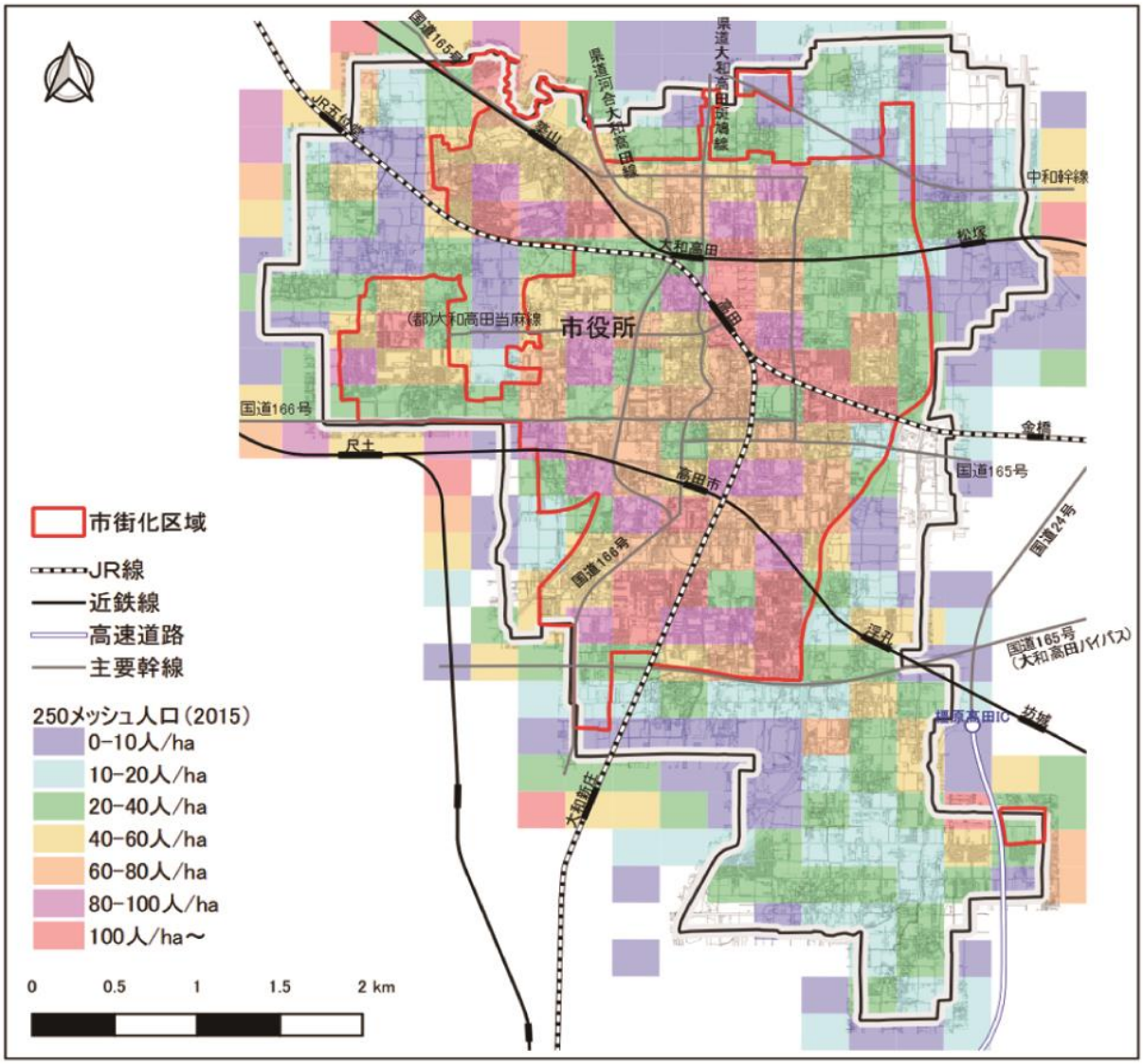
資料）総務省「国勢調査」、国土交通省「国土数値情報」

（2）人口密度の状況

・市街化区域に人口が集積、部分的に市街化調整区域にも人口が分布している。
・将来的には、市街地中心部の低密度化が懸念される。

①2015 年の 250mメッシュ人口

2015 年の 250mメッシュ人口をみると、市街化区域を中心に高密度のメッシュが分布しています。市街化調整区域には、概ね低密度のメッシュが分布していますが、部分的に高密度のメッシュが分布しています。



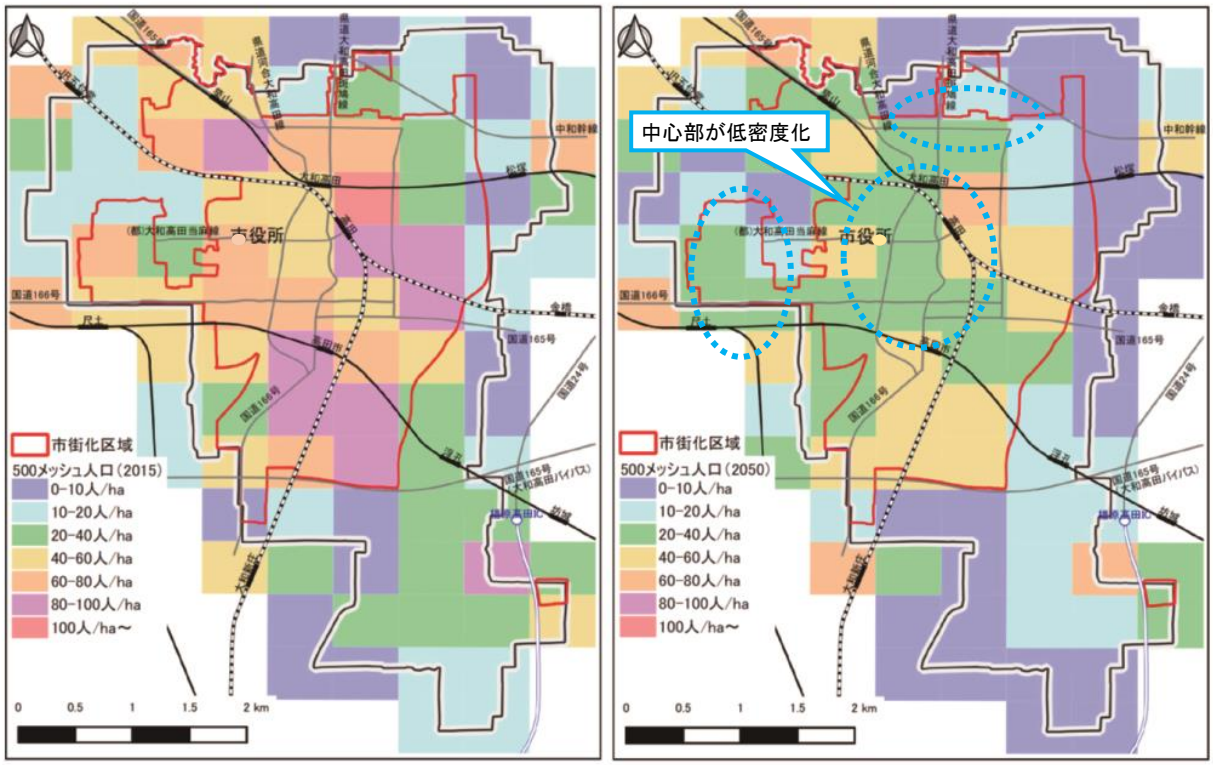
■250mメッシュ人口密度（2015 年）

資料）総務省「国勢調査（2015 年）」、統計局「地図で見る統計（統計 GIS）」

②500mメッシュ人口の推移

国土交通省が作成した 500mメッシュ人口の推計値をみると、2015 年には概ね市街化区域内で一定の人口密度が保たれています。

2050 年になると、市街化区域内においても、中心部等で 40 人/ha（適正な市街地の人口密度の目安）を下回ってくる箇所がみられます。また、市域北東部や南部など市街化調整区域において 10 人/ha を下回ってくる箇所がみられます。



■500mメッシュ人口（左：2015 年人口　右：2050 年推計人口）

資料）国土交通省「国土数値情報：500m メッシュ別将来推計人口」

（3）開発の動向

・市内 2 地区で土地区画整理事業を完了している。
・中心部の開発は停滞傾向、市街化調整区域では市街地の拡大が懸念される。

①土地区画整理事業の実施状況

本市では、２か所で土地区画整理事業が実施されており、いずれも事業は完了しています。なお、市街地再開発事業は、これまでに実施されたところはありません。

■土地区画整理事業一覧

名称	事業位置	事業主体	計画面積(ha)	事業年度	計画		現在	
					人口	戸数	人口	戸数
国鉄高田駅東 土地区画整理事業	－	市	14	S53～S60	－	－	－	－
材木町農住 土地区画整理事業	材木町 1029-1	材木町 農住組合	0.7	H13	60	22	29	16

資料）大和高田市資料

●国鉄高田駅東土地区画整理事業

国鉄高田駅東土地区画整理事業では、繊維メーカーの旧高田工場跡地に 1975（昭和 50）年 11 月、ダイエー大和高田店を核とした専門店街を配置する本格的ショッピングセンター「オークタウン大和高田」が開業しました。

開業時から一度も建て替えられておらず、奈良県内の大型商業施設で最も古いものとなっていましたが、老朽化に伴い 2017 年にセンターモールを閉鎖し、2018 年 11 月に 3 階建て商業施設「トナリエ大和高田」に建替え、オープンしています。

●材木町農住土地区画整理事業

材木町農住土地区画整理事業では、一般住宅地、共同住宅用地などの住宅地を供給するとともに、従前の生産緑地の集約を図り農地の集団性が確保されています。

②開発許可と農地転用の状況

2009 年から 2013 年の開発許可の状況をみると、市街化区域で 18 件（51,753 ㎡）、市街化調整区域で 23 件（93,504 ㎡）となっています。市街地の新たな開発は停滞しており、市街化調整区域での開発許可が多くなっています。

2011 年から 2013 年の農地転用の状況をみると、市街化区域で 50 件（73,400 ㎡）、市街化調整区域で 60 件（45,638 ㎡）となっています。市街化調整区域では 18,619 ㎡の転用があり、市街地の拡大が懸念されます。

また、市街化調整区域では、指定区域の範囲で、開発許可及び農地転用が多い状況です。

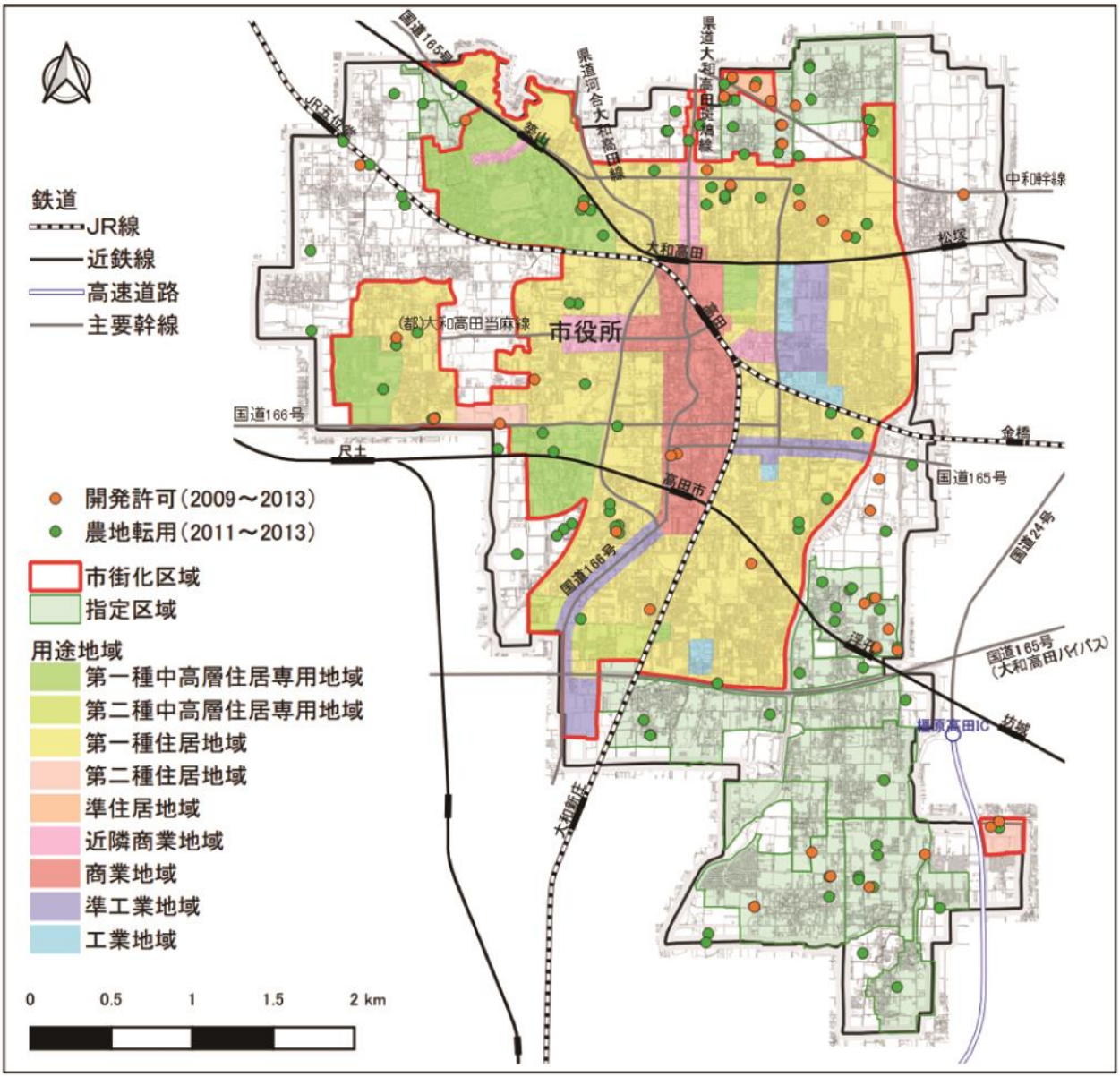
■開発許可の状況　　単位：上段件数（件）下段面積（㎡）

	市街化区域					市街化調整区域					
	住宅	商業	工業	その他	合計	住宅	商業	工業	農林漁業	その他	合計
2009 年	1	0	0	2	3	2	0	2	1	0	5
	1,211	0	0	11,034	12,245	8,620	0	12,237	2,314	0	23,171
2010 年	1	0	0	1	2	4	0	1	0	0	5
	1,231	0	0	3,756	4,987	11,929	0	2,199	0	0	14,128
2011 年	2	2	0	0	4	2	1	1	0	1	5
	4,362	8,381	0	0	12,743	3,621	4,583	2,464	0	5,695	16,363
2012 年	3	3	0	0	6	3	2	0	0	0	5
	5,483	10,925	0	0	16,408	4,208	29,766	0	0	0	33,974
2013 年	2	1	0	0	3	3	0	0	0	0	3
	2,931	2,439	0	0	5,370	5,868	0	0	0	0	5,868
合計	9	6	0	3	18	14	3	4	1	1	23
	15,218	21,745	0	14,790	51,753	34,246	34,349	16,900	2,314	5,695	93,504

■農地転用の状況　　単位：上段件数（件）下段面積（㎡）

	市街化区域					市街化調整区域				
	住宅用地	工業用地	公共用地	その他	合計	住宅用地	工業用地	公共用地	その他	合計
2011 年	2	0	0	10	12	11	1	1	7	20
	558	0	0	11,891	12,449	6,455	1,267	122	5,684	13,528
2012 年	7	0	1	15	23	7	0	5	6	18
	10,415	0	1	23,960	34,376	6,533	0	268	4,788	11,589
2013 年	5	0	0	10	15	8	0	2	12	22
	1,801	0	0	24,774	26,575	5,631	0	333	14,557	20,521
合　計	14	0	1	35	50	26	1	8	25	60
	12,774	0	1	60,625	73,400	18,619	1,267	723	25,029	45,638

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」



■開発許可・農地転用の状況

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」

7）交通体系

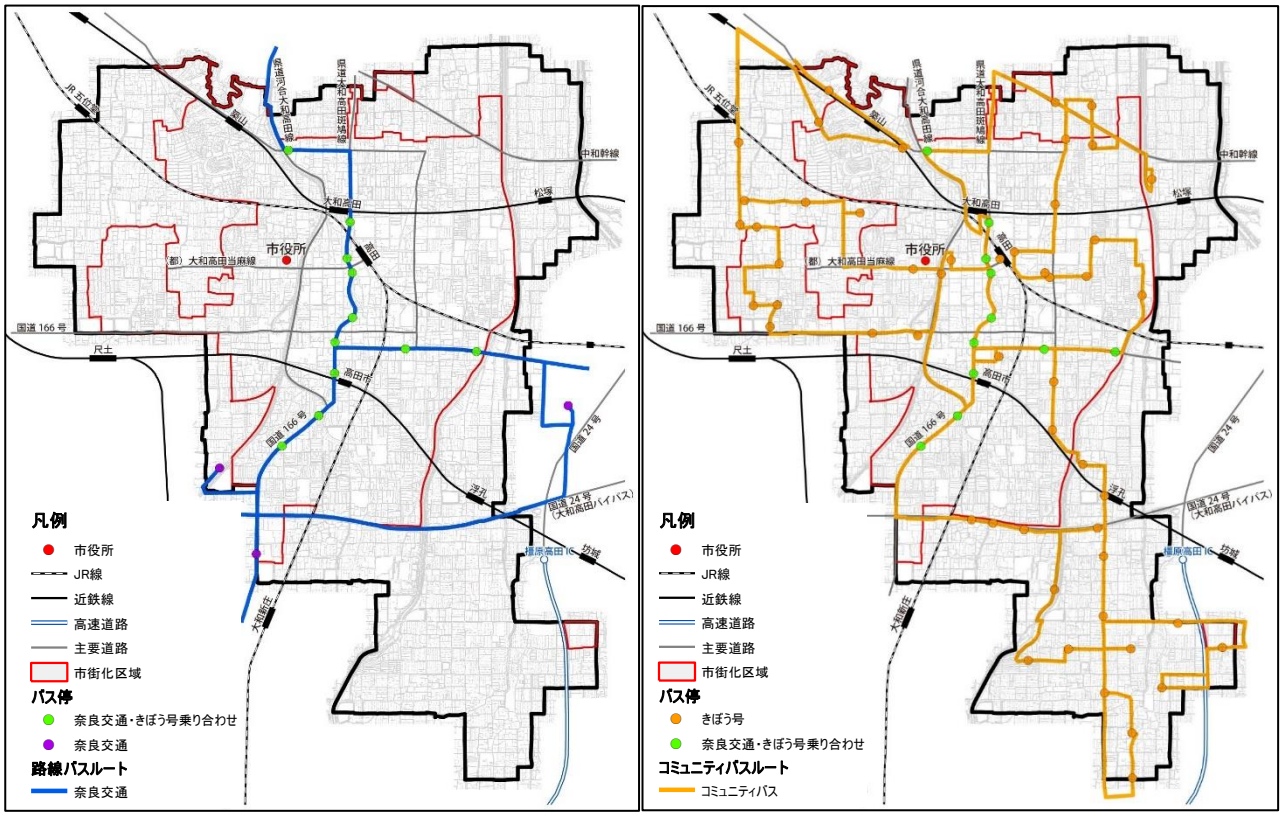
（1）公共交通の路線状況

・鉄道は 2 社 4 路線、6 駅立地している。
・バスは路線バス、コミュニティバス「きぼう号」が運行している。

本市の公共交通は、鉄道としてＪＲ和歌山線・桜井線及び近鉄大阪線・南大阪線及び路線バス、コミュニティバスが運行しています。

鉄道は、ＪＲ和歌山線が南北方向に運行しています。また、ＪＲ桜井線、近鉄大阪線・南大阪線が東西に運行しています。鉄道駅は、市中心部にＪＲ和歌山線・桜井線の高田駅があるほか、近鉄大阪線の築山駅、大和高田駅、松塚駅、近鉄南大阪線の高田市駅、浮孔駅の計 6 駅が立地しています。

バスは、奈良交通の路線バスが市域を南北方向及び中心部から東方面に運行しています。また、本市のコミュニティバス「きぼう号」が市内を循環しています。



■鉄道及びバスルート・バス停（左：路線バス・奈良交通　右：市営・コミュニティバス）

資料）大和高田市資料

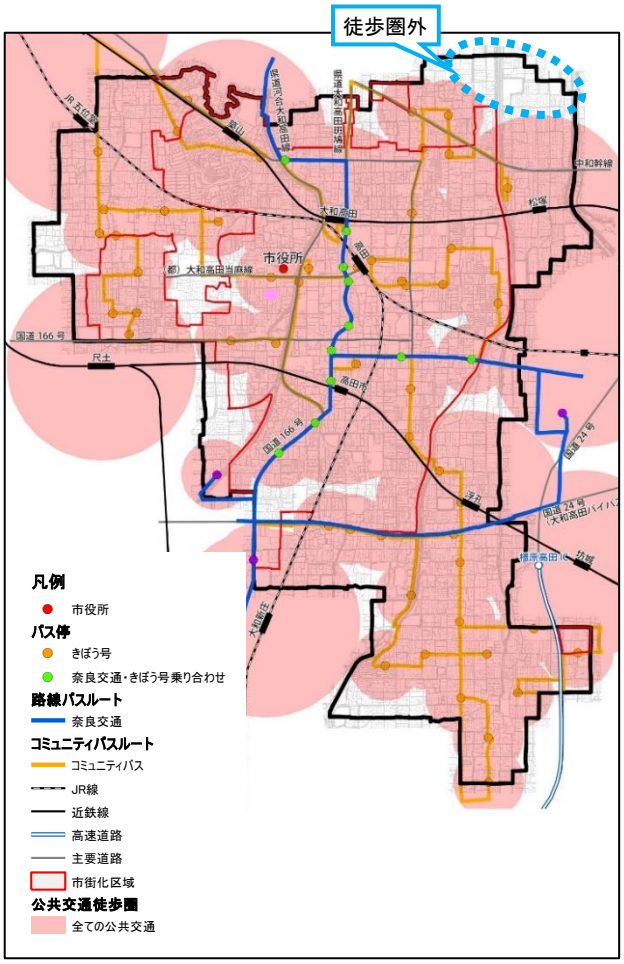
（2）公共交通の徒歩圏

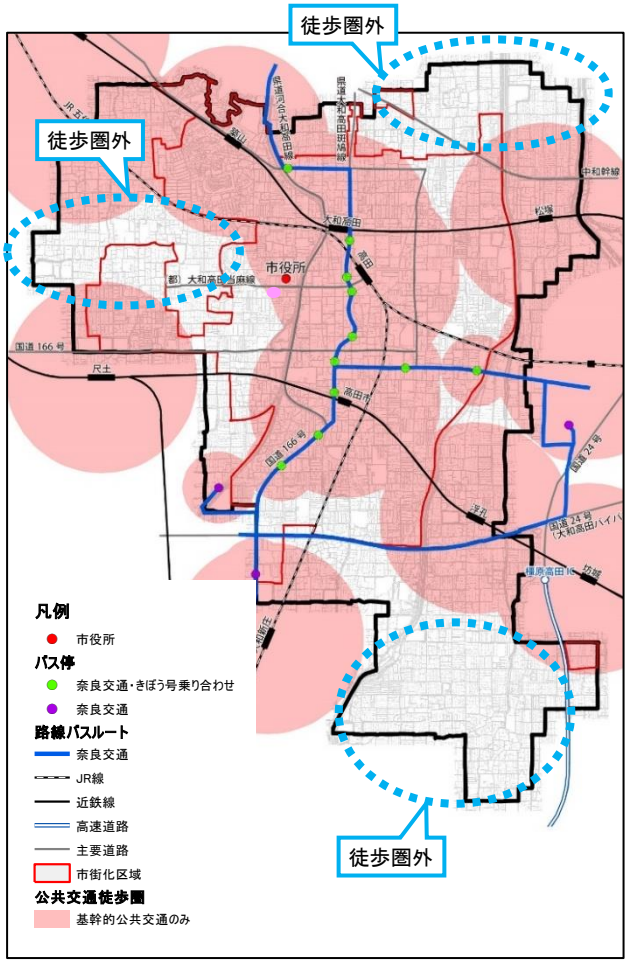
・概ね市全域が全ての公共交通（鉄道駅、バス停）の徒歩圏内に入っている。
・基幹的公共交通に限っては、市北西部・北東部・南部で一部徒歩圏外となっている。

公共交通の徒歩圏は、鉄道駅から半径 800m、バス停から半径 300mとされています。

全ての公共交通の徒歩圏をみると、市街化区域はほぼ全てカバーされており、市域全体も概ねカバーされています。ただし、市北東部などにおいてわずかにカバーされていない箇所がみられます。

また、日常的な利便性が高い「基幹的公共交通」として、30 便／日もしくはピーク時に 3 便／時の鉄道駅及びバス停を抽出すると、全ての鉄道駅及び路線バスのバス停が該当します。これら基幹的公共交通の徒歩圏をみると、市北西部・北東部及び市南部において、カバーされていない箇所がみられます。





■公共交通の徒歩圏（左：全ての公共交通　右：基幹的公共交通）

資料）大和高田市資料

（3）公共交通の利用状況

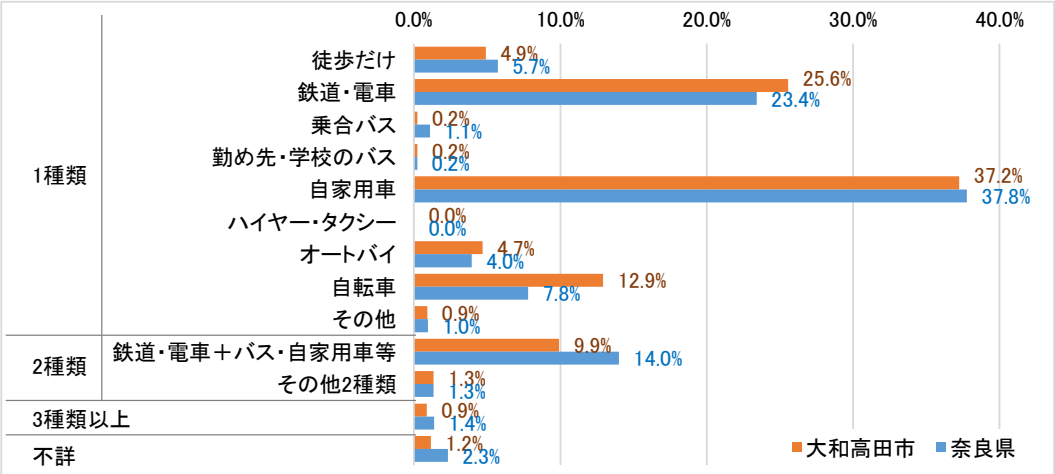
・自家用車だけでなく、公共交通や自転車等が一定利用されている。
・奈良県全体と比較すると、公共交通の利便性が高く、自家用車への依存度は低い。

①交通機関分担率

通勤・通学における交通手段の機関分担率※ を見ると、本市では、「自家用車」が 37.2%で最も高く、次いで「電車・徒歩」が 25.6%となっています。公共交通に着目すると、「鉄道・電車」と「鉄道・電車＋バス・自家用車等」を合わせると、35.5%となっています。一方、「乗合バス」は 0.2%と低くなっています。また、「徒歩」が 4.9%、「自転車」が 12.9%みられます。自家用車だけでなく、公共交通や自転車等が一定利用されている状況です。

奈良県と比較すると、「鉄道・電車」や「オートバイ」、「自転車」は県より多く、「徒歩だけ」や「自家用車」、「鉄道・電車＋バス・自家用車等」は県より少ない状況です。

通勤・通学で利用している交通機関		大和高田市		奈良県	
		（人）	（%）	（人）	（%）
1 種類	徒歩だけ	1,503	4.9%	35,335	5.7%
	鉄道・電車	7,832	25.6%	144,349	23.4%
	乗合バス	72	0.2%	6,740	1.1%
	勤め先・学校のバス	73	0.2%	1,445	0.2%
	自家用車	11,414	37.2%	232,906	37.8%
	ハイヤー・タクシー	4	0.0%	114	0.0%
	オートバイ	1,436	4.7%	24,377	4.0%
	自転車	3,959	12.9%	48,078	7.8%
	その他	279	0.9%	5,941	1.0%
2 種類	鉄道・電車＋バス、自家用車、自転車等	3,037	9.9%	86,350	14.0%
	その他 2 種類	409	1.3%	8,198	1.3%
3 種類以上		271	0.9%	271	8,532
不詳		353	1.2%	353	14,255
合計		30,642	100.0%	30,642	616,620



■通勤・通学における交通機関分担率

資料）総務省「国勢調査（2010 年）」

※ 従業地・通学地による 15 歳以上自宅外就業者・通学者（15 歳以上で市内に通勤・通学している者）。なお、国勢調査では当該項目は 2015 年調査では実施されていない。

②公共交通利便性の高いエリアの住宅割合

鉄道駅まで 1km 圏内の住宅、及び鉄道駅から 1km 圏外でバス停まで 200m 圏内にある住宅を「公共交通利便性の高いエリアに存する住宅」とすると、居住世帯がある住宅総数に占める公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合は、市全体で 75.9%となっています。

奈良県全体では 66.0%となっており、県全体と比較すると、本市は公共交通の利便性が高いと言えます。

■公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合

	大和高田市	奈良県
住宅総数(居住世帯があるもの)(棟)	25,260	527,700
駅まで 1km 圏内(棟)	16,770	246,300
駅から 1km 圏外でバス停まで 200m 圏内(棟)	2,400	102,200
公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合(%) (駅まで 1km 圏もしくはバス停まで 200m圏内の住宅割合)	75.9	66.0

資料）総務省「住宅・土地統計調査（2013 年)」※2018 年調査では当該項目未公表

③市民一人当たり自動車走行台キロ

2015 年の交通センサスをみると、市内路線における市民一人当たりの自動車（小型車）走行台キロは 5.8 台キロ/日となっています。

奈良県全体では 8.7 台キロ/日であり、県全体と比較すると、本市は自家用車への依存が低いと言えます。

■市民一人あたり自動車走行台キロ

	大和高田市	奈良県
市内道路の総自動車(小型車)走行台キロ/日	371,760.6	11,817,357.1
人口	64,817	1,364,316
市民 1 人当たりの自動車走行台キロ/日	5.8	8.7

資料）国土交通省「道路交通センサス（2015 年)」

８）都市基盤

（1）幹線道路の状況

・広域幹線道路が東西に走り、県道等の南北に交差するネットワークが補完している。
・国道 165 号、国道 166 号、大和高田斑鳩線、大和高田桜井線、大和高田御所線で混雑がみられる。

本市の幹線道路は、国道 165 号、国道 166 号、国道 24 号大和高田バイパスを軸とした広域幹線道路が東西に走り、それらに主要地方道や一般県道が南北に交差しています。

また、本市との市境付近の橿原市内には、京奈和自動車道の橿原高田 IC が立地し、2012 年より供用開始しています。

2015 年の交通センサスをみると、2010 年から 2015 年にかけて交通量が増えている区間は 4 区間、減少している区間は 11 区間で、概ね市内の交通量は減少していると言えます。増加率 1.26 と増加傾向が明確な(一)大和高田広陵線についても混雑度は 0.77 と低い状況です。

交通混雑度が 1.25 を超えているのは、国道 165 号、国道 166 号、(主)大和高田斑鳩線、(主)大和高田桜井線、(一)大和高田御所線の 5 区間です。市街地を通る国道 165 号や(主)大和高田桜井線、市域を縦断する国道 166 号など、中心市街地周辺での混雑が懸念されます。

なお、(一)大和高田御所線は交通容量が小さいため混雑度が高いと考えられます。

■幹線道路の交通状況

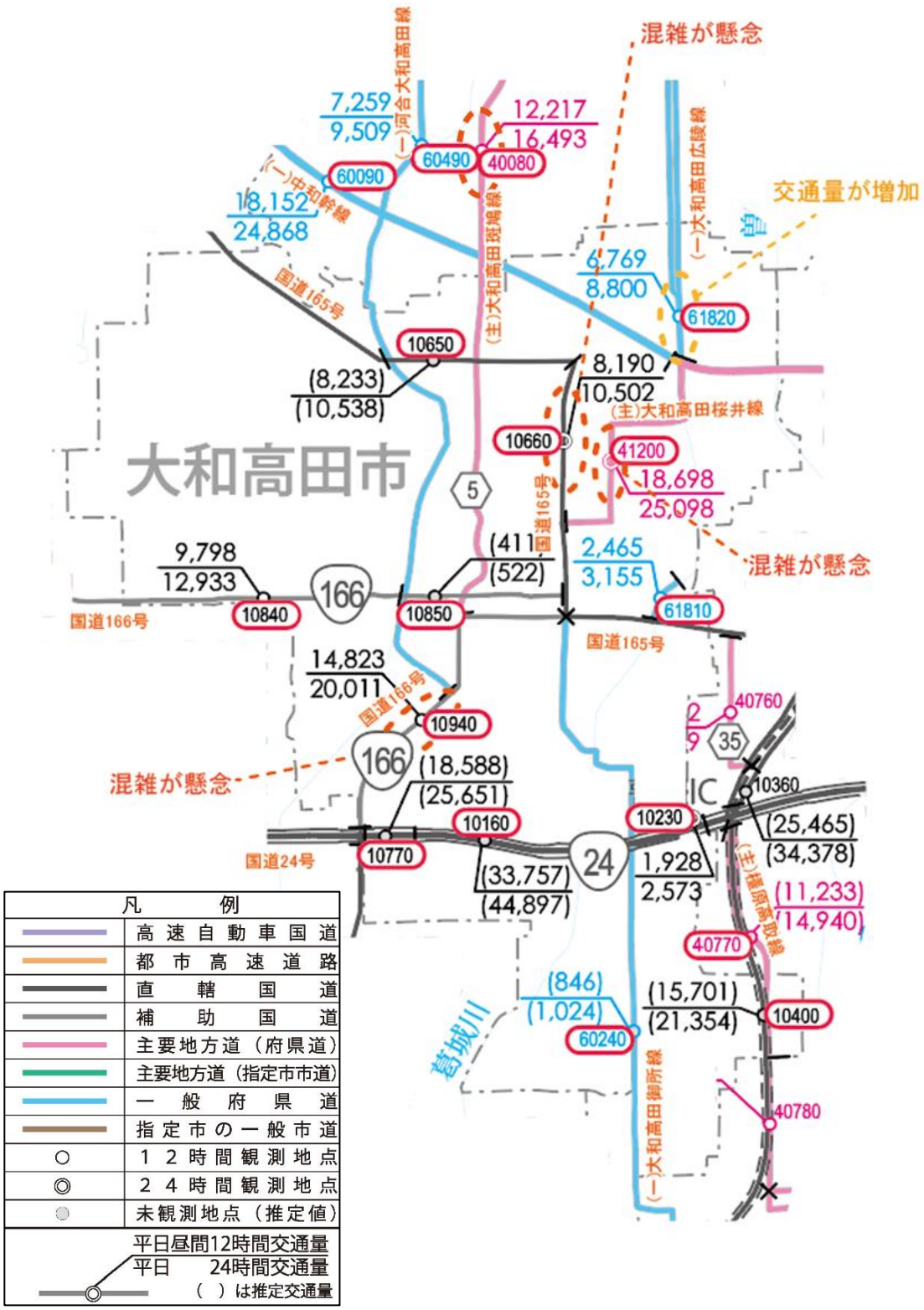
調査地点番号	路線名	観測地点名	車線数	24 時間交通量			混雑度
				2010 年（台）	2015 年（台）	増加率（2015/2010）	
10160	一般国道24号	曽大根	4	50,195	44,897	0.89	0.89
10230	一般国道24号	奈良県大和高田市曽大根	2	3,641	2,573	0.71	0.19
10400	一般国道24号（京奈和自動車道）	根成柿	2	－	21,354	－	0.99
10650	一般国道165号	神楽	2	13,633	10,538	0.77	0.75
10660	一般国道165号	奈良県大和高田市日之出町	2	11,487	10,502	0.91	1.35
10770	一般国道165号		4	50,209	25,651	0.51	0.33
10840	一般国道166号	大和高田市大中	2	13,105	12,933	0.99	0.91
10850	一般国道166号		1	568	522	0.92	0.13
10940	一般国道166号	大和高田市礒野新町	2	18,944	20,011	1.06	1.8
40080	(主)大和高田斑鳩線	北葛城郡広陵町大字平尾	2	19,465	16,493	0.85	1.53
40770	(主)橿原高取線		2	14,150	14,940	1.06	1.23
41200	(主)大和高田桜井線	奈良県橿原市中曽司町	2	22,281	25,098	1.13	1.38
60090	(一)中和幹線	北葛城郡広陵町馬見南2丁目	4	－	24,868	－	0.7
60240	(一)大和高田御所線		1	1,098	1,024	0.93	4.5
60490	(一)河合大和高田線	北葛城郡広陵町大字大塚	2	11,422	9,509	0.83	1.19
61810	(一)大和高田広陵線	大和高田市曙町	2	3,867	3,155	0.82	0.38
61820	(一)大和高田広陵線	大和高田市松塚	2	6,992	8,800	1.26	0.77

資料）国土交通省「道路交通センサス（2015 年）」

【参考】混雑度の解釈

混雑度	交通状況の推定
1.0未満	昼間12時間を通じて、道路が混雑することがなく、円滑に走行できる、渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんどない。
1.0～1.25	昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1～2時間(ピーク時間)ある。何時間も渋滞が連続する可能性は非常に低い。
1.25～1.75	ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態。ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑への過度状態と考えられる。
1.75以上	慢性的混雑状態を呈する。

出典：道路の交通容量（(社)日本道路協会：昭和 59 年 9 月）



■幹線道路の交通量（2015 年）※図中の番号は調査地点番号

資料）近畿地方整備局「平成 27 年度全国道路・街路交通醸成調査交通量図（奈良県）」を一部加工

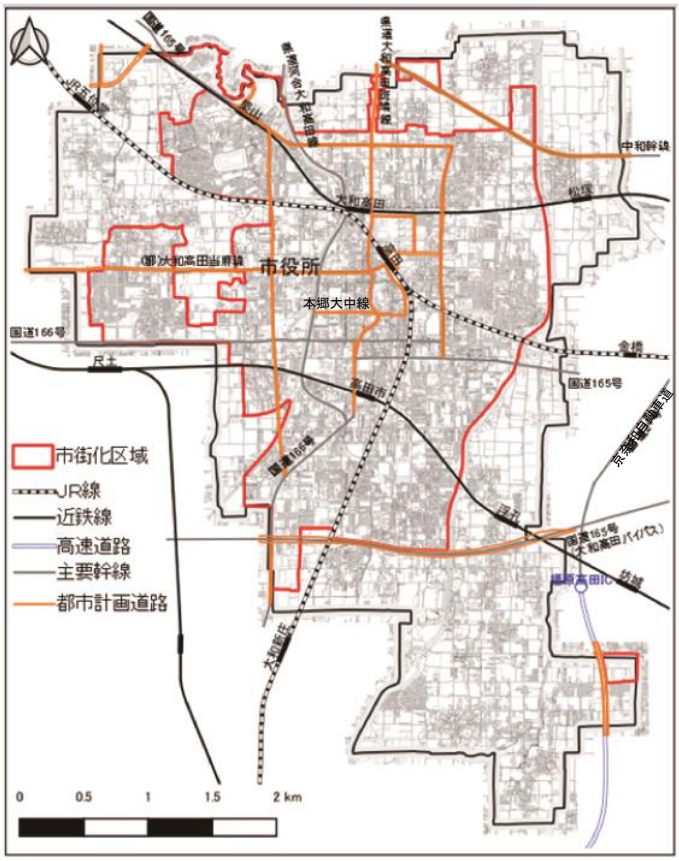
（2）都市計画道路の状況

・都市計画道路は全 16 路線、7 路線が整備済、2 路線で事業中である。

本市では、市街地内や主要幹線道路において都市計画道路が決定されています。

全 16 路線のうち、整備済 7 路線、未整備 7 路線、事業中 2 路線となっています。現在、市役所南側を東西に走る大和高田当麻線と京奈和自動車道において事業中です。

路線番号	路線名	幅員（m）	延長（m）	進捗状況	計画決定（変更）年
1･3･1	京奈和自動車道	22	540	事業中	H3.7.19
3･2･3	橿原御所線	38	540	未整備	H3.7.19
3･4･11	高田バイパス線	20･38	2,160	整備済	S47.12.22(H22.3.16)
3･3･1	中和幹線	22	1,900	整備済	S55.7.29（H22.2.18）
3･4･2	橿原五條線	12	450	未整備	S24.2.5（S48.1.27）
3･4･57	大和高田当麻線	16	2,770	事業中（概成済）	S.31.12.7（S61.5.20）
3･4･701	東大路線	18	330	整備済	S53.4.25
3･4･702	今里築山線	16	3,500	未整備	S53.4.25(S55.7.29)
3･4･740	香芝南廻り線	20	400	未整備	S44.6.11(S54.3.23)
3･4･745	五ヶ所五位堂線	16	230	未整備	S44.6.11(H14.3.19)
3･4･765	築山大塚線	16	200	整備済	S55.7.29
3･5･700	西大路線	15	2,690	未整備	S24.2.5(S48.1.27)
3･5･701	中央通り線	12	1,190	整備済	S24.2.5(S48.1.27)
3･5･702	神楽線	12	1,080	整備済	S31.12.7(S55.7.29)
3･5･703	幸町線	12	590	整備済	S53.4.5
3･5･704	本郷大中線	12	1,170	未整備（一部概成済）	S61.4.3



■都市計画道路の状況

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」

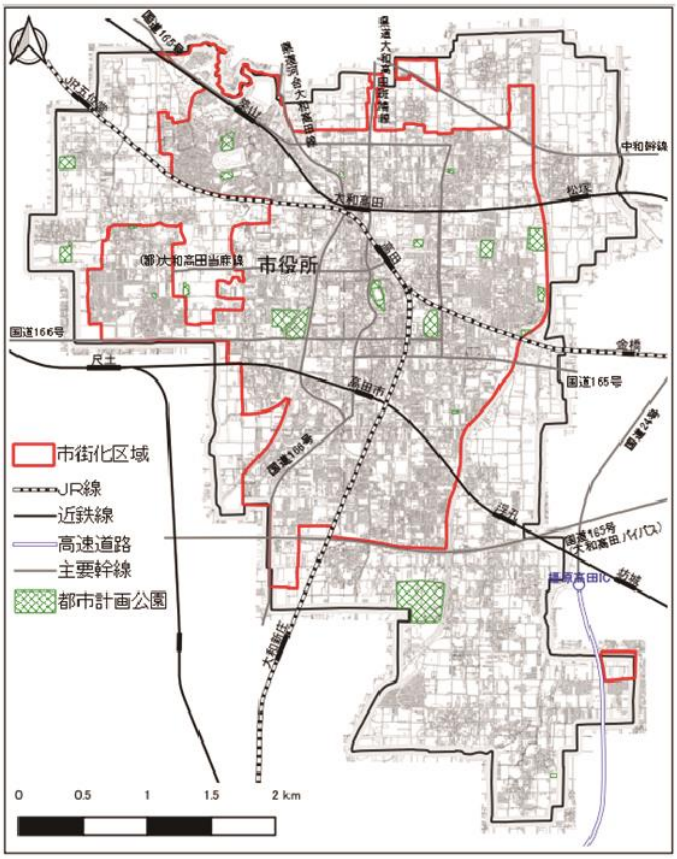
（3）都市計画公園の整備状況

・都市計画公園は全 20 箇所、総合公園・地区公園・近隣公園・街区公園が立地している。

本市では、20 箇所の都市計画公園が決定されています。

総合公園・地区公園は各 1 箇所あり一部供用、近隣公園は 7 箇所あり 1 つ以外は供用済、街区公園は 11 箇所あり全て供用済となっています。

	区分名称	面積(ha)	供用状況	計画決定年月日	供用年月日
総合公園	大和高田市総合公園	10.00	一部供用	S61.1.17	S62.7.1
地区公園	大中公園	4.70	一部供用	S36.12.15	S46.8.24
近隣公園	築山公園	1.07	供用	S27.5.15	S25.5.5
	東運動公園	2.32	供用	S27.5.15	S25.10.20
	馬冷池公園	0.92	供用	S27.5.15	S27.5.15
	常光寺池公園	2.10	供用	S29.5.4	S29.5.4
	出屋敷公園	1.40	供用	S45.8.24	S46.8.27
	東雲公園	1.50	未供用	S46.8.24	—
	西代公園	1.09	供用	S53.11.21	S54.4.1
街区公園	土庫公園	0.12	供用	S47.12.19	S50.4.1
	曙公園	0.20	供用	S49.8.26	S50.4.1
	市場公園	0.12	供用	S49.8.26	S50.4.1
	野口公園	0.12	供用	S51.10.14	S52.4.1
	今里公園	0.1	供用	S54.12.14	S55.4.1
	市場第2公園	0.38	供用	S55.11.26	S56.4.1
	栂池公園	0.44	供用	S55.11.26	S57.12.17
	曙第2公園	0.51	供用	H8.4.4	H11.3.16
	幸町公園	0.46	供用	H6.1.1	H6.1.10
	根成柿公園	0.14	供用	－	H8.3.10
	神楽公園	0.03	供用	－	H23.12.6



■都市計画公園の状況

資料）大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」

（4）上水道の整備状況

・上水道の普及率は 100%である。

本市の上水道は、2021 年度実績で総人口 63,056 人に対し普及率 100%となっています。また、有収率は 93.7%です。

■上水道の整備状況

総人口（人）	普及率（%）	給水人口（人）	1 人 1 日平均配水量（ℓ）	1 日最大配水量（m^3）	年間総配水量（m^3）	有収水量（m^3）	有収率（%）
63,056	100.0	63,056	293	20,100	6,752,637	6,329,920	93.7

資料）大和高田市資料）

（5）公共下水道の整備状況

・公共下水道の普及率は 60. 7%である。

本市の下水道は、大和川上流流域下水道（第二処理区）に含まれ、1979（昭和 54）年に計画決定及び事業認可を受け、現在事業を実施しており、広陵町萱野にある第二浄化センターで汚水処理を行っています。

現在の計画区域面積は 1,606.2ha で認可区域面積は 794.8ha、計画処理人口は 53,300 人となっています。

2022 年 3 月末時点での下水道の整備状況は、整備面積 494.0ha、整備人口 38,272 人、普及率は 60.7%となっています。

■公共下水道の整備状況

処理区	全体計画（2035 年目標）		整備状況		普及率（人口ﾍﾞｰｽ）
	計画面積（ha）	計画人口（人）	整備面積（ha）	整備人口（人）	
大和川上流流域下水道第2処理区	1,606.2	53,300	494.0	38,272	60.7%

資料）大和高田市資料

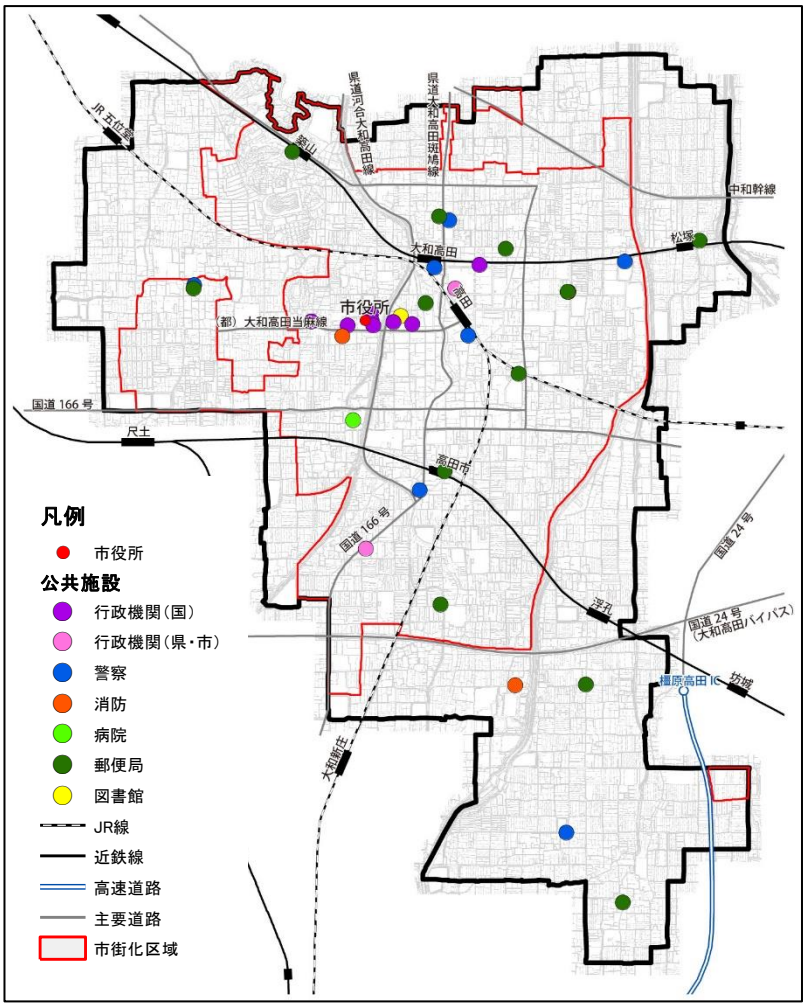
９）公共公益施設

（1）公共施設の状況

・市街地に公共施設が立地、中心部（西側）には公共・公益機能が集積している。

公共施設は、市街地を中心として立地しています。

中心部の西側には、行政機関、文化施設等の公共施設が集積しています。市役所や、国、県の行政機関が立地し、本市および周辺市町における行政拠点の役割を担っています。



■公共施設の立地状況

資料）国土交通省「国土数値情報：公共施設」

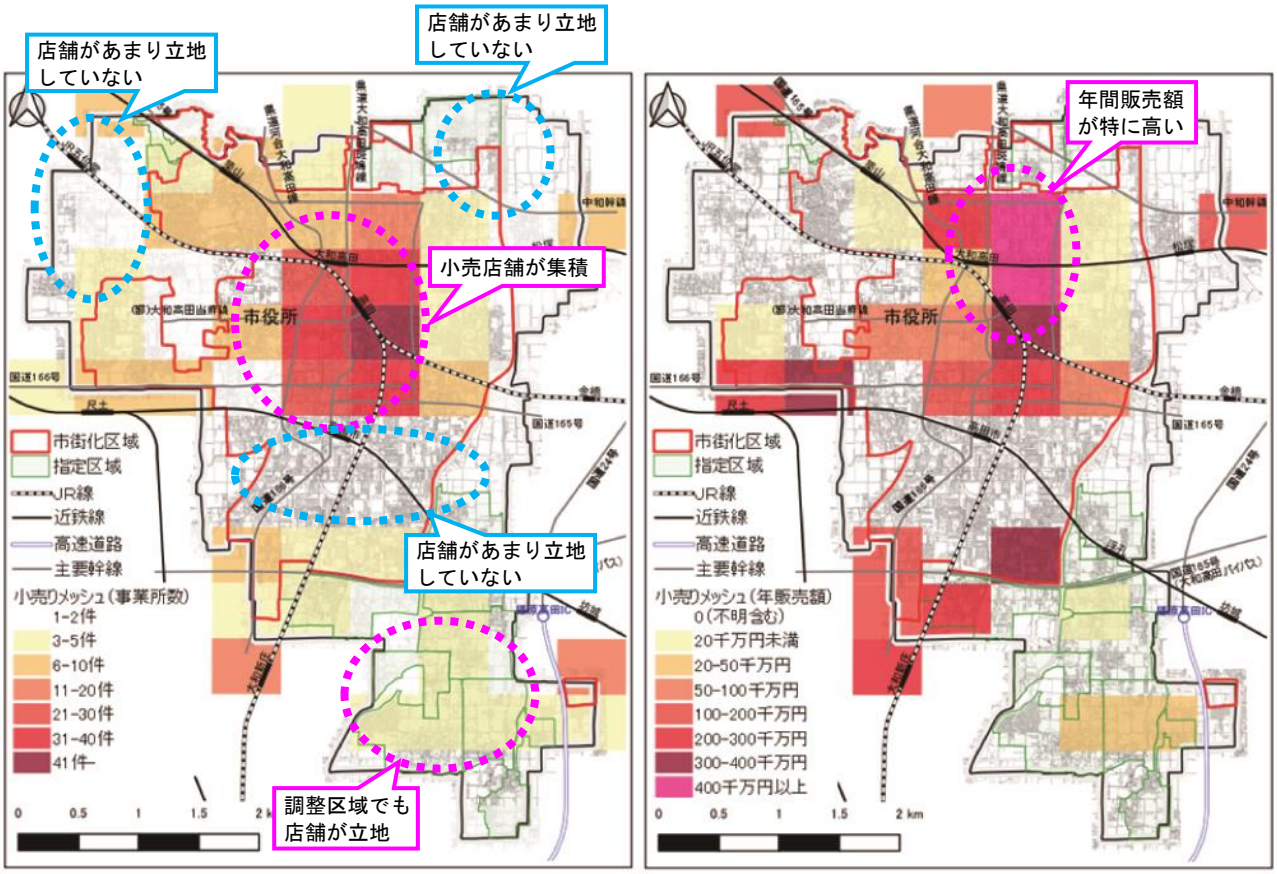
（2）生活サービス施設の状況

- 中心部に商業施設が集積、中心部北側で小売業販売額が特に高い。
- 市街化調整区域内でも南部の指定区域内などでは店舗の立地がみられる。

500mメッシュにおける小売店舗の事業所数及び小売店舗の年間販売額をみると、中心部に小売店舗が集積しており、特に中心部北側で小売業販売額が高くなっています。

また、市街化調整区域であっても、指定区域の箇所など、市南部には商業施設が一定立地している状況です。

一方、市街化区域内の南部は、小売店舗の集積が少なく、市北西部・北東部の市街化調整区域にも店舗が少ないところがみられます。



■500mメッシュにおける小売店舗の状況（左：事業所数　右：年間販売額）

資料）経済産業省「商業統計メッシュデータ（2014 年）」

10）都市づくりに関する主要なプロジェクト

（1）まちづくりに関する包括協定

・市内中心部の 4 地区について、奈良県と「まちづくりに関する包括協定」を締結し、まちづくりの取り組みが推進されている。

本市では、2015 年 7 月に奈良県と「まちづくりに関する包括協定」を締結し、地域の持続的な発展や、活性化をめざしたまちづくりに、連携・協力して取り組んでいます。

包括協定の対象地区は、市内中心部の(1)シビックコア周辺地区、(2)近鉄大和高田・JR 高田駅周辺地区、(3)近鉄高田市駅周辺地区、(4)常光寺池公園周辺地区の 4 地区です。

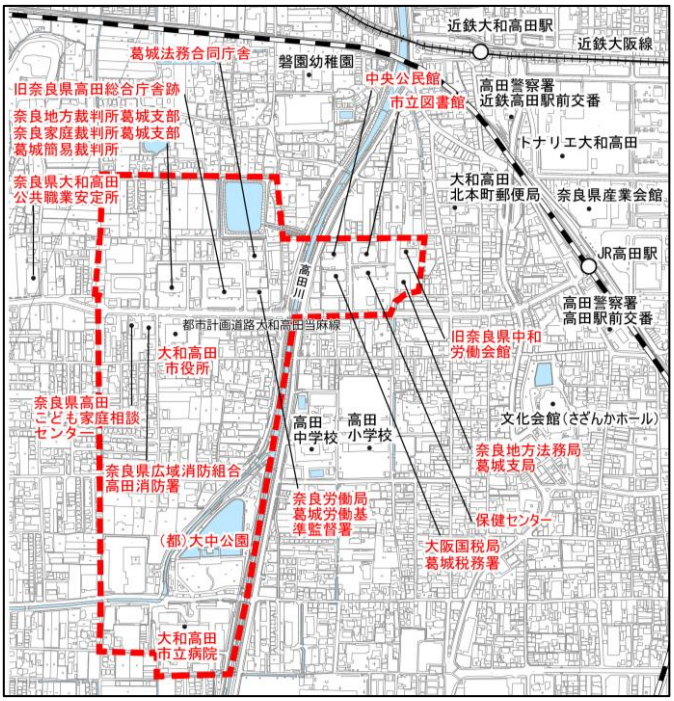
■まちづくりに関する包括協定の対象地区

資料）大和高田市「大和高田市のまちづくりについて（2015 年 7 月 6 日）」

（2）シビックコア周辺地区まちづくり基本構想・基本計画

・中心市街地西側に位置するシビックコア周辺地区では、まちづくり基本構想、基本計画を策定し、行政・文化施設を中心とした魅力あるまちづくりが推進されている。

中心市街地の西側に位置し、市役所をはじめ、国、県、市の施設が集積するシビックコア周辺地区では、「大和高田市の都市機能の集積とにぎやかな交流拠点のシビックコア」をめざし、地区の持続的発展及び活性化をめざしたまちづくりに取り組んでいます。



■シビックコア周辺地区

資料）「大和高田市シビックコア周辺地区
まちづくり基本計画（2019 年 3 月）」

11）災害・防災

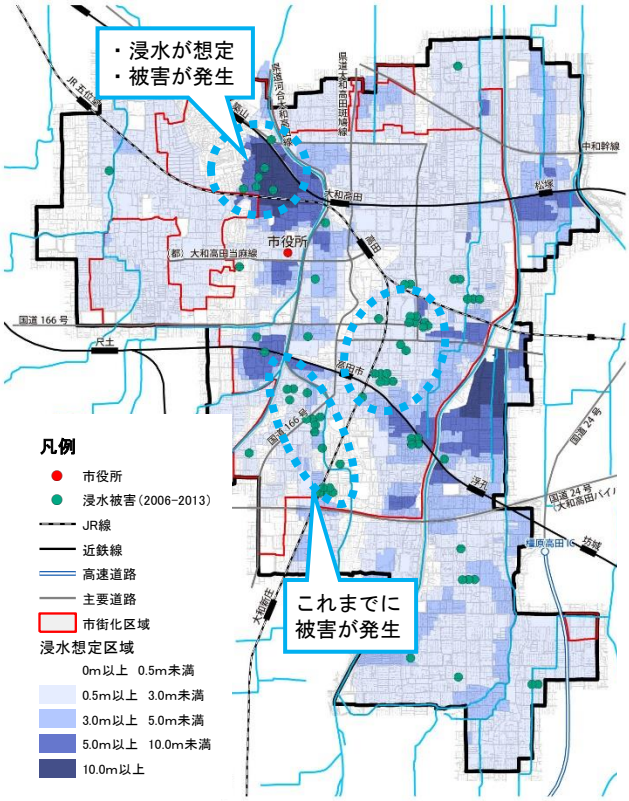
（1）洪水

・近鉄大和高田駅の西側など、浸水想定区域において浸水被害が発生している。
・水害時の指定避難所を市内 7 箇所に指定している。

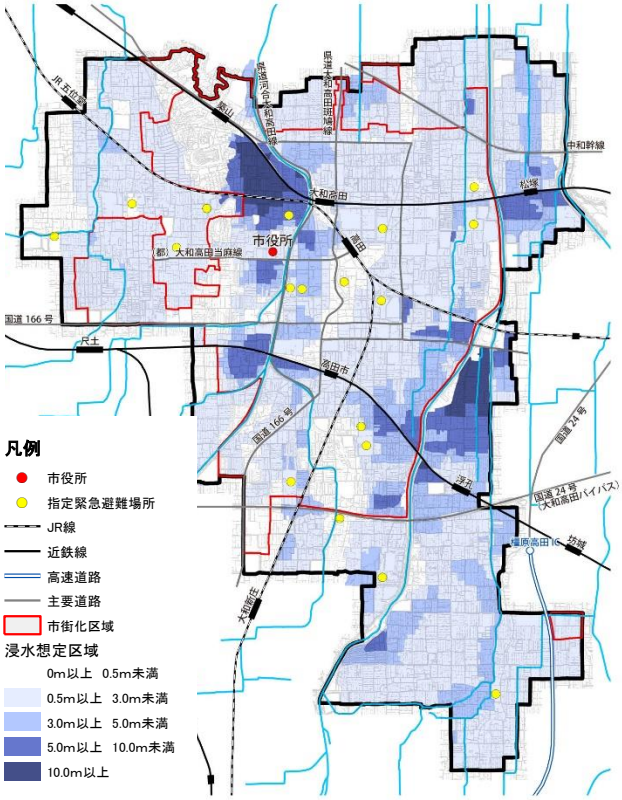
本市には、南北方向に葛城川や高田川、東西方向に太田川など大小多くの河川が流れ、台風や大雨等の際には水害が懸念されます。

近鉄大和高田駅の西側で 3m以上の浸水が懸念され、これまでに浸水被害も発生しています。また、高田川沿いなどでこれまでに浸水被害が発生しています。

水害を想定した指定緊急避難場所を 18 箇所、指定避難所を 7 箇所指定しています。



■浸水想定区域と浸水被害の実績



■指定緊急避難場所の位置

資料）大和高田市資料、国土交通省「国土数値情報：洪水浸水想定区域」
大和高田市「都市計画基礎調査（2014 年）」（浸水被害実績）

（2）地震

・内陸型地震と海溝型地震（南海トラフ巨大地震）による被害が想定される。

本市で懸念される地震として、海溝型地震と活断層による内陸型地震の 2 種類の地震があります。海溝型巨大地震において想定しうる最大クラスの地震としては、南海トラフ地震があり、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会（2012.3）」によると、本市では最大震度 6 強が想定されています。

また下表で示すように、奈良県の「第２次奈良県地震被害想定調査報告書（2004.10）」によると、最大で死者 258 人、負傷者 947 人の発生が予測されています。

（1）奈良盆地東縁断層帯（想定震度７）

区　　分	死者	負傷者	全　壊	半　壊	出　火	避難者	断　水	停　電	ガス供給
人数・世帯数	207	867	4, 649	3, 899	44	24, 639	25, 179	25, 232	19, 359
率（%）	0. 3	1. 2	27. 7	23. 2	0. 3	33. 4	99. 8	100. 0	100. 0

（2）中央構造線断層帯（想定震度７）

区　　分	死者	負傷者	全　壊	半　壊	出　火	避難者	断　水	停　電	ガス供給
人数・世帯数	258	947	5, 841	3, 620	59	24, 635	25, 179	25, 232	19, 359
率（%）	0. 4	1. 3	34. 8	21. 6	0. 4	33. 4	99. 8	100. 0	100. 0

（3）生駒断層帯（想定震度７）

区　　分	死者	負傷者	全　壊	半　壊	出　火	避難者	断　水	停　電	ガス供給
人数・世帯数	206	865	4, 620	3, 902	44	24, 649	25, 179	25, 232	19, 359
率（%）	0. 3	1. 2	27. 5	23. 2	0. 3	33. 5	99. 8	100. 0	100. 0

（4）東南海・南海地震同時発生（想定震度５強）

区　　分	死者	負傷者	全壊	半　壊	出　火	避難者	断　水	停　電	ガス供給
人数・世帯数	0	51	97	90	0	560	4, 268	2, 425	669
率（%）	0. 0	0. 1	0. 6	0. 5	0. 0	0. 8	16. 9	9. 6	3. 5

※住宅被害は棟数、出火は件数

資料）奈良県「第２次奈良県地震被害想定調査報告書（2004 年 10 月）」、大和高田市「大和高田市地域防災計画」

（3）土砂災害

本市では、土砂災害（特別）警戒区域等の指定はなく、水害における土砂災害の危険性は低くなっていますが、地震発生時における液状化現象は、市内全域に発生のおそれがあります。

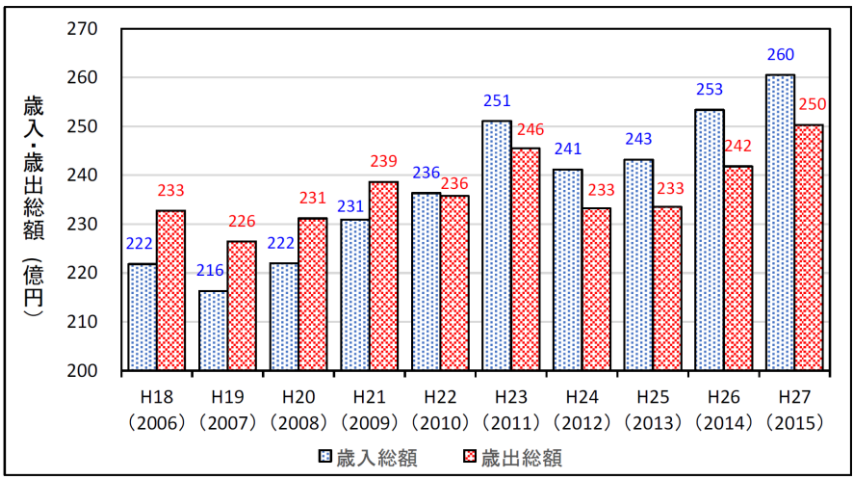
12）財政

（1）市の財政状況

・近年は、歳入が歳出を上回っている。
・公共施設の将来コスト増大が懸念される。

①歳入・歳出の推移

2006 年から 2015 年までの歳入・歳出総額を普通会計ベースでみると、歳入・歳出ともに 2012 年度から増加傾向にあり、2015 年度には歳入が約 260 億円、歳出が約 250 億円となっています。2009 年度までは歳出が歳入を上回っていたものの、年々歳入が増加し、2010 年度以降は歳入が歳出を上回っています。

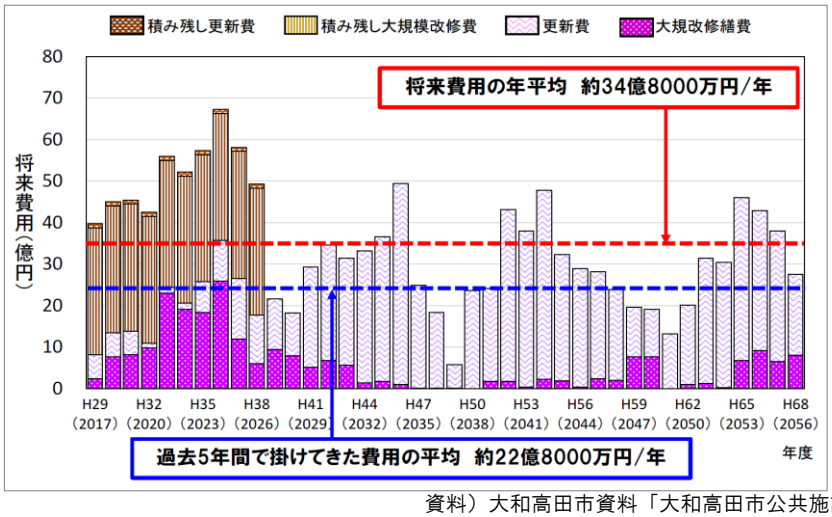


■決算規模の推移

資料）大和高田市資料「大和高田市公共施設等総合管理計画」

②公共施設の将来コスト

本市が所有する全ての施設を現行の状態で更新した場合の今後 40 年間の大規模修繕費及び更新費に係る将来費用を試算した結果、その総費用は約 1,393 億 6,000 万円、1 年当たりの平均費用は約 34 億 8,000 万円となりました。また、過去 5 年間（平成 23 年度～平成 27 年度）で公共施設に掛けてきた費用（投資的経費の普通建設事業費+維持修繕費）の平均は、約 22 億 8,000 万円であり、今後 40 年間で必要となる費用はこれまでの約 1.5 倍と試算されます。



資料）大和高田市資料「大和高田市公共施設等総合管理計画」

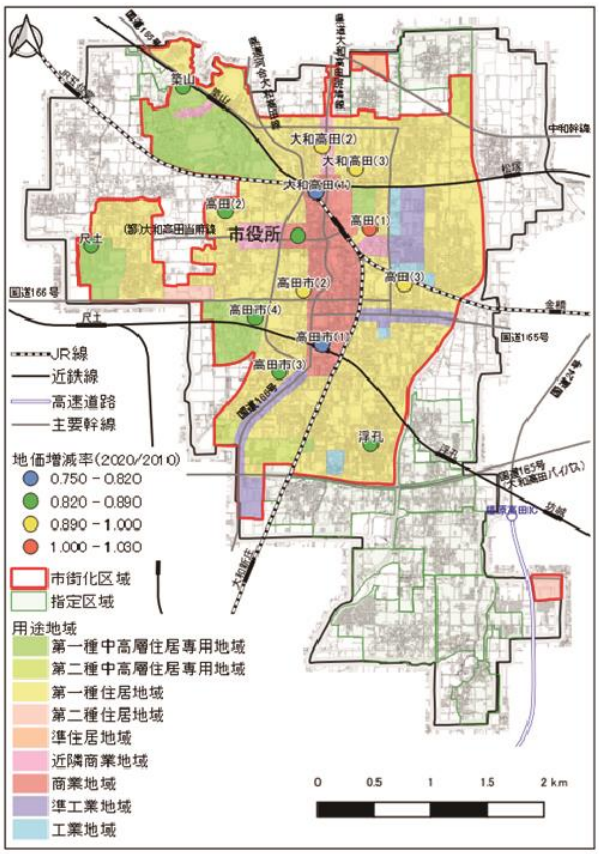
（2）地価公示価格と増減・推移

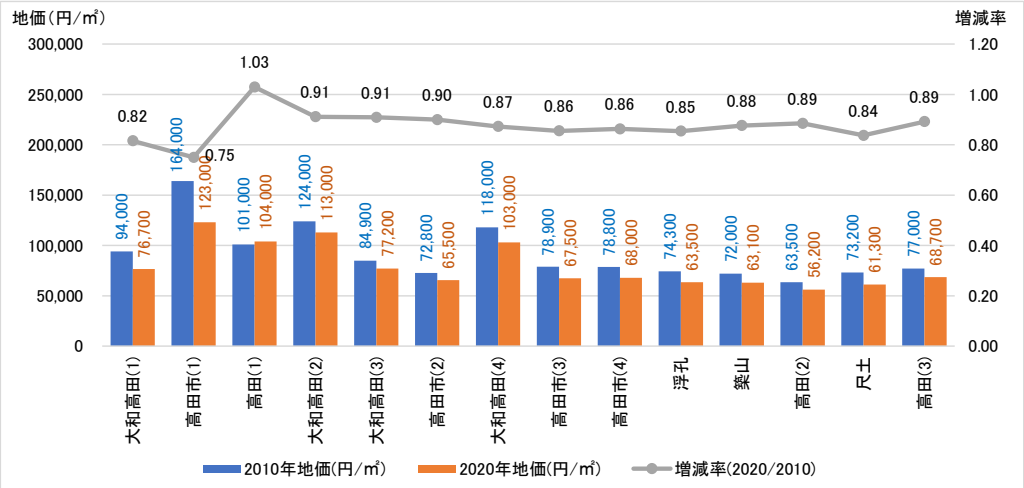
・ほとんどすべての地点で地価が下落している。
・中心部の商業地で特に下落。中心部の住宅地では上昇している。

国土交通省による地価公示価格について、2010 年から 2020 年の各地点の増減率（2020 年価格/2010 価格）をみると、ほとんどすべての地点において地価が下落しています。

特に駅前の商業地域（大和高田(1)及び高田市(1)）において下落が顕著であり、中心部の価値・魅力が低下していると言えます。また、市域の西側は、総じて下落傾向が顕著です。

一方、中心部の住宅地（高田(1)）では、今回調査地点の中で唯一、地価が上昇しており、住宅地としての評価がうかがえます。





■地価公示価格の推移（2010 年→2020 年）

資料）国土交通省「国土数値情報：国土交通省地価公示」

2．上位計画

（1）大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 ―持続的な土地利用の方針―

「大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針―持続的な土地利用の方針―」は、20 年先を見据えた県の都市づくりの将来像（ビジョン）を示した上で、今後 10 年間の都市計画の基本的な方向性として、県や市町村による都市計画決定の拠り所となる土地利用や都市基盤整備の方向性や、都市づくりにおける重点的に進めるべき整備方針を示し、都市づくりに関わる様々な主体間で共有することにより、協働の取組などを通して都市づくりの将来像を実現するために策定するものです。

<table>
<tr><td colspan="2">計画名称</td><td colspan="2">大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針―持続的な土地利用の方針―</td></tr>
<tr><td colspan="2">策定時期</td><td colspan="2">令和 4 年 5 月策定</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>都市づくりの方向性</td><td colspan="2">①特徴ある魅力を活かし風格と美しさを高める都市づくり
都市機能の充実・強化、中心市街地の活性化、歴史・文化を活かした賑わい創出、奈良らしい景観形成、活力を育む公共空間づくり
②ライフステージごとに元気に暮らすことができる都市づくり
良質な居住環境の形成、オールドニュータウンの再生、健康まちづくりの推進、公共交通ネットワークの維持・確保
③持続的な発展を可能とする環境共生型の都市づくり
農地の計画的な土地利用の推進、循環型社会の実現、グリーンインフラの展開
④地域の活力を創造し育む都市づくり
観光産業の育成、新産業拠点の創出、戦略的な企業立地の推進、空き家対策の推進、地域が自立する仕組づくり
⑤安心・安全な居住環境と強靭さを備えた都市づくり
減災に重きを置いたインフラ整備、事前復興まちづくりの推進、地域で見守る高齢者福祉の取組、交通弱者の移動手段の確保、地域コミュニティの活性化
⑥住民と行政の共創による都市づくり
奈良モデルの推進、多様な主体の参画による都市づくりの推進、エリアマネジメントの推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大和都市計画区域の将来像</td><td colspan="2">・北部地域、中部地域、東部地域に分けて将来像を記載。
・大和高田市は中部地域に位置する。</td></tr>
<tr><td>中部地域（大和高田市に関する事項のみ）</td><td>・主要駅周辺(日常生活圏の中心)：各地域の景観との調和、居住機能・商業サービス機能の維持・充実、既存市街地の再構築
・鉄道駅や大規模自動車道等の沿道空間：観光・交流者の移動円滑化、沿道景観整備、交流空間の確保、情報発信の充実
・京奈和自動車道等を軸とした広域連携、国道 169 号等の幹線道路等による地域連携軸の形成
・戸建て住宅地：良好な住環境の維持、空家の活用・住替えの支援

</td></tr>
</table>

	区域区分の方針	大和都市計画区域及び吉野三町都市計画区域は、近郊整備区域を含むことから都市計画法第 7 条第 1 項の規定により、区域区分を定める	
	土地利用の方針	主要用途の配置等	・健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図るための土地利用を推進 ・「用途地域決定の基本方針及び決定基準」に基づく用途指定 ・市町村と連携し、立地適正化計画による誘導施策を並行しつつ、市街地の将来像に応じた機能の立地を誘導
		市街地における住宅・住環境整備の方針	・魅力ある風土と豊かな暮らしを育む「住まいの奈良」の実現 ・居住環境の安全性・快適性の向上、住宅ストックの形成と活用 ・ライフスタイル等に合わせ住宅・住環境を選択できるような市場環境の整備、既存住宅の利活用を促すための情報提供 ・郊外戸建住宅地：良質な住環境の維持保全、「歩いて暮らせるまちづくり」の推進、住民やＮＰＯ等による地域活動・居住地管理（マネジメント）の推進、多世代居住の促進 ・駅前・中心市街地：空き地や空き家等の活用検討とまちなか居住の推進、商業者・住民等による地域活動・居住地管理の推進 ・人口減少等に対応した既成市街地における「漸次的な縮退」のあり方の検討、立地適正化計画に基づく誘導や空き家対策など将来にわたっても持続性を担保できる土地利用の誘導
		市街化調整区域の土地利用の方針	・良好な自然環境や農用地などの保全、その他の区域の市街化抑制や農林漁業と調和した土地利用の形成 ・既存コミュニティの維持・地場産業の育成・地域の活性化のため必要な地域については、地域の実情に応じた「保全」と「活用」のメリハリのある効果的な土地利用施策を運用
	都市施設に関する方針その他	交通施設	・都市の骨格となる広域連携軸の変化、広域連携軸へのアクセスによるネットワークの形成、拠点化の交流や都市活動を支える地域連携軸の強化、健康的で快適な暮らしを支え自然や歴史文化遺産との交流を促す歩行者・自転車空間の形成 ・長期未着手の都市計画道路の必要性の検証、廃止対象路線等の抽出、必要に応じた都市計画の見直し ・主要な道路の整備目標(都市の骨格となる広域連携軸)：大和御所道路（橿原市、大和高田市）※大和高田市に関する路線のみ抽出
		下水道	・汚水処理未普及地域の早期解消、大和川のきれい化推進など公共用水域の水質改善 ・持続的な下水道機能の確保、下水道ストックマネジメントの推進 ・リサイクル率及びエネルギー化率の向上、広域化・共同化事業の推進 ・人口減少などにより下水処理場の規模が縮小し未使用の用地が生じる場合は、資源エネルギー利用・浸水対策・災害対策の強化等に必要な施設の設置など有効活用に努める
		河川	・浸水被害の軽減・解消、安全安心して暮らせるような川づくり ・地域の特性や歴史・文化・景観や動植物の生息環境等にも配慮した河川の整備 ・河川水質や水辺環境の向上、自然と共生した水辺空間と美しい風景の保全・創出

■奈良県都市計画区域全体の将来都市構造のイメージ図

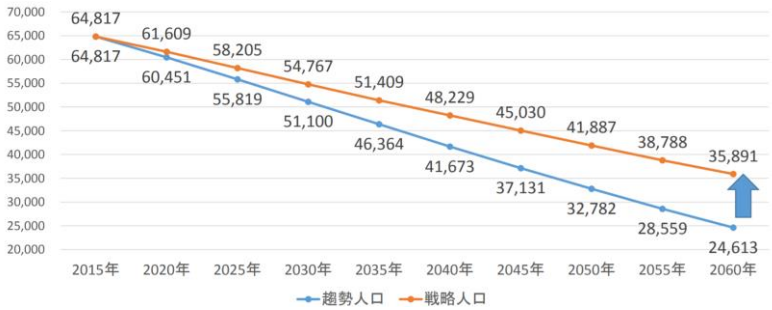
（2）大和高田市まちづくりの指針

総合計画に代わって大和高田市の行政運営の指針を示すものとして、計画期間を前期４年、後期８年として計画を定め、めざすまちの将来都市像の実現に向け、本市が抱える課題の重要性・緊急性を踏まえつつ、重点的に行わなければならない施策を明らかにすることで、本指針に基づく事業の整理や行政評価の見直しなどを進めることを目的とするものです。

計画名称	大和高田市まちづくりの指針
策定時期	令和２年３月
将来都市像	【笑顔の花咲くまち大和高田～みんなで奏でる幸せのハーモニー～】
基本目標	①認め合い、高め合う 人が輝くまちづくり ②子どもたちの笑顔あふれるまちづくり ③健康でいきいきと暮らせるまちづくり ④活気あふれるにぎわいのまちづくり ⑤安心して暮らせる快適のまちづくり ⑥自立と協働のまちづくり
都市計画関連の項目 （『安心して暮らせる快適のまちづくり』より）	**●持続可能なまちづくりの推進** ・これまで進めてきた自然・歴史・文化環境の整備、定住環境の整備の継承 ・中心市街地と生活拠点を結ぶ交通ネットワークの形成と再構築 ・コンパクトで利便性の高いまちの維持・発展 **●都市基盤の整備** ・都市計画道路の整備など、まちの拠点的な基盤整備 ・上下水道事業の充実 **●生活環境の整備と充実** ・安心して暮らせる住環境づくり、空家などの予防・抑制・適正管理を目指した取組 ・公園整備、緑化の取組 **●安全で災害に強いまちづくりの推進** ・交通安全及び防犯対策の推進 ・危機管理体制の強化や危機管理意識の高揚、防災対策も踏まえた安心に暮らせるまちづくりの推進
重点施策	①医療・保険・福祉の充実 ②若者世代・子育て世代が住みよいまちづくり ③災害に強いまちづくり ④産業の活性化
都市計画関連の項目 （『災害に強いまちづくり』より）	（施策の例） ・防災対策の推進 ・道路交通体系の充実　など

（3）大和高田市人口ビジョン及び第２期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

まち・ひと・しごと創生法に基づき、人口減少・少子高齢化の進行や転出超過の是正などの課題を解決し、第１期「大和高田市まち・ひ と・しごと創生総合戦略」から引き続き、地方創生への取組を強化するため、本市の人口の将来見通しを示す「人口ビジョン」とこれを実現するための「総合戦略」を定めるものです。本計画は人口減少、少子高齢化対策を目的とし、本市が重点的に取り組む施策を示す「大和高田市まちづくりの指針」を補完する役割を担います。

計画名称		大和高田市人口ビジョン 第２期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
策定時期		平成 27 年（2015 年）10 月策定、令和 2 年（2020 年）3 月改定
人口ビジョン	将来人口の見通し	**●人口問題に対する取組の考え方** ・2015 年の総人口 64,817 人から、今後の趨勢として 2060 年に 24,000 人に減少することが見込まれる。 ・出生率と定住率の上昇を図るとともに、20-30 歳代の転出超過の抑制に取り組む。 **●めざすべき将来の戦略人口と展望** ・少子高齢化、転出超過といった本市の人口問題に対し、長期的視点から取り組むことにより、2060 年において 35,000 人程度の人口規模を目指す。 
総合戦略	安定した雇用を創出する	・地域産業の振興：相互支援体制の充実、市特産品の開発とブランド力の強化、中小企業者への支援、働きやすい環境づくりの支援 ・地元雇用の創出：企業誘致の推進、農業の担い手確保・育成・就農支援
	新しいひとの流れをつくる	・移住・定住の推進：住まいの確保支援、ＵＩＪターンの推進 ・本市への愛着を育む取組の推進 ・魅力発信の強化
	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	・出産希望の実現 ・子育て希望の実現 ・結婚希望の実現 ・子育て情報発信の充実
	地域が連携し安心して暮らせるまちをつくる	・時代の変化に対応できるまちづくり：地域の特性に応じたコンパクトなまちづくりの推進、地域資源を活用したまちづくりの推進、未来技術の活用の積極的な検討 ・人と人のつながりを生かしたまちづくり ・健康づくりの推進

（4）大和高田市国土強靭化地域計画

平成 25 年（2013 年）12 月 11 日に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靭化基本法」が公布・施行されました。これに基づき、本市における国土強靭化に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、基本法第 13 条の規定に基づき、本市の国土強靭化の指針となるものとして、大和高田市国土強靭化地域計画を策定しました。

本計画では、「大和高田市まちづくりの指針」との整合を図りながら、本市が有する様々な分野の計画等に対し、国土強靭化に関する指針を付与するものとしています。

計画名称	大和高田市国土強靭化地域計画
策定時期	令和 2 年（2020 年）11 月策定
対象期間	令和 2 年度（2020 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 4 年間
国土強靭化により構築する本市の姿（強靭化像）	本市における国土強靭化は「目指すべき本市の将来像」の構築を下支えすべく、どんな大規模災害が発生しても壊滅的な被害を負わない「強固な防護力（堅牢性＋柔軟性）」、万一ダメージを受けても必ずかつ速やかに立ち直る「しなやかな弾力性・回復力」及び様々なマイナス要因もプラス要因に変える「創造性ある転換力」を兼ね備えた『永遠（とわ）に栄える“まほろば”大和高田』の構築に向けて取り組む。
基本目標	いかなる事態になろうとも Ⅰ 人命を守る　Ⅱ 住民の生活を守る　Ⅲ 迅速に復旧・復興する
事前に備えるべき目標	①災害対応及び住民生活支援に必要不可欠な行政機能の確保 ②災害対処に必要不可欠な通信・情報機能の確保 ③発災直後の被害の抑止・軽減 ④的確な消火・水防・救助・救急活動及び災害急性期医療活動の実施 ⑤二次災害の防止 ⑥安全・安心な被災生活及び生活基盤の確保 ⑦地域社会、経済の迅速な再建・回復
プログラムごとの取組（抜粋）	1 災害対応及び住民生活支援に必要不可欠な行政機能の確保 ・地域防災計画等の整備 2 災害対処に必要不可欠な通信・情報機能の確保 ・情報伝達体制の整備 3 発災直後の被害の抑止・軽減 ・公共施設の総合的な保全計画 ・既存木造住宅の耐震診断・耐震改修 ・自主防災組織の結成促進及び活動活性化 ・治水対策（河川等）：内水対策事業 4 的確な消火・水防・救助・救急活動及び災害急性期医療活動の実施 ・道路整備事業 ・インフラ整備事業 5 二次災害の防止 6 安全・安心な被災生活及び生活基盤の確保 ・公園整備事業、公園施設長寿命化事業 7 地域社会、経済の迅速な再建・回復

3．市民アンケート

（1）調査概要

都市計画マスタープランの見直しに向け、市民の現況に対する満足度や将来のまちづくりに関する意向等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

アンケート調査では、幅広い意見を取り入れるため、市内在住の住民を対象とした「市民アンケート調査」と、市内 3 高校に在籍する生徒を対象とした「高校生アンケート調査」を実施しました。

■調査概要

	市民アンケート調査	高校生アンケート調査
対　象	大和高田市在住の 18 歳以上の住民 （住民基本台帳から 2,000 人を無作為抽出）	大和高田市内にある 3 つの高等学校に在籍している高校 2 年生 ・奈良県立高田高等学校 ・大和高田市立高田商業高等学校 ・私立奈良文化高等学校
方　法	郵送による配布・回収	各高校から生徒への配布・回収
期　間	令和 2 年 12 月 1 日（火）～ 令和 2 年 12 月 11 日（金）	令和 2 年 12 月
回収数 回収率	有効発送数 2000 通 有効回収数 798 通 回収率 39.9%	配布数 684 通 回収数 684 通 回収率 100%
項　目	1.回答者の属性 2.日常生活の主な行き先 3.今後の定住意向 4.住環境の満足度・重要度 5.市の魅力や課題 6.今後のまちづくり 7.市のまちづくりについての自由意見	1.回答者の属性 2.日常生活の主な行き先 3.今後の定住意向 4.市の魅力や課題 5.今後のまちづくり 6.市のまちづくりについての自由意見

○留意事項

・集計は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを示している。このため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。

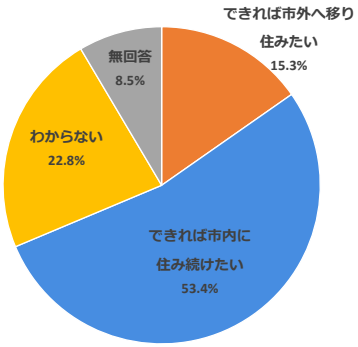
・回答の比率［%］は、その質問の回答者数を基数として算出している。このため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。

・設問指示に従わない回答（単数回答の設問に複数回答している、複数回答の設問に指示を超える選択をしている等）は無効としている。

（2）定住意向

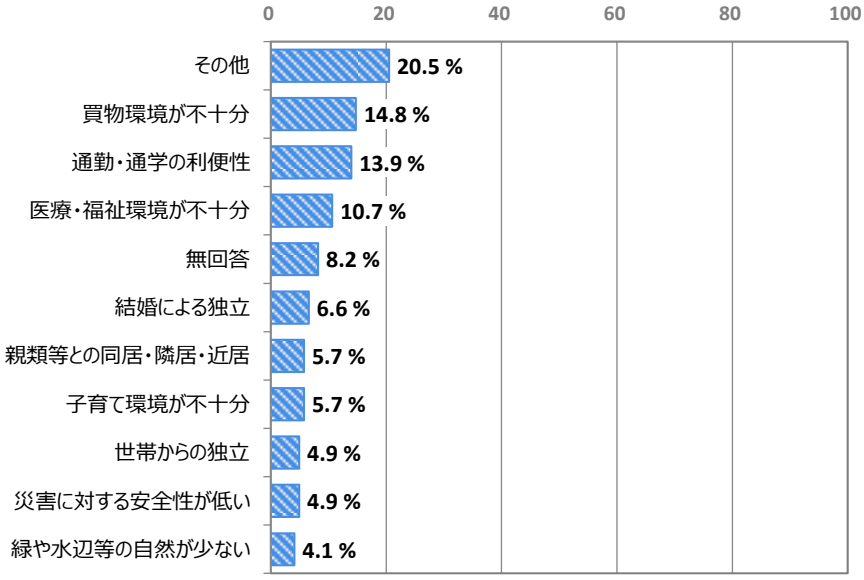
①今後の定住意向（概ね 10 年以内）

・「できれば市内に住み続けたい」が 53.4%と半数以上を占めており、「できれば市外へ移り住みたい」は 15.3%にとどまっています。



②市外へ移り住みたい理由

・「その他」が 20.5%と最も多く、次いで「買物環境が不十分」が 14.8%、「通勤・通学の利便性」が 13.9%と続いています。

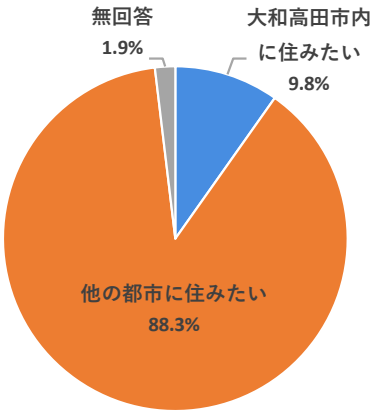


○高校生アンケート調査

・「他の都市に住みたい」が 88.3%と全体の 9 割近くを占め、「市内に住みたい」は 9.8%となっています。（市内在住の生徒は約 17%）

・自由記述欄に記入された意見（62 件）を分類すると、「地元・住み慣れている」に関する意見が 21 件（34%）、「施設が充実している」に関する意見が 17 件（27%）、「交通の便が良い」に関する意見が 17 件（27%）と多くなっています。

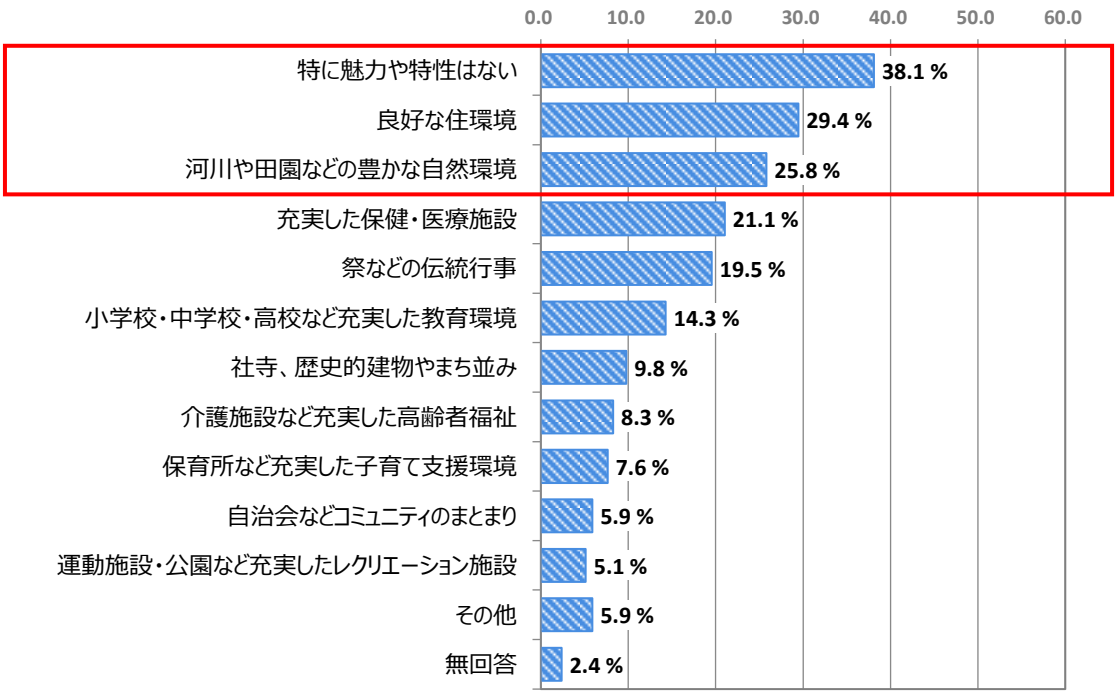
・住みたい都市として、「橿原市」が 17.8%と最も多く、次いで、「奈良県内」が 16.4%、「その他」が 16.1%と続いています。



（3）まちの魅力・課題

①まちの魅力

・「特に魅力や特性はない」が 38.1%と最も高く、次いで「良好な住環境」が 29.4%、「河川や田園などの豊かな自然環境」が 25.8%と続いています。



○高校生アンケート調査　※自由記述式

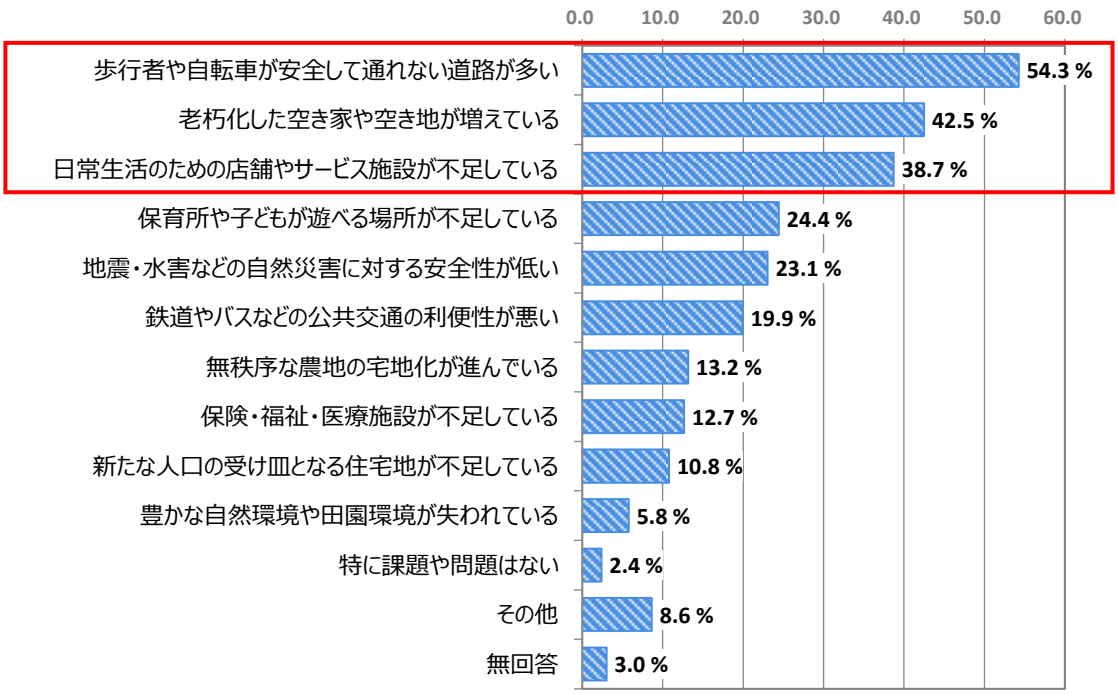
・「交通が充実」「施設が充実」「水・緑・公園」に関する意見が多く挙がっています。

■まちの魅力　（意見総数 634 件）

分類	意見の内容（抜粋）	件数 割合
交通が充実	・電車 1 本で大阪に出れるという交通の便の良さ ・特急抜きで 1 時間に 4 本も電車があり他のまちに行きやすい	223 件 35.2%
施設が充実	・店が多く、買い物が便利 ・トナリエができて高田で買い物がしやすくなった	138 件 21.8%
水・緑・公園	・大中公園の桜並木がきれい ・田んぼがたくさんあって自然豊か。空気がきれい	83 件 13.1%
その他	・都会過ぎず、田舎過ぎずちょうどよい場所だと思う ・商店街がおもしろい。寄って帰れるようなところが豊富	－

②まちの課題

・「歩行者や自転車が安心して通れない道路が多い」が 54.3%と最も多く、次いで「老朽化した空き家や空き地が増えている」が 42.5%、「日常生活のための店舗やサービス施設が不足している」が 38.7%と続いています。



○高校生アンケート調査　※自由記述式

・「道路の安全性」「治安面の不安」「施設が不足」に関する意見が多く挙がっています。

■まちの課題　（意見総数 562 件）

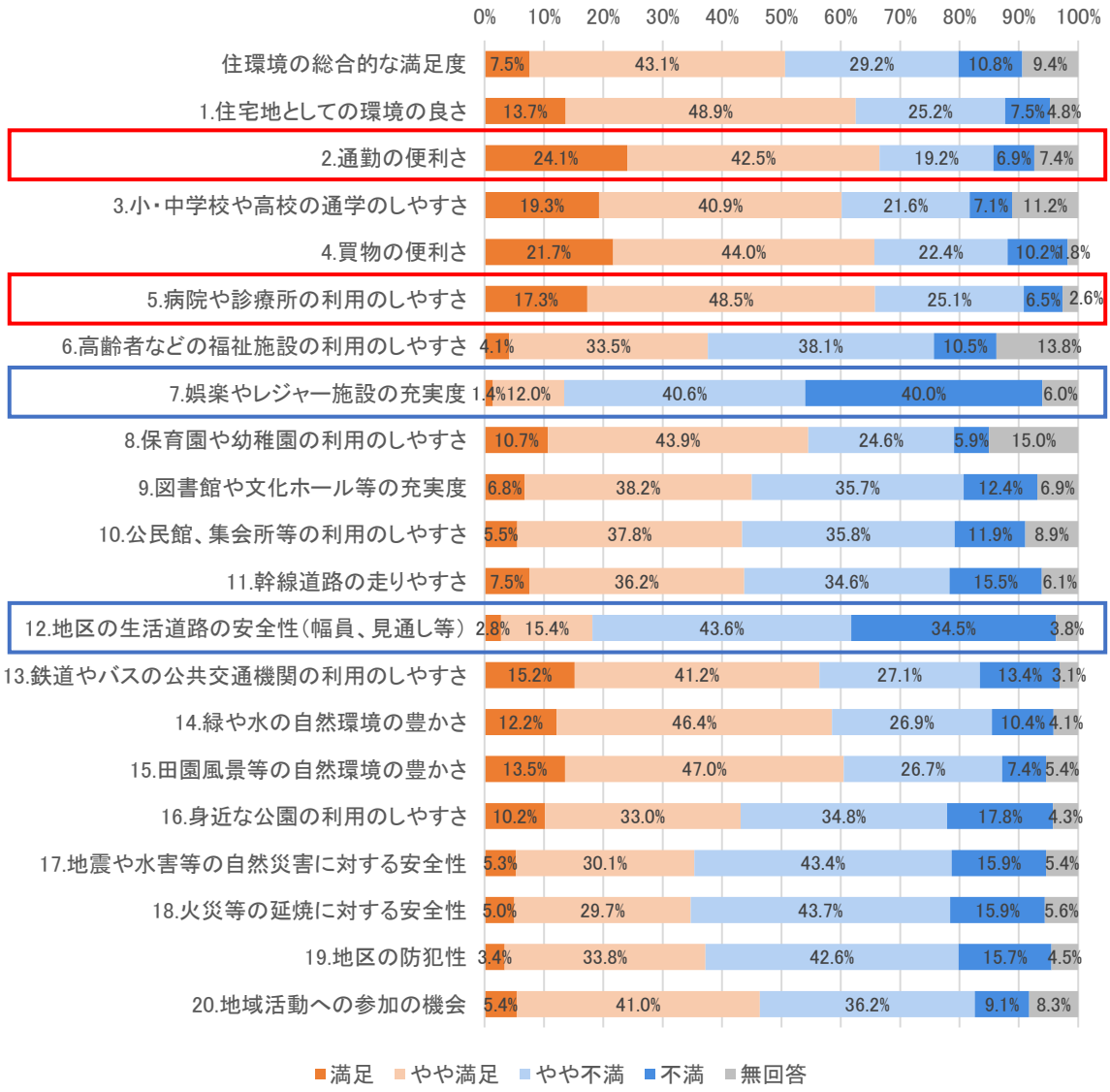
分類	意見の内容（抜粋）	件数 割合
道路の安全性	・歩道が狭い、街灯が少なく、夜になると暗くて危ない。 ・歩道がなかったり、狭いところがある	209 件 37.2%
治安面の不安	・治安の悪いイメージがある ・犯罪が多い。不審者が多い	128 件 22.8%
施設が不足	・行ってみたいと思う店がない。おしゃれなカフェ、文具、本屋がほしい ・遊べる場所が少ない。勉強しに行けるようなところが少ない。	105 件 18.7%
その他	・市営バスの情報をもっとわかりやすくしてほしい。 ・昔の名残があり、これから先の災害に対処できるか不安。	－

（4）住環境の満足度・重要度

①現状の満足度

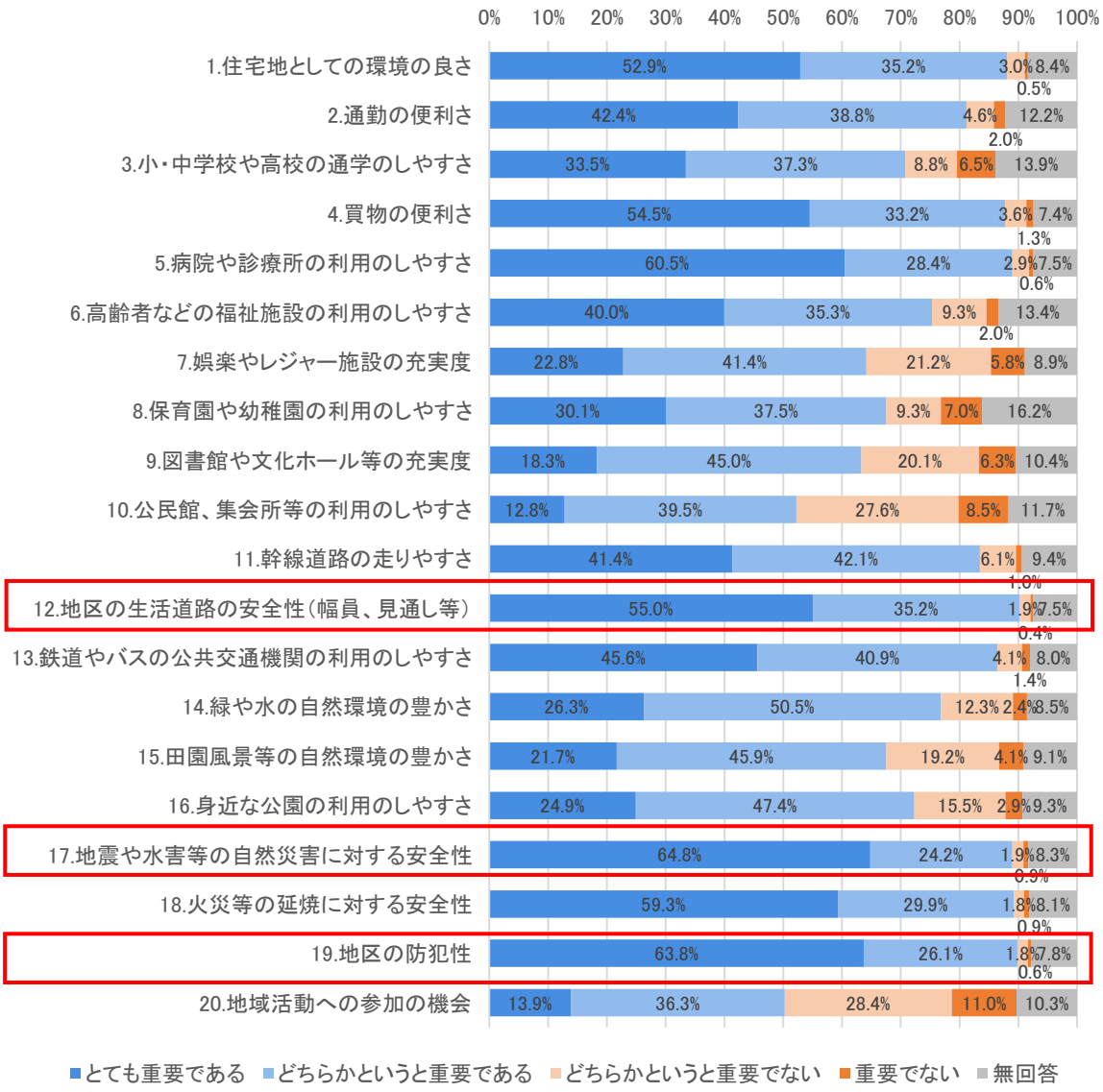
・住環境の総合的な満足度は、半数以上が「満足」、「やや満足」しています。

・各要素の満足度については、「通勤の便利さ」や「病院や診療所の利用のしやすさ」等の満足度が高く、「娯楽やレジャー施設の充実度」や「地区の生活道路の安全性（幅員、見通し等）」等に不満がみられます。



②今後の重要度

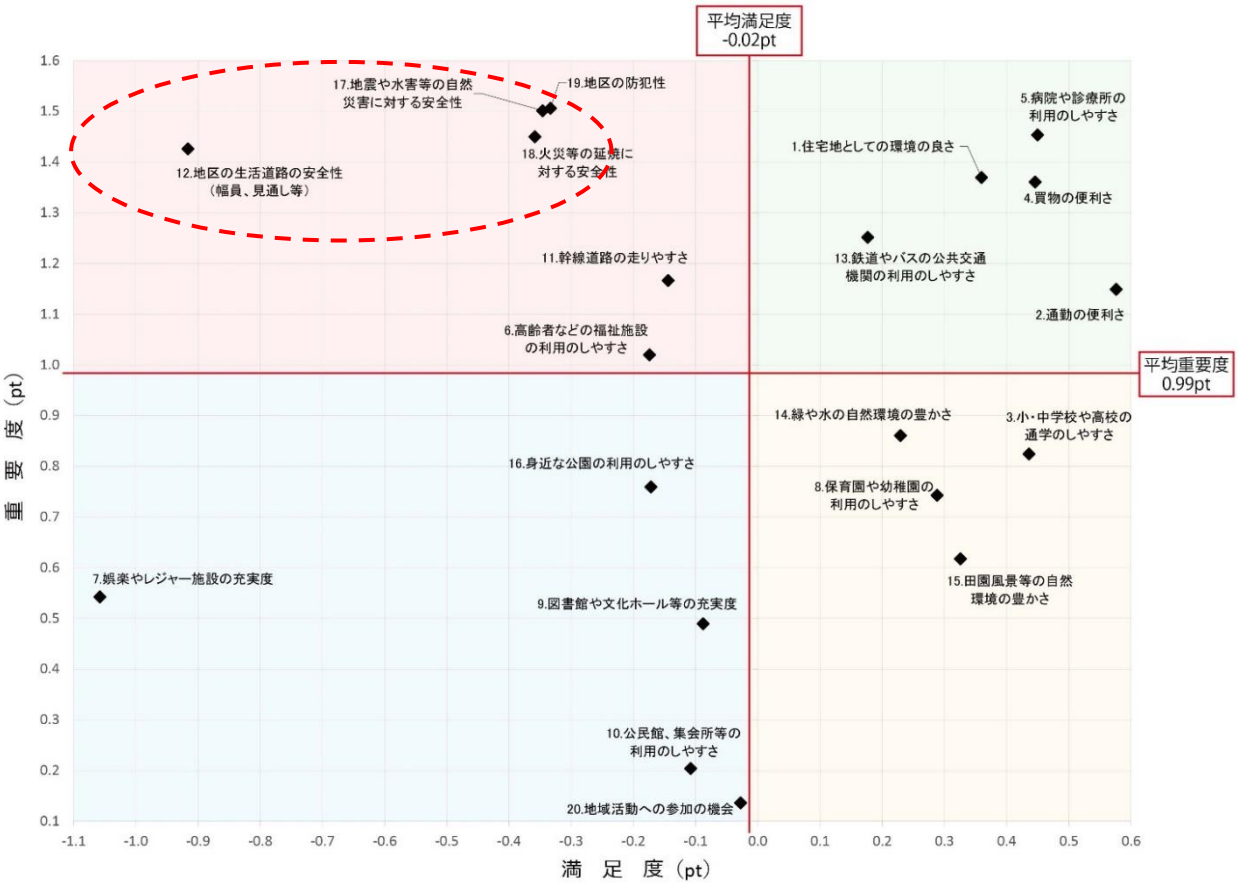
・各要素の今後の重要度について、「地区の生活道路の安全性（幅員、見通し等）」や「地区の防犯性」、「地震や水害などの自然災害に対する安全性」等の重要度が高くなっています。

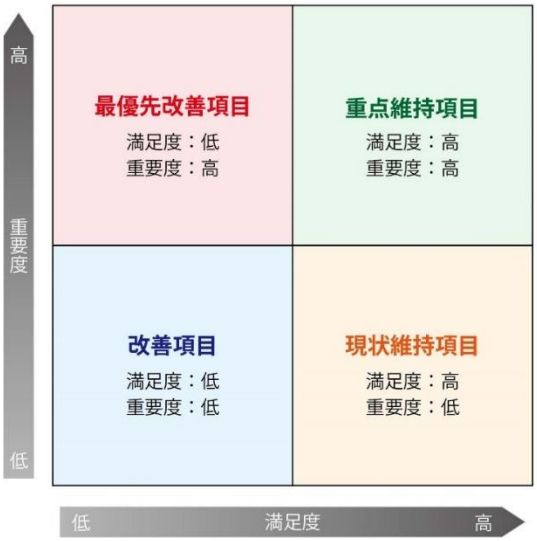


③「現状の満足度」と「今後の重要度」の関係性

・住環境の現状の満足度と今後の重要度の関係性をみると、重要度が高く満足度が低い「地区の生活道路の安全性（幅員、見通し等）」、「地震や水害等の自然災害に対する安全性」、「火災等の延焼に対する安全性」、「地区の防犯性」が今後の重要なテーマと言えます。

【横軸】満足度　「満足」：2pt、「やや満足」：1pt、「やや不満」：-1pt、「不満」：-2pt、「無回答」：0pt
【縦軸】重要度　「とても重要である」：2pt、「どちらかというと重要である」：1pt、「どちらかというと重要でない」：-1pt、「重要でない」：-2pt、「無回答」：0pt

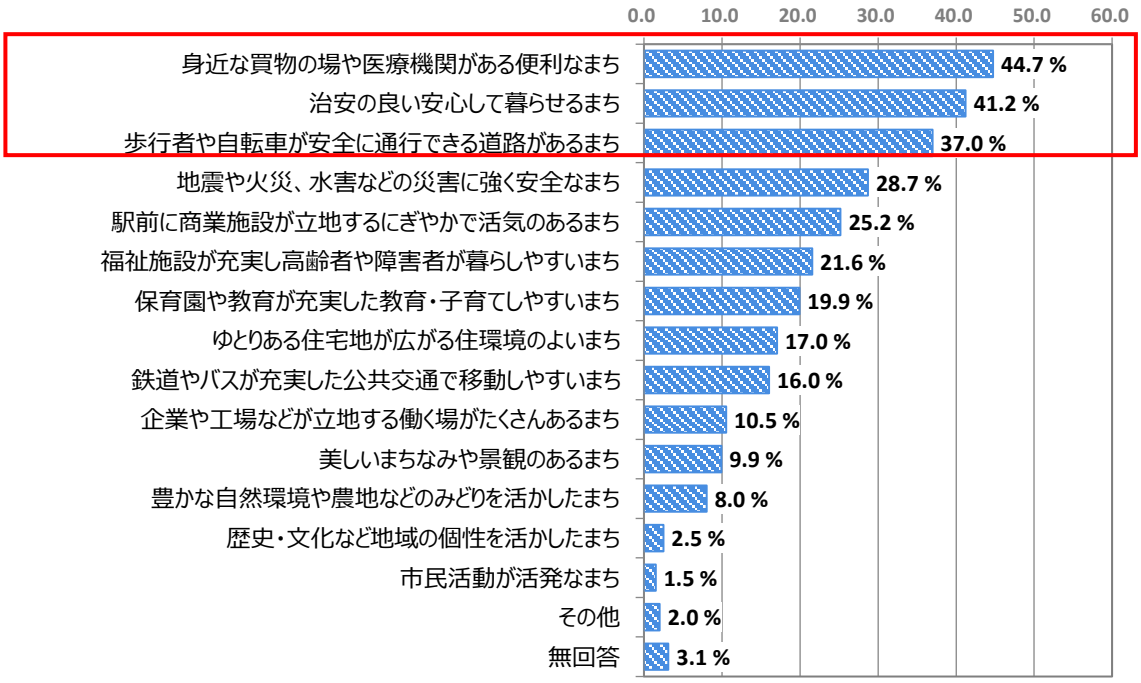




	満足度	重要度
1.住宅地としての環境の良さ	0.36	1.37
2.通勤の便利さ	0.58	1.15
3.小・中学校や高校の通学のしやすさ	0.44	0.82
4.買物の便利さ	0.45	1.36
5.病院や診療所の利用のしやすさ	0.45	1.45
6.高齢者などの福祉施設の利用のしやすさ	-0.17	1.02
7.娯楽やレジャー施設の充実度	-1.06	0.54
8.保育園や幼稚園の利用のしやすさ	0.29	0.74
9.図書館や文化ホール等の充実度	-0.09	0.49
10.公民館、集会所等の利用のしやすさ	-0.11	0.20
11.幹線道路の走りやすさ	-0.14	1.17
12.地区の生活道路の安全性（幅員、見通し等）	-0.92	1.43
13.鉄道やバスの公共交通機関の利用のしやすさ	0.18	1.25
14.緑や水の自然環境の豊かさ	0.23	0.86
15.田園風景等の自然環境の豊かさ	0.33	0.62
16.身近な公園の利用のしやすさ	-0.17	0.76
17.地震や水害等の自然災害に対する安全性	-0.35	1.50
18.火災等の延焼に対する安全性	-0.36	1.45
19.地区の防犯性	-0.33	1.51
20.地域活動への参加の機会	-0.03	0.14
平均	-0.02	0.99

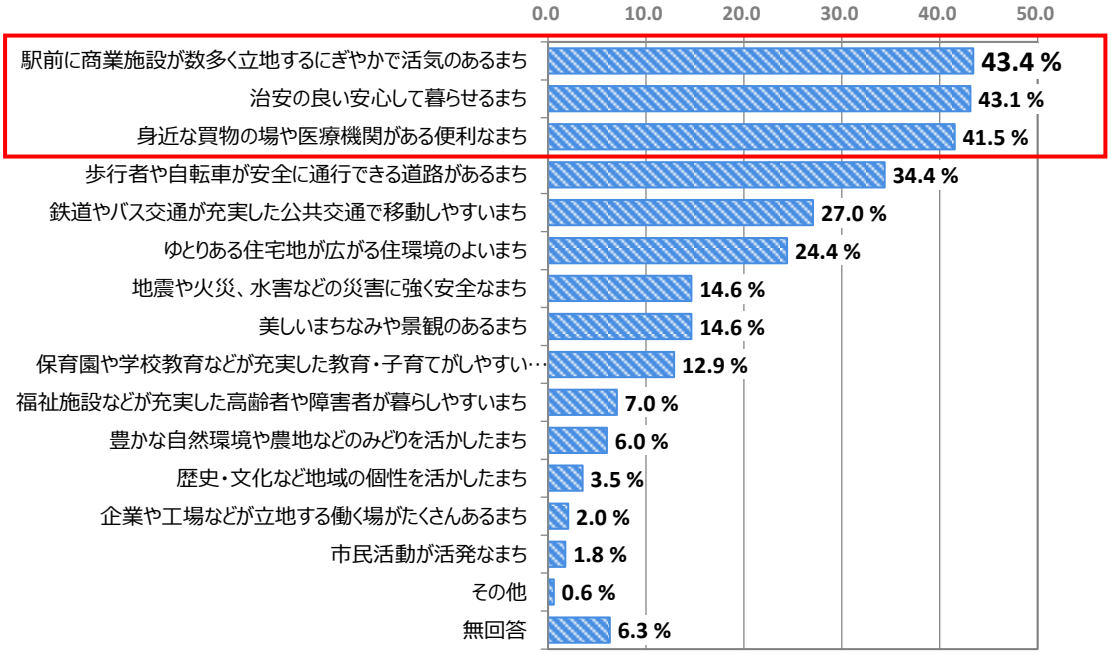
（5）まちの将来像

・「身近な買物の場や医療機関がある便利なまち」が 44.7%と最も高く、「治安の良い安心して暮らせるまち」が 41.2%、「歩行者や自転車が安全に通行できる道路があるまち」が 37.0%と続いています。



○高校生アンケート調査

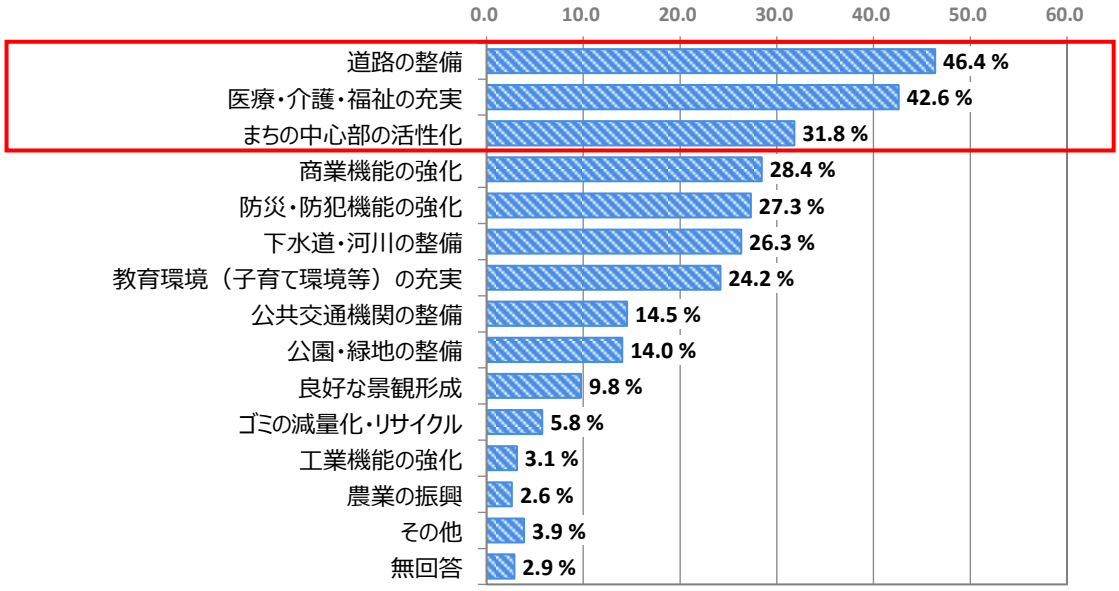
・「駅前などに商業施設などが数多く立地するにぎやかで活気のあるまち」が最も多く「治安の良い安心して暮らせるまち」、「身近な買物の場や医療機関がある便利なまち」と続いています。



（6）今後の市の施策

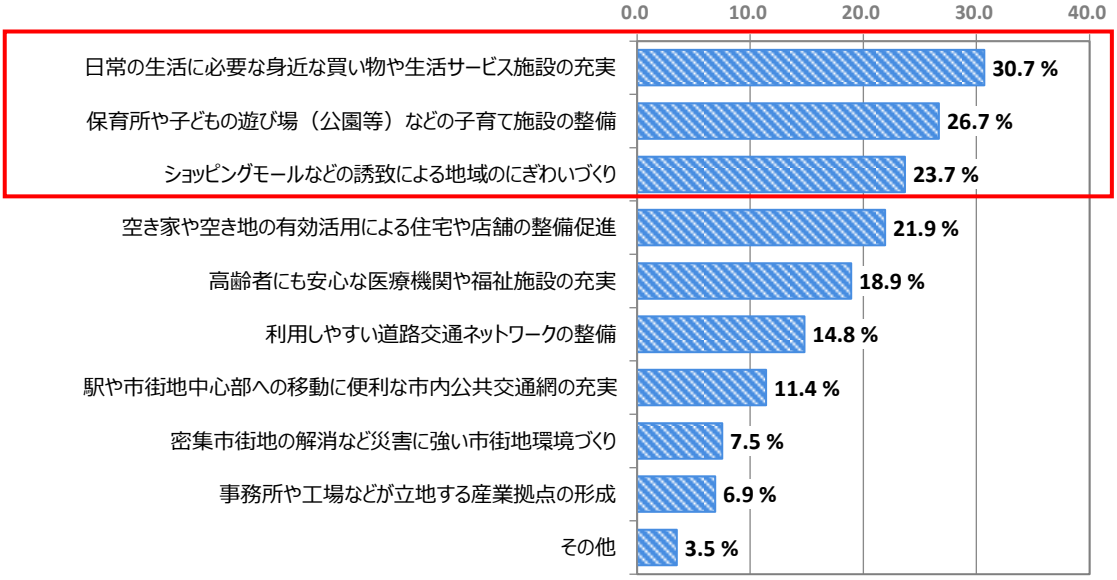
①優先的に取り組むべき施策

・「道路の整備」が 46.4%と最も高く、「医療・介護・福祉の充実」が 42.6%、「まちの中心部の活性化」が 31.8%と続いています。



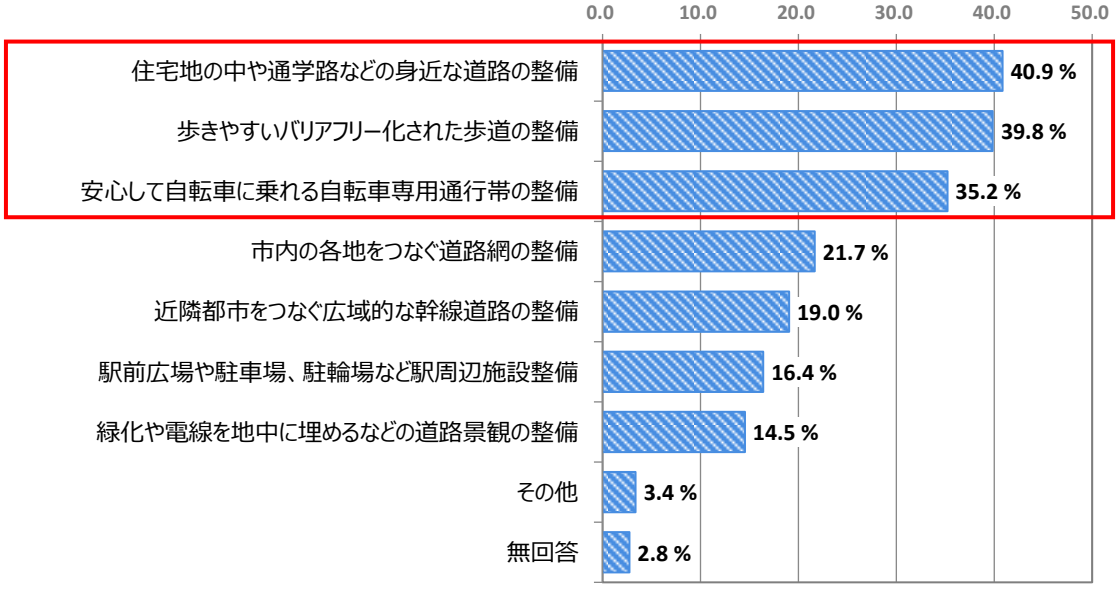
②転出を抑制し、定住を呼び込むために優先的に取り組むべき施策

・「日常生活に必要な身近な買物や生活サービス施設の充実」が 30.7%と最も高く、次いで「保育所やこどもの遊び場（公園等）などの子育て施設の整備」が 26.7%、「ショッピングモールなどの誘致による地域のにぎわいづくり」が 23.7%と続いています。



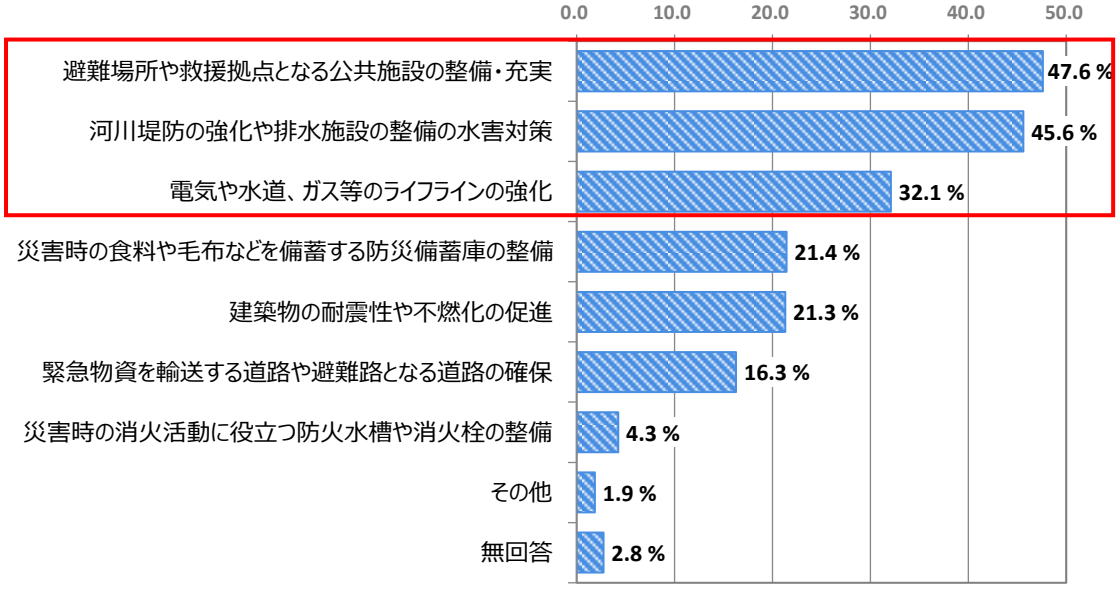
③道路・交通施設の都市整備について、優先的に取り組むべき施策

・「住宅地の中や通学路などの身近な道路の整備」が 40.9%と最も高く、次いで「子どもや高齢者、障がい者等が歩きやすいバリアフリー化された歩道の整備」が 39.8%、「安心して自転車に乗れる自転車専用通行帯（自転車レーン）の整備」が 35.2%と続いています。



④地震や風水害、火災などの災害に備えた都市整備について、優先的に取り組むべき施策

・「避難場所や救援拠点となる公共施設の整備・充実」が 47.6%と最も高く、次いで「河川堤防の強化や排水施設の整備の水害対策」が 45.6%、「電気や水道、ガス等のライフラインの強化」が 32.1%と続いています。



4．市民ワークショップ

（1）開催目的

10 年、20 年先の本市の目指すべき方向とその実現のため、地域の良い点や問題点、地域の将来像等について自由に意見交換し、アイデアを出し合うことを目的にワークショップを開催しました。

本ワークショップで挙げられた意見や提案は、地域別構想で示すまちの課題や、まちづくりの方向性に反映しています。

（2）実施概要

①総代ワークショップ

開催日：令和 4 年 6 月 3 日（金）1 部　13：00～14：30、2 部　15：00～16：30

場　所：大和高田市役所 3 階庁議室

人　数：各地域の総代 31 名

②子育て世代ワークショップ

開催日：令和 4 年 6 月 5 日（日）　　13：00～14：30

場　所：大和高田市役所 1 階市民サロン

人　数：公募市民 14 名

（3）開催方法

ワークショップでは、参加者がテーブルに分かれ、５地域（都市中核部、市北西部、市北東部、市南部、市中央部地域）の地域別に、ファシリテーターの進行のもと、ワークショップのテーマ「まちの良い点、問題点」「まちの将来像」について各グループで意見交換を行いました。

■ワークショップ開催の様子

【総代ワークショップ】都市中核部地域

【まちの良い点】

生活の利便性

- 駅が近いこと便利、日常の買い物への商業施設が近い
- 生活の利便性が良い（公共交通、病院、生活）
- 病院（市立病院、土庫病院、医院、歯科等）が多い

住環境

- 夜は静かで寝やすい
- 静かで生活しやすい
- 桜の通り

交通利便性

- （市町通り）交通量が少ないので自転車でも走りやすい
- 高低差が少なく歩きやすい

人

- 古くから住んでいる住民が多く、善い人が多い
- 人情があり、人にやさしい

【まちの問題点】

- 道幅が狭い
- 空き家が多い
- 用水路が汚い
- 道路整備
- 公共施設計画（病院、体育館）
- 町づくりの基本的な方針がわからない（マスタープラン等）
- 市内中心部まず飲食業の減少対策について
- 高齢者の交流の場（行き場所・居場所）が少ない
- 気軽に行けるお店が少ない
- 下水道が不備
- 夜が暗い
- 中央道路では自転車の通り場所が無いに等しい

【まちの将来像】

空き店舗・空き家

- 空き家対策、所有者
- 空き店舗を利用する

駅前商業

- トナリエを充実する
- 人を中心に集める
- 駅の東に家電店あれば
- おしゃれな店があれば
- 食べる店が必要

高齢化に対応する町づくり

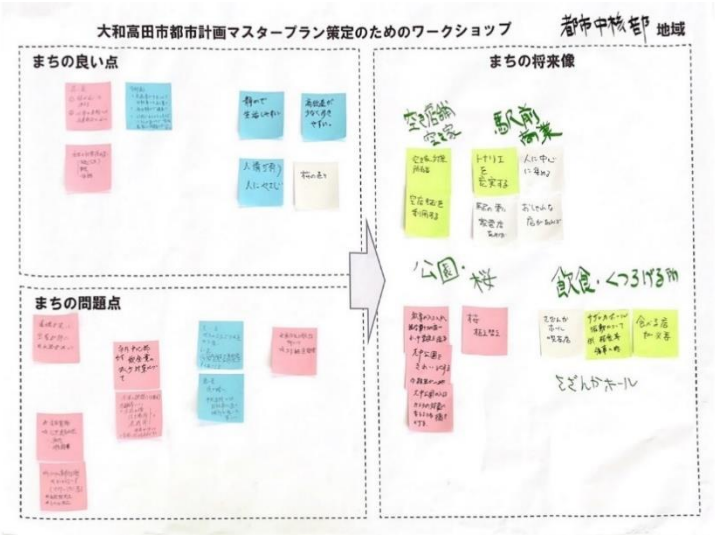
上下道の整備

公園・桜

- 教育に力を入れ進学率の良い小・中学校を造る
- 大中公園をきれいにする
- 大中公園の入口カメラの対象になるような橋をかける
- 桜の植え替え

飲食・くつろげる所―さざんかホール

- さざんかホール喫茶店
- さざんかホール活動について（例：軽食等、催事）



【総代ワークショップ】市北西部地域

【まちの良い点】

自然が静か
- 大谷山自然公園が近くにあり、自然になじみやすい
- 静かで住みやすい

コミュニティ活動
- ７月２日半夏生（祭）をしている
- グランドゴルフで集まる
- 地域でのゴルフ仲間で月一度のコンペ

生活の利便
- 車があれば便利
- 私鉄駅迄比較的近い
- 医師が近くで、安心である
- スーパーが多く買物の利便性が良い
- 買物が便利
- 町内に小学校・中学校も近い

ガソリン安い
- ガソリン代が多地域と比べて安い

【まちの問題点】

高齢化・若者流出
- 都市への転換
- 若者が大阪などへ出ていく
- 若年者居住者少ない
- 若者が少なくなって活気が低い
- 高齢者が多くなっている

空き家
- 空き家が多い
- 空き家が多く治安に不安を感じる
- 空き家が増えてきているように思う

道路事情
- 道路が狭い
- 高田市道の道路が狭く、電柱が多いので危ない
- JR・近鉄の踏切（近鉄高田駅）の混雑
- 町内と通過する車両が多い

水害
- 葛下川が、雨が多く降ると水路が氾濫する
- 町内水路が氾濫して、浸水することがある

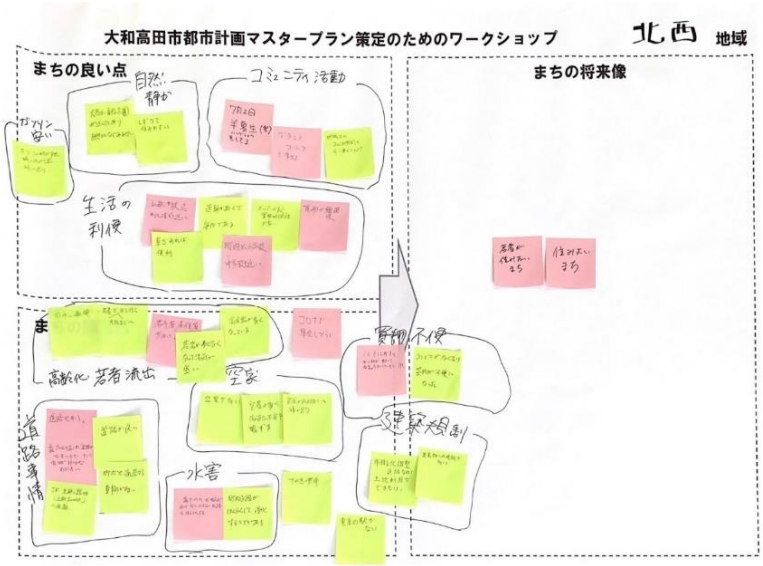
買物不便
- １人暮らしの人の買物が歩いて香芝のスーパーまで行く
- コンビニが無くなり、買い物が不便になった

建築規制
- 市街化調整区域なので、土地利用ができない
- 建築物への規制が多い

その他
- 下水道の整備
- 電車の駅がない
- コロナで集会しづらい

【まちの将来像】

● 若者が住みたいまち	● 住みよいまち



【総代ワークショップ】市北東部地域

【まちの良い点】

交通の便

- 中和幹線が開通して便利になった
- 鉄道の便は 3 路線があり便利である

生活の利便

- コミュニティバスの巡回が良い
- 買物はすごく便利。ショップ多い

自然が良い

- 自然が多い
- 地場産野菜が美味しい
- 車 30 分で自然環境の素晴らしいところにいける
- 空気もきれい

【まちの問題点】

住宅開発が必要

- 人口を増やすように高層のマンションを多く建てる
- 土庫小学校の北側に住宅を建築して、小学校へ行く生徒をもっと増やしてほしい

若年層流出

- 子育て世代へのハード・ソフトが弱い
- 若年層の流出呼び込み

土地利用規制が厳しい

- 市街地調整区域に準工・工業地域の創合増やす
- 市街化区域の改革
- 中和幹線周囲が市街化調整区域になっているのは何故か
- 松塚地区の市街化調整を外すようにしたらよいと思います。企業の誘致を進めるようにしたら

賑わいがない

- 市として市北東部特に北側の開発を考えているのか
- 中心街駐車場がない。集客力が低い
- 中和幹線沿いが淋しい。橿原、香芝は発展している。

道路インフラが弱い

- 通学の歩道が不備に感じる
- 北東部の道路で歩道が少ない
- 県道の道幅狭い
- 東西南北の道路の整備
- 生活道に通運車が通る
- 県道の照明少なすぎる

水害

- アンダーパスの水没
- 水路で大雨時水道が溢れる
- 中和幹線沿いが淋しい。橿原、香芝は発展している

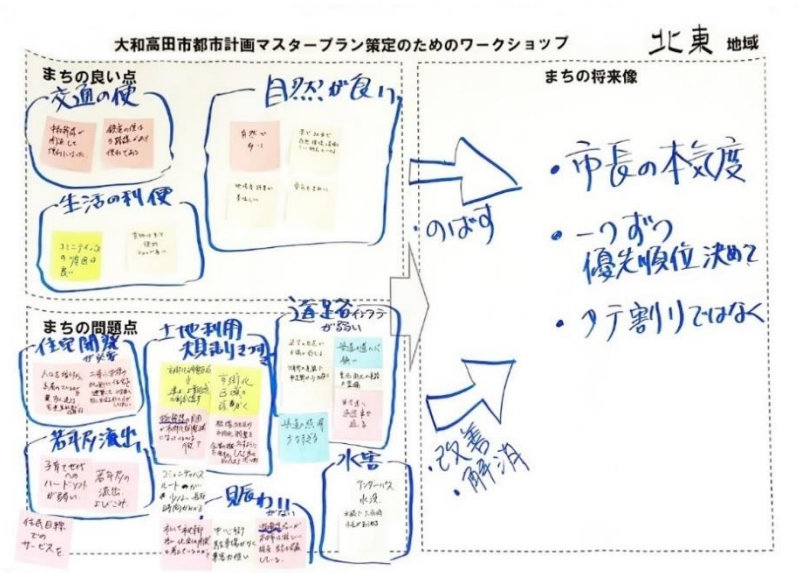
その他

- コミュニティバスルートが少ない。長すぎ時間かかる
- 住民目線でサービスを

【まちの将来像】

良い点を伸ばし、問題点を改善・解消する

- 市長の本気度
- 一つずつ優先順位決めて
- タテ割りではなく



【総代ワークショップ】市中央部地域

【まちの良い点】

交通
- 交通網の発達、JR・近鉄 2 駅、奈良交通バス
- 交通の便がよい（鉄道、道路）
- 鉄道の便が良い
- 駅が多くある、駅を利用すべき

利便性
- 通学・通勤が便利
- 学校が近い（小・中学校）
- 病院が多く便利

人
- 近所付き合いが良い
- 人が穏やかでのんびり

【まちの問題点】

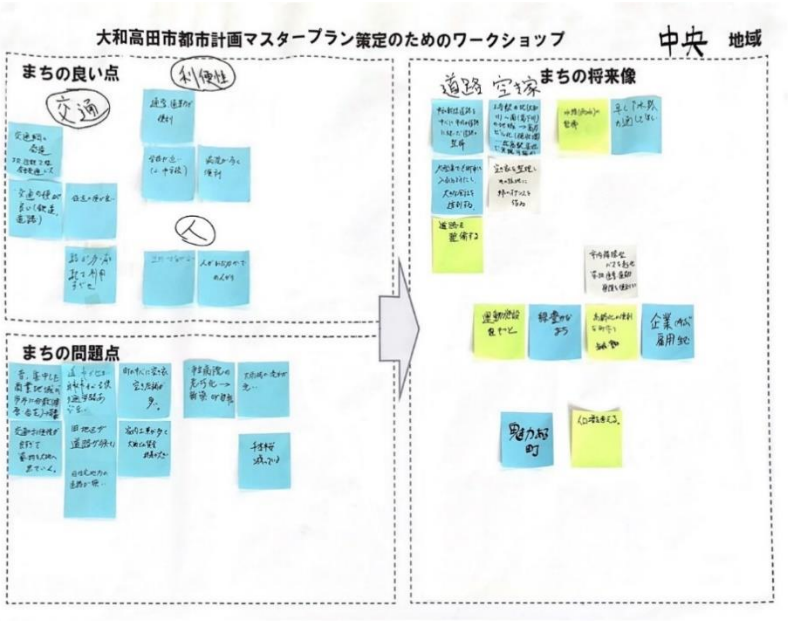
- 昔、集中した商業地域が市外に分散(橿原・香芝)閑散
- 交通の利便性が良すぎて買い物を大阪へ出ていく
- 道幅が狭い。自転車及び子どもの通学路が危ない
- 旧地区の道路が狭い
- 旧住宅地内の道路が狭い
- 町の中心に空き家空き店舗が多い
- 家内工業が多く大阪との賃金格差が大きい
- 市立病院の老朽化➡新築 or 移転
- 大雨時の流れが悪い
- 千本桜減っている

【まちの将来像】

道路
- 中和幹線道路を中心に市内の道路に継いだ道路の整備
- 大型車が町中に入れるようにし、大きな会社を誘致
- 道路を整備する

空き家
- 王寺駅の北（大和川）～南（葛下川）の地域➡高層ビル化（税収増）…近高駅周辺で実現可能か
- 空き家を整理し、その跡地に緑のオアシスを作る

その他
- 水路（雨水）の整備
- 早く下水路を通してほしい
- 運動施設がもっとほしい
- 緑豊かなまち
- 市内循環型バスを走らせ買物・通学・通勤・通院を便利に
- 高齢化の便利な町作る（病院・買物）
- 企業呼ぶ、雇用生む
- 魅力ある町
- 人口増を考える



【総代ワークショップ】市南部地域

【まちの良い点】

住みやすい
- 住宅地が増えた
- 特区になって宅地開発が進み、若い人口が増えている
- 土地が広い　車は１人１台止められる
- 子どもが増えた

交通・便利
- 交通の便が良い。京奈和道・南阪奈道のアクセスが良い。
- 買物（アルル）が便利
- 病院がある

自然・農業
- 自然が多い
- 田んぼがある

その他
- 遺跡は少ない

【まちの問題点】

道
- 道路が狭い
- 市の中央へのアクセスが悪い

高齢
- 村の半分は高齢者
- 独居老人が増えている

公園・遊歩道
- 小さい公園が少ない
- 総合公園は他市町村に比べて中途半端の大きさ
- 公園の平日人が少ない、閑散
- 葛城川堤防はあちこちで途切れているので、自転車道・遊歩道を整備して有効利用したい

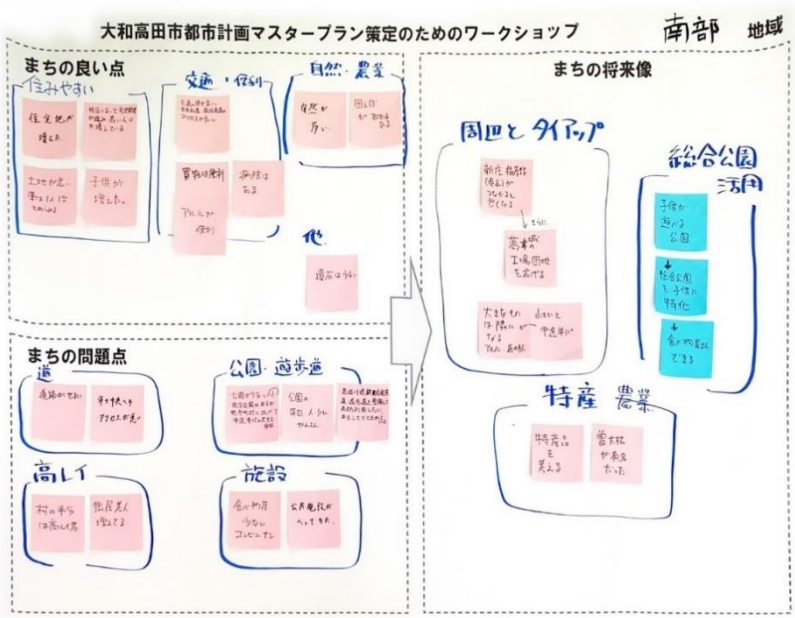
施設
- 食べ物屋が少ない。コンビニがない
- 公共施設が減ってきた

【まちの将来像】

周辺とタイアップ
- 新庄、福原線（県道）がつながると良くなる
  さらに⇒葛城の工場団地を広げる
- 近隣市の大きな施設と連携（アルル、道の駅）

総合公園活用
- 子どもが遊べる公園
- 総合公園を子供に特化
- 食べ物屋さんがある公園

特産・農業
- 特産品を考える
- 曽大根（ダイコン）が有名だった



【子育て世代ワークショップ】都市中核部地域

【まちの良い点】

便利
- 大阪に近く通勤しやすい、大阪へのアクセス
- 駅が多い
- 交通の便が良い

道・自転車
- 道が平坦
- 自転車でトナリエや駅が近いので便利
- コンパクトなまちで、暮らしやすい（スーパー、郵便局など）

新しい施設
- トナリエがある
- 市役所が新しくなった

大中公園
- 大中公園がある
- 大中公園の桜きれい

情緒
- 歴史地区のまち並みが良い
- 銭湯が三つある

子育て
- 子育てしやすい集まりがあって、ママ友ができる

住まい
- 賃貸（家賃）が安い

【まちの問題点】

道が狭い
- 電柱が邪魔
- 道路に置き石があって、車の通行の妨げになる
- 重要な道が狭い
- 狭い道が多く通りにくい
- 水路が危険、遊歩道になったらいいなぁ
- 河川周辺の道は特に汚い

公園・公共施設
- 大中公園におむつ替えコーナーがない
- 公園を増やしてほしい（狭い）
- 市役所以外の会館・公民館が活用されていない印象（子ども会館、コスモスプラザなど）

空き家
- 手入れされてない空き家
- ローカルの商店が減っている

安全
- 暗くて怖い
- 変わった家や人が多い、怖い

祭
- おかげ祭りが微妙
- だんじり祭りが減っている

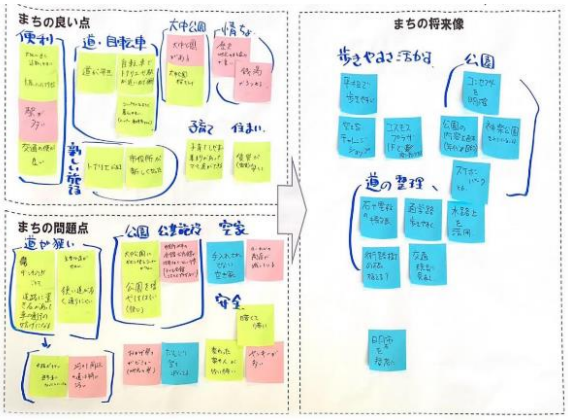
【まちの将来像】

歩きやすさ活かす
- 平坦で歩きやすい
- 空き家チャレンジショップ
- コスモスプラザ一階で商売できる

公園
- コンセプトを明確
- 公園の内容を直す（年代、目的）
- 神楽公園きれいになってる
- スケボーパークとか

道の整理
- 石や電柱の撤去
- 街路樹の根植える？
- 通学路歩きやすく
- 交通規制見直し
- 水路上を活用

その他
- 明石市を参考に



【子育て世代ワークショップ】市北西部・市北東部地域

【まちの良い点】

交通・便利
- 交通のアクセスが良い
- 駅、商業施設や公園・公共施設が歩いて行ける距離にある
- 程度良い環境と交通の便
- 買物がしやすい

子ども遊び場
- 東部こども館のお稽古や遊びがある
- ゆうゆうセンターで子どもが遊べる
- 馬見丘陵公園は本当に有難い

歩行者
- 歩いている人が多い（何かしら人の目がある）

【まちの問題点】

道路
- 夜道が暗い
- 歩道が少ない
- 道が狭い

災害
- 大雨になると保育所の前が浸水する
- ゲリラ豪雨で道が浸水する

公園
- 大中公園駐車場ない
- 公園は人目のある開けた場所に欲しい
- 公園が少ない
- 遊具が古い

子育て助成
- 出生の助成は使えるもの（ゴミ袋等）が良い

きぼう号
- きぼう号の本数を増やしてほしい

トナリエ
- トナリエにフードコートが欲しい

【まちの将来像】

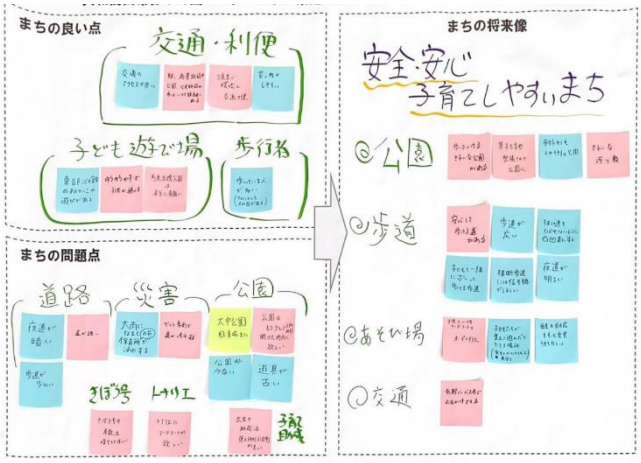
＜安全・安心　子育てしやすいまち＞

公園
- 歩いていけるきれいな公園がある
- 草木も含め、整備された公園に
- 市外からも人が来やすい公園
- きれいな河川敷

歩道
- 安心して歩ける道がある
- 歩道が広い
- 抜け道を飛ばせないよう凹凸道にする
- 子どもと一緒にボーっと歩ける歩道
- 横断歩道には信号機がほしい
- 夜道が明るい

遊び場
- 子どもと行けるフードコートとオープンテラス
- 子どもたちが集まって遊んだりできる場所（先生とかいてくれる見守り）
- 出生の助成をもっと充実させてほしい

交通
- 気軽にバス等でお出かけできる



【子育て世代ワークショップ】市中央部・市南部地域

1. 現況

【まちの良い点】

- 住宅が増えて、子どもの同級生が多い
- 長く住んでいる人が多く、まちの昔の話が聞けて地域への愛着が湧きやすい
- 学校が通いやすい
- 学校が近い
- 駅に出やすい
- バイパスが近い
- 自然豊か
- 夜静か
- 桜が綺麗

2. 上位計画

【まちの問題点】

- 駅近く（浮孔駅）外灯が少ない
- 道が狭い
- 道路が狭い
- 水路が危ない
- トラックが危ない
- 買物するところがない
- 買物する所がない
- 公園があっても駐車場がない
- 公園がない
- 市が管理する公園がない
- 住宅地は増えるけど、公園や広場がない
- 遊具がない
- 駐車場がない
- 保育所の質が悪い
- 古い、狭い
- 国道沿いが残念
- 病院が行きにくい
- 川沿い桜がもったいない

南部地域―【まちの問題点】

- プール先生がいない
- コミュニティプール公園の整備が中途半端
- 葛城市➡高田➡ 橿原へバイパス以外の道
- 川沿いの整備も中途半端、コミュニティプール

3. 市民アンケート

【まちの将来像】

交通
- コミュニティバス本数増やし老人・子育世代も、買い物しやすい交通環境
- （案）のりあいタクシー

コミュニティ
- 子どもを預けやすい場所がほしい
- 習い事へ通いやすい
- 病院集合

道路
- 道の整備、通学路
- 通学路に外灯を作ってほしい
- 防災の面でも公園・道路の利便性、安全性

公園
- 住宅地の近くに公園・広場を作る
- 公園
- 水遊びできる公園が欲しい！

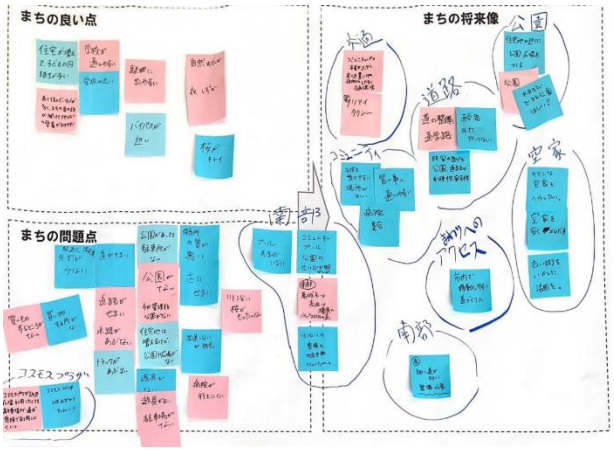
周りへのアクセス
- 市内で移動しやすい道づくりへ

空き家
- 危険な空き家を減らしたい
- 空き家を安く貸し出す
- 古い街を活かした活用を

南部地域―【まちの将来像】

- 細い道が多い➡整備必要

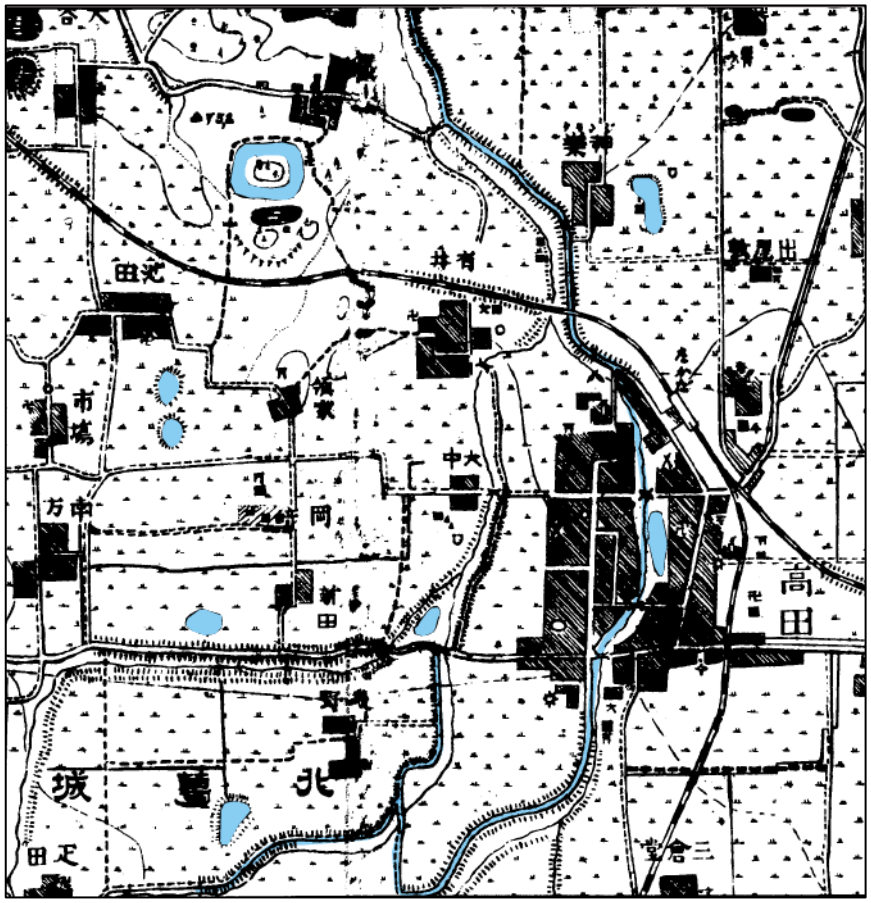
4. 市民ワークショップ



【付属図】

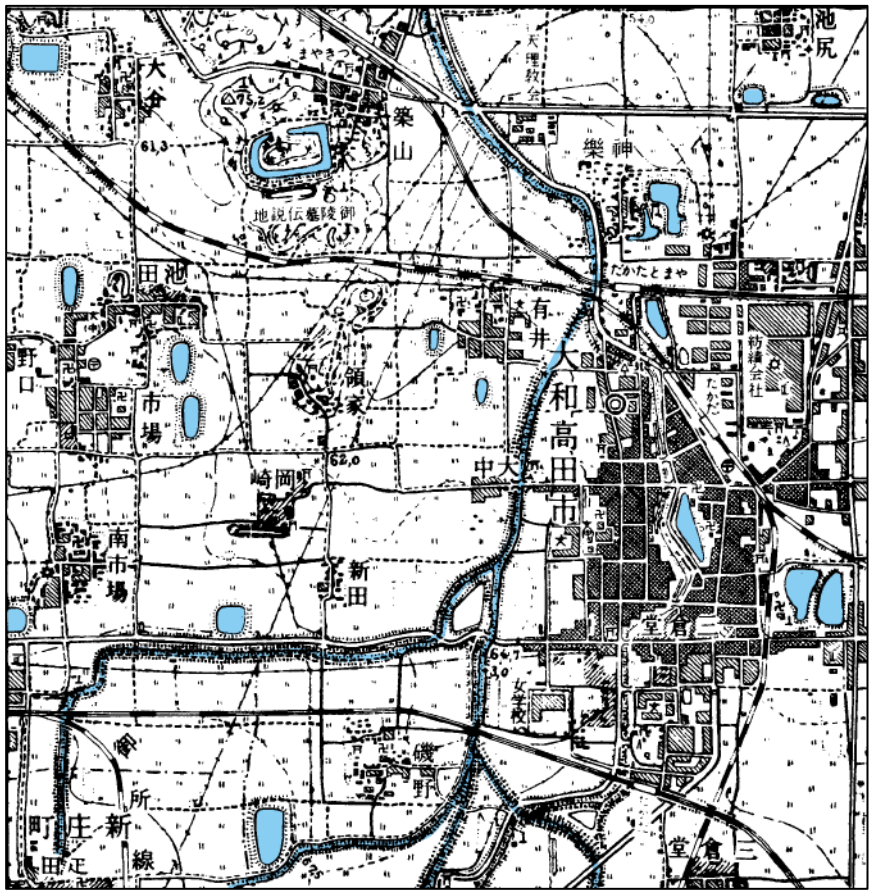
明治 30（1897）年頃
の大和高田市中心部

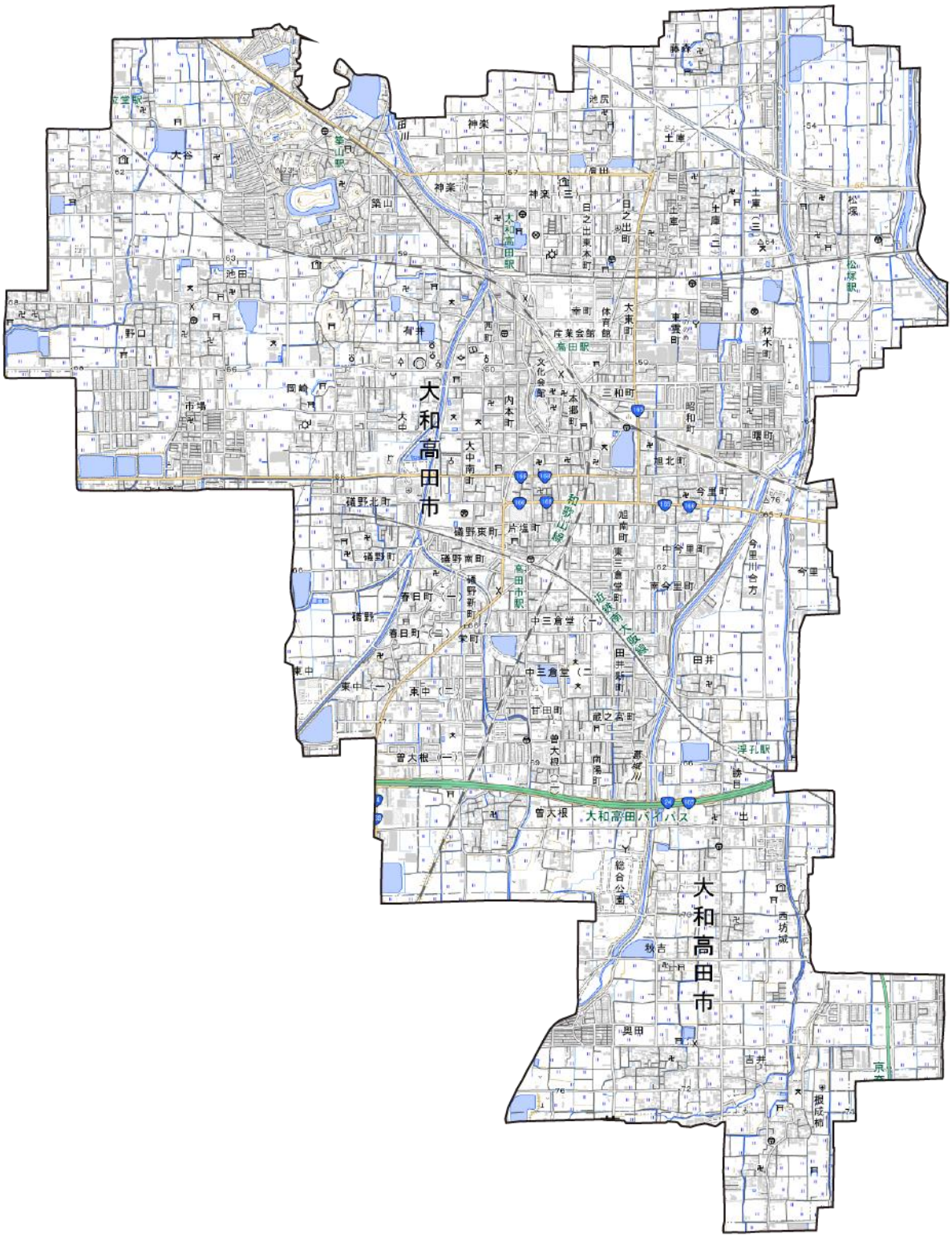
出典）山口恵一郎 編「日本図誌大系 近畿Ⅱ（普及版）」1973, 朝倉書店
一部加工して作成



昭和 22（1947）年頃の
大和高田市中心部

出典）山口恵一郎 編「日本図誌大系 近畿Ⅱ（普及版）」1973, 朝倉書店
一部加工して作成





現在の大和高田市

出典：国土地理院電子国土基本図

大和高田市

大和高田市都市計画マスタープラン

令和５年３月